KEIRIN 競輪補助事業

平成20年度

シニアネット構築研究会

シニアネット・フォーラム21 in 東京 2009

◇シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍◇

～シニアパワーで新しい文化を～

【報 告 書】

平成21年3月

財団法人ニューメディア開発協会

はじめに

現在、我が国には６５歳以上の高齢者が約2，８１９万人おり、実に人口比率で２２.1%となっております。一段と高齢化が進み、４.５人に1人が６５歳以上と言う状況であります。数年のうちには団塊の世代が高齢者の仲間入りをする等、高齢化はますます進み、少子化と相俟って２０５５年には６５歳以上の高齢者が４１%を占めることになると予測されております。ほぼ二人に一人が高齢者という時代がやってくるということになります。

こうした高齢社会にあって、旧通商産業省はかつて長寿社会対策及び情報化施策である「メロウ・ソサエティ構想」を提唱し、高齢者が情報技術（ＩＴ）を活用して、いつまでも生き生きとした生活を送るとともに社会のために活躍できる『高齢者自立型・参加型情報化社会』の実現を目指して参りました。

当協会は、かかる「メロウ・ソサエティ構想」を実現するため、長年にわたって様々な事業に取り組んで参りましたが、この「シニアネットフォーラム２１」は「シニア情報生活アドバイザー養成事業」等と共に、同構想実現のための当協会が取り組んでいる主要事業であります。

高齢者が数の上でメジャーとなる時代、かつて団塊の世代がそうであったように、高齢者のパワーが社会を変えていく、と言っても過言ではありません。これまでは「新しい文化を創る」のは若者の特権のように考えられて参りましたが、高齢化がますます進む今後は、まさに「高齢者こそ新しい文化を創り」、社会の主役として様々な形で社会を牽引していくことが求められて参ります。

世の中が急激に、かつ大きく変わろうとしている今こそ、高齢者の方々も、ご自身の意識や生活様式等自らの生き方を見つめ、自ら変革していく中、まさに「新しい文化を形成していく」ことが肝要です。

そうした中、自己実現の場を求め得意のＩＴを駆使して社会のお役に立ちたいとする高齢者同士が集い、高齢者へのＩＴ講習はじめ様々な社会参加活動を活発に展開している「シニアネット」が全国諸地域で活動しております。その高い理念や活動実績等を見るにつけ、「シニアネット」こそ、まさに「メロウ・ソサエティ構想」実現の担い手であり、高齢者の新しい生き方や新しい文化創出を具現化する担い手であると確信致しております。

シニアネットは、高齢者に“地域デビュー”を促し、多くの仲間と共に実り豊かなシニアライフを送るとともに、これまで培ってきた知識・技術・経験等を活かして再び社会に参加出来る機会をもたらしております。また自治体等との協働（コラボレーション）も積極的に展開し、地域の情報化促進や街づくり、地域振興等に欠かすことの出来ない強力なパートナーとなっております。高齢者にとって、地域社会にとってなくてはならない、極めて意義深いものであります。

当協会はこうした「シニアネット」が全国津々浦々にあってシニアが生き生きと活躍している姿を創出していくことが急務と考え、経済産業省や財団法人ＪＫＡ、全国のシニアネット諸団体のご協力を得て「シニアネットフォーラム２１」を開催して参りました。

そこで通算第１０回目となる「シニアネットフォーラム２１ in 東京 ２００９」を東京・神宮外苑の地で開催し、シニアネットの一層の普及と更なる活動の飛躍を図りました。

統一テーマ「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍～シニアパワーで新しい文化を～」のもとに、基調講演、特別講演、パネルディスカッション、ワークショップ、シニアネット交流広場の五本柱の構成とし、激しく変化する社会にあって、高齢者の生き方、シニアネットのあるべき姿そしてシニアネットの更なる飛躍と普及拡大について参加者全員で考える場と致しました。

定員を上回る多くの方々のご参加を得、熱心な議論と深い交流がなされるなど、お陰様で大変有意義なものとすることが出来たものと思っております。

この事業の成果を皆が共有し、広く活用し、シニアネットの普及、発展に貢献できることを願っております。そして、かかる活動を通して地域の振興に貢献できれば幸いであります。

平成２１年３月

財団法人ニューメディア開発協会

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
１．開催の主旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
２．実施要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
３．プログラム構成のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
４．実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １１
５．まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １２
６．プログラムの詳細
主催者挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １４
来賓挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １６
基調講演
講演Ⅰ「高齢社会に於けるアクティブシニアの新しい生き方－社会の主役に－」・・ １７
講演Ⅱ「ＩＴと暮らすシニアの安心と安全－ＩＴはシニアの強い味方－」・・・・・ ２６
特別講演「新しい時代のシニアネットとは－２０１０年代に向けて更なる飛躍を－」 ３２
パネルディスカッション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ４１
ワークショップ
テーマ１「シニアの生き甲斐を創出、魅力あるシニアネットとは」・・・・・・・・ ５９
テーマ２「シニアの豊かな経験を地域に活かす、事業型シニアネットのすすめ」・・ ７１
テーマ３「シニアへのＩＴ普及活動の更なる飛躍に向けて」・・・・・・・・・・・ ７８
テーマ４「社会貢献はシニアネットの使命、行政との協働を促進」・・・・・・・・ ８３
テーマ５「シニアネットの運営を究める」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ９２
シニアネット交流広場・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ １００
クロージングセッション ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０５

付属資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０８

１．開催の主旨

＜高齢化社会の到来＞

現在我が国は６５歳以上の高齢者が約 2,819 万人、人口比率で２２．１%となっている。また一段と高齢化が進み、４．５人に１人が６５歳以上と言うことになる。

高齢者が数の上でメジャーとなる時代には、高齢者のパワーが社会を変えていくと言っても過言ではない。今後、高齢者が社会の主役として、新しい文化形成の担い手としてさまざまな形で活躍することがますます重要となってくる。そこでは、高齢者が自身の意識や生活様式等自らの生き方を変えていくことが大切になっていく。

＜シニアネットの活躍＞

そうしたなか、「シニアネット」が各地にあって、高齢者へのＩＴ講習会の開催、長年培ってきた知見やノウハウ等にＩＴを駆使して地域に根差したさまざまな活動を展開している。

シニアネットは、高齢者に地域デビューの機会をもたらし、シニアライフを豊かで楽しいものにするなど、高齢者の生きがいの創出に大きな役割を果たしている。高齢者の持つ豊かな知識・技術・経験等は、自治体等と協働（コラボレーション）することで、地域の情報化促進はもとより、街づくり、地域振興等に大きく貢献するものである。このようにシニアネットは、高齢者にとっては勿論、自治体・企業にとっても大変重要な組織であると言える。

＜「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指す＞

当協会は、旧通商産業省（現経済産業省）が提唱された「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指すにあたり、こうしたシニアネットの活動こそ極めて重要で、欠くべからざるものと認識し、シニアネットを強力なパートナーと位置づけ、連携を強化してきた。

こうした経緯から当協会は、シニアネットが全国津々浦々、至る所にあって、高齢者が生き生きと活躍している、そのような姿を創出していくことが急務と考えている。その為、シニアネットの普及・拡充を図るべく、これまで経済産業省や財団法人日本自転車振興会（現財団法人ＪＫＡ）のご指導ご支援を得て、シニアネット諸団体等と協力しあって「シニアネットフォーラム２１」を全国で開催してきた。

＜「シニアネットフォーラム２１」を東京で開催＞

この度は「シニアネットフォーラム２１　ｉｎ 東京　２００９」を東京で開催することとし、「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットで更なる飛躍！～シニアパワーで新しい文化を～」と題し、シニアネットのより一層の普及と活性化を図ることにした。

＜シニアライフや豊かな高齢社会の構築に貢献することを期待する＞

既にシニアネットに加わって活動されている方々は勿論、「地域デビューをしてみたい…」、「シニアネットに参加したい…」、「何か地域のために活動してみたい…」等々を考えている高齢者や団塊世代の方に参加していただいた。また、「高齢者と協働して施策や事業に取り組みたいが…」とお考えの自治体や企業の関係者の方など、幅広い分野の方々にもご参加頂き、熱い議論と深い交流を通して、シニアネットのあり方を考え、活力ある高齢社会の創出につながる有意義なものにしていきたい。そして、参加された皆様の今後のご発展につなげて頂きた

いと思う。
　このフォーラムがきっかけとなって、シニアネットの普及・拡充が一層加速され、高齢者の充実したシニアライフや豊かな高齢社会の構築に貢献できることを期待する。

２．実施要綱

（１）日時
　１日目：平成２１年２月２６日（木）１０：３０～１７：４５
　２日目：平成２１年２月２７日（金）１０：００～１５：４０
（２）会場　：日本青年館
　〒160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘町７番１号
（3）主催：財団法人ニューメディア開発協会
（4）後援：経済産業省
（5）協力：（五十音順）
　株式会社ジャストシステム
　トレンドマイクロ株式会社
　ニフティ株式会社
　マイクロソフト株式会社
（6）定員：約２００名
（7）参加費：無料
（8）参加対象：
・シニアネットへの参加や新規設立等シニアネットに関心のある方
・シニアネットのメンバーの方
・団塊の世代の方
・シニア情報生活アドバイザーの方
・自治体で高齢者問題やコミュニティ・ビジネス、NPO活動推進をご担当の方
・企業で社会貢献、シニアマーケティング、バリアフリーなどシニア向け商品・サービスなどの企画開発等に携わっておられる方
・コミュニティ・ビジネスやNPO活動に取り組んでおられる方　等々

３．プログラム構成のポイント

　開催の趣旨に即し「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍～シニアパワーで新しい文化を～」というキャッチフレーズのもとに、プログラムを、基調講演、特別講演、パネルディスカッション、ワークショップ、シニアネット交流広場の五本立てとし、高齢者の、そしてシニアネットの一層の飛躍を図る内容とした。
（１）基調講演　Ⅰ
　テーマ：『高齢社会に於けるアクティブシニアの新しい生き方－社会の主役に－』
　講師：島田 晴雄氏（千葉商科大学 学長）
　我が国の高齢化は急速に進み、2055年には総人口の４１％が６５歳以上になると見込まれている。シニアが数の上でもメジャーとなる時代、まさにシニアがこれからの社会を変えていく、と言っても過言ではない。「活老なくして繁栄なし」と言われている通り、高齢者が主役になって社会で活躍することがますます重要となってくる。

そうした中、多くのシニアが「シニアネット」に集い、得意のＩＴを駆使しながら元気に、楽しみながら、ＩＴ講習などをはじめボランティア活動に邁進し、豊かで充実したシニアライフを目指している。シニアネットはシニアの生きがいづくり、地域の振興にと重要な役割を果たしている大変有意義な組織であり、シニアが主役で活躍するのに、その普及拡大が急務である。

かつてメロウ・ソサエティ構想推進に関わったこともある、我が国を代表するエコノミストで、小泉内閣の内閣府の特命顧問を務めた学識経験者より、吹き荒れる世界同時不況にシニアも否応なく呑み込まれようとしている厳しい局面にあることも考慮したとき、シニアは今後、どう生きるべきか、シニアの社会参加・市民活動の意義等について言及し、その生き様について語って頂いた。

（２）基調講演 II

テーマ：『ＩＴと暮らすシニアの安心と安全－ＩＴはシニアの強い味方－』

講師：黒木　直樹氏（トレンドマイクロ株式会社 上級セキュリティエキスパート）

高度情報化社会が進展する中、ＩＴはますますシニアの生活に深く関わってきている。ＩＴと暮らすシニアにとって、電子メールやインターネットの利活用は今やシニアライフを実り豊かにするものとして日常生活に欠かせない存在になってきているが、そこには様々な“危険”が待ちかまえている。今後、日進月歩を続けるＩＴがシニアの生活にいかなる影響をもたらすのか、そしてシニアライフにいかなる夢や安らぎをもたらすのか、シニアならずとも大きな関心事である。近未来のＩＴはシニアに優しいものとなり、社会参加を支援する。

そこで、日々、パソコンやインターネットの安心と安全に取り組んでいる専門家から、今後の技術動向を踏まえながら、ユビキタス時代を生きるシニアのＩＴライフがどうなるか、展望してもらった。

（３）特別講演

テーマ：『新しい時代のシニアネットとは－２０１０年代に向けて更なる飛躍を－』

講師：吉田 敦也氏（徳島大学・総合科学部 教授、地域創生センター長）

我が国にシニアネットが誕生してから１０年余りが経過し、０８年は古くからある老舗のシニアネットが続々と創立１０周年を迎えた。この間、シニアへのＩＴ普及等地域の情報化や活性化に大きな成果を挙げてきた。少子高齢社会にあって、シニアパワーが社会を牽引し、変えていくことが期待されている中、このような「シニアネット」こそ、その牽引役を担うことが期待される。

団塊の世代が続々定年を迎え、６５歳以上の人口が急増する２０１０年代を間近に控え、これからの社会に相対するにシニアネットもまた進化することが求められている。

そこで、シニアネット等市民活動に大変造詣が深く、自らもシニアネットの責任者としてその設立や運営に関わるなど実証的な研究活動も行い、この分野の第一人者である学識経験者より、新しい時代に相応しいシニアネットのあり方について展望してもらった。

（４）パネルディスカッション

テーマ：『シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍』

我が国にシニアネットが誕生して以来、１０年余が過ぎ、この間多くのシニアネットが全国に誕生し、各地でシニアの情報リテラシー向上を通してその活性化や地域の情報化促進等有意義な活動を展開し、大きな成果を収めてきている。少子高齢社会だからこそ、シニアが主役となって地域を盛り立てて行くことが求められている中、多くのシニアが集う「シニアネット」が、その牽引役を担うことが期待されている。

団塊の世代がシニアの仲間に加わろうとしている等、新しい局面を迎えようとしている今日、２０１０年代の新しい時代におけるシニアネットのあり方について議論することは極めて意義のある重要なことである。

そこで、各地で活躍中のシニアネットの代表者にお集まりいただき、これまでの経緯を振り返る中、次の１０年に向けて、シニアは、そしてシニアネットはどう変わり、どう進化すべきか大いに論じてもらった。

（５）ワークショップ

ワークショップは、以下の通り、テーマ１（生きがい）、テーマ２（コミュニティ・ビジネス）、テーマ３（ＩＴ普及）、テーマ４（行政とのコラボレーション）、テーマ５（シニアネットの運営）の５つのテーマで構成した。

テーマ－１　「シニアの生き甲斐を創出、魅力あるシニアネットとは」

高齢社会において、シニアが地域でこそ最大の社会的資源である言われているが、とりわけシニアネットは、その活動実績等を通してシニアの良き拠り所、資源の源泉として大きく期待されている。多くのシニアの方々は、自ら“地域デビュー”を果たし、シニアライフを豊かで実りあるものにしたいと切望されているが、それを実現する場としてシニアネットは大きく期待され、実際、その役割を果たしてきた。高齢化がますます進む中で、このようなシニアネットが全国津々浦々にあって、シニアが地域で生き生きと暮らしている、そうした姿を創出していくためにより一層の普及と拡充を図る必要がある。

これまでの活動を踏まえ、ますます多くのシニアがシニアネットに参加し、生き生きと活動できる魅力あるシニアネット像を皆で考え、実現させていくことは大変意義深いことである。

そこで、我が国のシニアネットの老舗中の老舗であり全国ネットで活動を続けている「メロウ倶楽部」と山口県全域のシニアのためにと目して活動している「ＮＰＯ法人シニアネット光」よりお話しいただき、シニアが喜んで参加する魅力あるシニアネットとはどのようなものか、団塊の世代の参加を視野に入れながら、今後の姿を探った。

テーマ－２　「シニアの豊かな経験を地域に活かす、事業型シニアネットのすすめ」

永年培ってきた知識・経験・ノウハウや知恵を生かして社会の役に立ちたい、出来る限り生涯現役でいたいという意欲を持ったシニアは多い。そうしたシニアの強い意向を反映して、コミュニティ・ビジネスを主な活動とする「事業型」のシニアネットが増えつつある。まさに「人材の宝庫」であるシニアネットだからこそできる活動であると言える。厳しい世の中を迎えて、こうした「事業型」シニアネットへの関心はますます高まっている。

そこで、「事業型」シニアネットの草分け的存在で我が国を代表する「ＮＰＯ法人シニアＳＯＨＯ普及サロン・三鷹」とコミュニティ・ビジネスを提唱し、その活動のサポートをしてい

る専門家よりの具体的な実践に向けた課題や提言に基づき討議した。

テーマ－３　「シニアへのＩＴ普及活動の更なる飛躍に向けて」

シニアネットは、その本業とも言える「ＩＴ講習」をベースに地域社会の情報化、とりわけシニアの情報リテラシー向上を促進し、社会に活力をもたらしている。シニアネットならではのきめ細かな教え方や仲間同士で楽しく、気楽に学び合える雰囲気がシニアに喜ばれ、ＩＴ普及に今や必要不可欠な存在と言っても過言ではない。自治体との協働も進み、地域ＩＴリーダーとして地域への貢献も大きなものがある。

これまでの様々な活動によりシニアのＩＴ人口は年々増加しているとは言うものの未だシニア全体の十数パーセントに留まっている。今後は、まだパソコンに触ったこともないといったシニアへの普及が課題となるなど、新しい状況に対応していく必要がある

そこで、鳥取県米子市や北海道室蘭市を核に活躍している「シニアネット米子」や「ＮＰＯ法人シニアネットいぶり」の活動を通して、シニアへのＩＴ普及はこれからどうすればいいか、より良いＩＴ講習の方法等も含めた課題や提言に基づき討議した。

テーマ－４　「社会貢献はシニアネットの使命、行政との協働を促進」

多くのシニアネットは自ら持てる力をシニアのために、地域のために役に立ちたいと熱い想いを抱き、活動を展開している。シニアネットがその活動を通して社会に貢献しようとするとき、関係自治体や企業等と協働（コラボレ－ション）して事業を展開することは極めて重要である。

一方、少子高齢化と高度情報化が同時進行する社会にあって、自治体にとっても、電子自治体や地域の情報化促進等の諸政策を進める上で、シニアネットやシニアの豊富な経験や優れたノウハウを活用することは重要な要素となってきている。シニアネットの提案を政策として実現するなど、両者の協働（コラボレーション）は必須である。

そこで提案型で県との協働事業を展開するなど行政との連携を通して地域社会に貢献している「ＮＰＯ法人あいてぃ塾ぐんま」や県の情報化を促進するための人材育成として地域ＩＴリーダー養成をシニアネットと協働で進めている「徳島県」から課題を提供していただき、コラボレーションを一層促進するための方策等についての課題や提言に基づき討議した。

テーマ－５　「シニアネットの運営を究める」

シニアネットの活動がシニアを元気にし、地域に活力をもたらすものとして各地で大きく評価されてきており、今後もますますその活動が注目されていく。その為にシニアネットが常に進化し続け、いつまでも元気に活動を続けていくことが肝要となる。これまでの活動の実態を踏まえ、組織・活動形態・資金・会員規模等々シニアネットの運営のあり方について、抱えている課題についての問題提起に基づいて今後の運営のあるべき方向について皆で議論することは極めて重要である。

そこで、全国でも草分けのシニアネットで、自由な雰囲気の中で楽しく活動している東京の「いちえ会」や県内各地にサロンと称する支部を設け、本部の統制の元、地域に根差した活動を展開している「熊本シニアネット」からの課題提供をもとに、シニアネットのより良い運営のあり方について討議した。

（５）シニアネット交流広場

全国各地で活躍しているシニアネットの活動状況を展示しあい、参加者同士がフェース・ツー・フェースで意見交換し相互交流を深め、お互いの活動の向上に役立てる場とした。また、これまで多くの参加者から大変好評を得ている協力企業のお役立ちコーナーも設けた。参加者に今後の活動の参考になることを期待したい。

プログラム

２月２６日（木）　日本青年館　国際ホール（３階）

10:00～10:30	受付	
10:30～10:45	開会 オープニング セッション	・主催者挨拶 岡部 武尚（財団法人ニューメディア開発協会 理事長） ・来賓挨拶 野口 聡氏 （経済産業省 商務情報政策局 情報政策課 情報プロジェクト室長）
10:45～12:00	基調講演1	「高齢社会に於けるアクティブシニアの新しい生き方 －社会の主役に－」 島田 晴雄氏 （千葉商科大学 学長）
12:00～13:00	休憩（昼食）	
13:00～14:00	基調講演2	「ITと暮らすシニアの安心と安全－IT はシニアの強い味方－」 黒木 直樹氏 （トレンドマイクロ株式会社 上級セキュリティエキスパート）
14:00～15:00	特別講演	「新しい時代のシニアネットとは －２０１０年代に向けて更なる飛躍を－」 吉田 敦也氏（徳島大学・総合科学部 教授、地域創生センター長）
15:10～17:45	パネル ディスカッション	「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍」 ・コーディネーター 吉田 敦也氏（徳島大学・総合科学部 教授、地域創生センター長） ・パネリスト（五十音順） 斎藤 富士夫氏（ＮＰＯ法人湖南ネットしが 理事長） 塩見 信雄氏（ＮＰＯ法人シニアネットひろしま 理事長） 砂川 正男氏（ＮＰＯ法人沖縄ハイサイネット 会長） 中西 建策氏（ＮＰＯ法人おおさかシニアネット 副理事長） 柳原 正年氏（富山社会人大楽塾 代表）

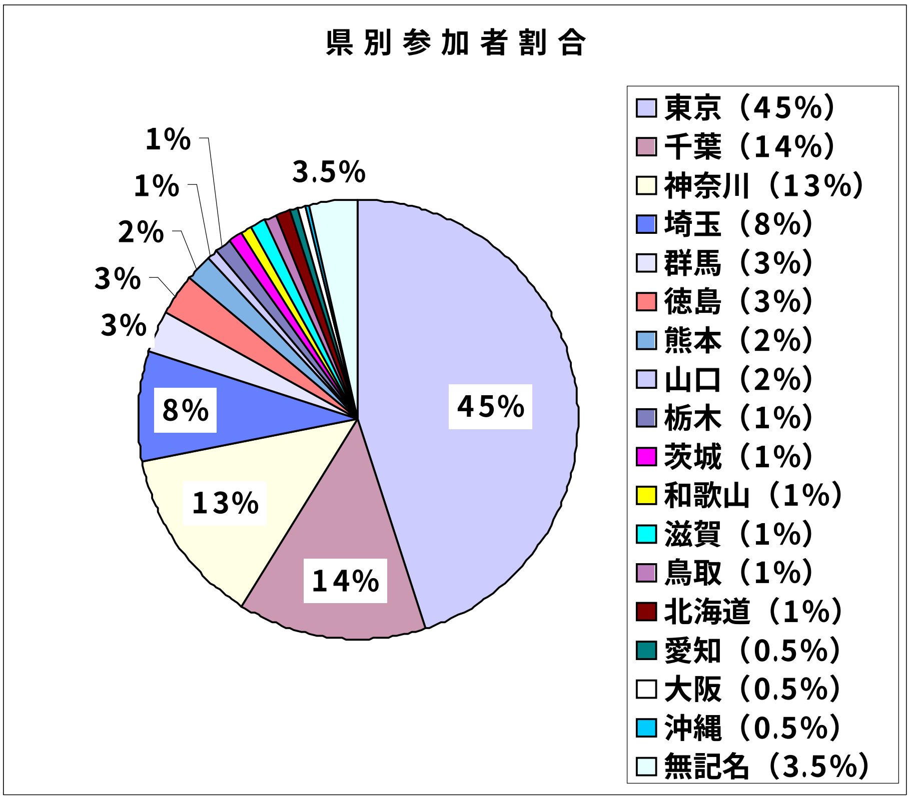
２月２７日（金）　日本青年館　国際ホール（３階）　会議室（３階　５階）

9：30～10：00	受付	
10：00～13：00	ワークショップ	【テーマ1】 「シニアの生き甲斐を創出、魅力あるシニアネットとは」 課題提供者： 福森　宏昌氏（ＮＰＯ法人シニアネット光　代表理事） 小池　達子氏（メロウ倶楽部） 【テーマ2】 「シニアの豊かな経験を地域に活かす、事業型シニアネットのすすめ」 課題提供者： 堀池　喜一郎氏 （ＮＰＯ法人シニアＳＯＨＯ普及サロン・三鷹　顧問） 細内　信孝氏 （コミュニティ・ビジネス・ネットワーク　理事長/ コミュニティビジネス総合研究所　代表取締役所長） 【テーマ3】 「シニアへのIT普及活動の更なる飛躍に向けて」 課題提供者： 山崎　憲一氏（シニアネット米子　理事長） 秋山　幸彦氏（ＮＰＯ法人シニアネットいぶり　理事長） 【テーマ4】 「社会貢献はシニアネットの使命、行政との協働を促進」 課題提供者： 小笠原　章氏 （徳島県　県民環境部地域振興局　地域情報政策課　課長） 中司　和雄氏（ＮＰＯ法人あいてぃ塾ぐんま　理事長） 【テーマ5】 「シニアネットの運営を究める」 課題提供者： 大林　依子氏（いちえ会　主宰） 中島　敬也氏（熊本シニアネット　代表）
13：00～14：30	シニアネット交流広場 休憩（昼食）	シニアネットの成果展示による相互交流の場
14：30～15：30	ワークショップ発表	各テーマの討議内容発表（発表者：各コーディネータ）
15：30～15：40	クロージングセッション 閉会	「総括」 生部　圭助氏（ＮＰＯ法人自立化支援ネットワーク　理事長）

４．実施状況

（１）参加者

２日間で延べ約３２０名もの参加があり、定員を大きく上回る結果となり、盛況裡に終えることが出来た。参加者の熱心かつ活発な意見交換や質疑応答がなされるなど、大変有意義なものとすることができた。



参加者の年齢構成は例年同様６１歳以上の方が７１％と主力を占めた。これまでは６１歳から６５歳前までの方が最大数を占めてきたが、今回は６６歳から７０歳までの方が最多の３２％を占めた。本フォーラムの高齢化が進んだということかと思うが、反面、定年を迎えている団塊の世代の参加が課題と言えるかも知れない。ただ、６０歳以下の方の参加が２４％あったことは、若い世代にもシニアネットへの関心が高まってきていると見ることができる。

また、今回も自治体関係者の参加は７％程度と、ほぼ例年通りであったが、少子高齢化がますます進む中、更なる増大が課題と言える。

なお、男女比率は男性７９％、女性２１％で、女性の参加が例年に比べ数ポイント増加した。

（２）プログラムの実施概要

今回は、基調講演Ⅰ、同Ⅱ、特別講演、パネルディスカッション、ワークショップ（５つのテーマについて、５つの分科会に別れて実施）、シニアネット交流広場の５本柱で行った。

我が国でシニアネットが誕生し約１０年が経過したこと、団塊の世代が数年後には６５歳以上になってシニアの仲間入りを控えシニアの人口が急増すると見込まれること、１００年に一度の大きな不況と言った激動の時代に遭遇していること等々を鑑み、これからのシニアネットはどうあるべきか、シニアの生き様はどうあるべきかを中心に、皆で考え、議論出来るよう、全員参加型の内容で実施した。

各プログラムの内容については、その骨子を別項に記すこととする。

５．まとめ

①大変盛況のうちに活発な議論や質疑応答が行われた

当初計画を上回る多くの参加者を得、大変盛況のうちに終えることが出来た。我が国でシニアネットが誕生し約１０年が経過したこと、団塊の世代が数年後には６５歳以上になってシニアの仲間入りを控えシニアの人口が急増すると見込まれること等新しい節目を迎えつつある今日、これからの時代に合ったシニアの生き方やシニアネットのあり方はどうあるべきか、を中心に日頃抱えている共通する諸問題等について参加者全員が一緒になって考え、議論出来るよう、全員参加型の内容で実施したが、二日間に亘り熱の籠もった活発な議論や質疑応答が行われ、更に深い交流がなされるなど、参加者の積極的な参画により充実したものとすることが出来た。

②シニアネットは「生甲斐」であり「もっとも頼りになる存在」

十数年前にシニアネットが我が国に誕生して以来、年々各地で増え続けてきている。そこで、今回初めての試みとしてシニアにとって、シニアネットが如何なる存在になってきているか、を尋ねてみた。

「自分の居場所」、「生活に必須なシステム」であると日常生活の中に深く関わってきており、「自己実現」、「楽しい仲間づくり」、「社会参加、社会貢献の具体的な方策」といった重要な存在となってきていることが伺えた。まさに「生甲斐」となって「もっとも頼りになる存在」として定着してきているようである。

こうした現状を知るにつけ、今後の普及、拡大がますます重要であるとあらためて認識した。

③フォーラムに参加した参加者の意識が高まった

アンケート結果に見られるように、参加した動機として「シニアネットの活動に生かしたい」、「シニアネットの参加に役立てたい」と答えた方が８４％であったが、参加した結果、その比率が９８％に大きく伸びた。これは参加する前は「シニアネットというものを詳しく知りたい」と答えた方が、参加後には「参加したい」に意識が変わったことが大きく影響していると言える。また、参加する前は「シニアネットの設立」を考えている人は１％であったが、参加後は３％に上昇した。

このフォーラムをきっかけにして、参加者の意識が高まったと見ることが出来、大きな成果を挙げることが出来た。この意識の高まりは、必ずやシニアネットの普及や拡充につながるものと確信している。これからが大変楽しみである。

④行政とのコラボレーションへの期待が大きい

少子高齢化が一層進む中、シニアネットと行政とのコラボレーション（協働）は地域振興のために、地域の円滑な運営のために、これから益々必要不可欠になっていくものと思われる。

シニアネットの活動はすぐれて社会性を帯びたものであり、シニアネットが地域を支える側に立つことは、高齢社会の必然性とも言える。自治体等行政側も、諸施策の企画・遂行に当たりシニアの豊富な知見やノウハウ等を必要としてきている。

今回も、フォーラムに参加された自治体等の方にアンケートで問うたところ「協働したい」、「出来れば協働してきたい」と回答された方が８４％であった。一昨年の結果よりもやや低い比率となったが、「是非協働したい」が３６％と、一昨年の２倍程に増大していることは、一

つの切実感の現れかとも思われる。「協働を全く考えていない」との回答の中でも温度差はあるものの、「相談相手になっていただきたい」との意見も見受けられた。

全国的な事例を見ても、シニアネットと自治体等との協働はいろいろな形でなされてきており、それぞれ成果を挙げてきている。行政側の良きパートナーとしての地位を築いてきており、これを一つの契機として、全国的に協働の大きな渦が起こることを切に願うものである。

⑤シニアネット交流広場へ過去最大の出展

シニアネット交流広場の出展数が過去最大の２０ブースになった。１９ものシニアネットや協力企業の参画を得て行ったが、「それぞれのブースにみな活気があり、展示も工夫され良く特徴が出ていて充実していた」と好評であった。「全国のシニアネットの活動を実際に見ることが出来、大変参考になった」といった感想を多く頂くなど高い評価を頂いた。「自分がシニアになったとき、こんなに元気でいられるだろうかと思った」と率直な感想も頂いた。「良い企画」であり「２日目だけでなく１日目も交流広場を」とのご要望も頂いた。

また、これまで会場が狭くご迷惑をおかけしてきたので少しでも広くするよう努めたが「今年は特に場所も広く内容も良かった」と評価を頂いたのは幸いであった。今後とも、より充実した深い交流が出来るよう事務局として一層の向上を図っていきたいと考えている。

■オープニング・セッション

主催者挨拶（要旨）
岡部　武尚
（財団法人　ニューメディア開発協会　理事長）

皆様おはようございます。「シニアネットフォーラム２１　in 東京2009」を開催しましたところ北海道から沖縄まで、全国から大勢の方々にご出席いただき、まことにありがとうございます。

さて、今や日本の少子高齢化が世界最速で進んでおり、６５歳以上の人口が2,819万人、全人口の２２．１％を占めるまでになりました。４．５人に一人が６５歳以上ということです。これが 2055 年にはなんと４１％を占めるという状況と推測されております。しかも最近では団塊世代の第１陣の方が定年を迎えましてシニアの仲間入りをしております。シニアが以前にもまして増加しています。いままさに大きく環境が変わり始める2010年代を迎えるという節目の年ではないかと考えられます。

また、少子高齢化が進んでいますが、それとともに労働力減少傾向が続いておりまして今後の経済成長を支えるという意味から非常に心配をしています。そういう中でシニアがまだまだ第１線で働き活躍することが必要ではないかというふうに思われています。さらにシニア自身でも価値観の多様化が進んでおり、ご自身の意識や自らの生き方を見つめなおして自らが変革していくことも肝要ではないかというふうに思います。今後、シニアが新しい文化を作る。社会の主役となり、社会を牽引していく、社会を変えていくといっても過言ではないと思います。このような社会の問題を考えまして経済産業省と当協会とは平成２年度からメロウソサイエティ構想を提唱いたしまして、現在推進しているところです。シニアが情報技術を活用しいつまでも円熟した生きがいのある豊かな老後を送れるというまた、社会に貢献できるような高齢者自立参加型の情報化社会を作ろうという構想です。

今日ここに開催しておりますシニアネットフォーラムもメロウソサイエティ構想の一環でございます。平成２年度に立ち上げまして今年で丁度１０年目を迎えたわけです。現在では１１５団体がシニアネットの活動をしております。またシニアネットで養成しているシニア情報生活アドバイザーの人数も2,950名を超えており、まもなく3,000名の大台に到達する状況です。いよいよシニアネットも第２フェーズを迎えたというふうに考えられます。これからのシニアネットのあり方を考えることが、今現在、重要ではないかと思います。

シニアネットの役割は、一つはシニアが自己実現の場を求めて得意のＩＴを駆使して社会のお役に立ちたいというシニア同士が集まり、さまざまな社会活動を活発に展開して高齢化社会発展の牽引役になるということ。もう一つは、最近特に高齢者のふるさと帰りという傾向が進んでいますが、再び皆様が地域でデビューを果たし、地域コミュニティの活性化等の地方分権の時代にふさわしい貢献をしていくこと。そのために自治体とか地域の企業等々との協働（コ

ラボレーション）を推進することが肝要ではないかと考えます。

今や高齢者がメジャーな時代になったといわれています。シニアの方々がこれまで培ってきた知識・技術・経験を十分に活用して社会に再び参加し貢献していただきたい。そして、シニアライフを楽しく豊かに生きがいのある人生作りをするとともに新たなチャレンジをすることが必要だと思っています。

今回のシニアネットフォーラムでは「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍〜シニアパワーで新しい文化を〜」をスローガンに開催しています。

お忙しい中、各界の指導的立場におられる方々にご出演いただきました。どうぞ２日間、ご出席の皆様方にはぜひとも多くの方々と交流を深めていただきますようお願いをいたしまして、開会の挨拶といたします。

■オープニング・セッション

来賓挨拶

野口　聡氏

（経済産業省商務情報政策局情報政策課　情報プロジェクト室長）

現在、我が国での高齢化は、欧米先進国に例を見ないことでございまして、今後ともその流れは変わらないということです。その中で高齢者の方々が社会の中でどのような活動をされるかということは日本国、我が国にとって大きな影響を与えることでございます。高齢者の方々の元気がなくなると日本全体も元気がなくなります。高齢者の方々が病気をせずにいきいきと活動され、積極的な消費活動をされ、高齢者の方々がお持ちの有用な経験や知識・ノウハウなどを若い方々に伝承されるということは地域社会・経済産業の発展につながっていくと考えられます。

本日のテーマは「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍～シニアパワーで新しい文化を～」ということでございますが、現下の経済情勢の中で地域の活性化というのは政府全体の政策として重要性を増しているものでございまして、経済産業省も農水省と協力をいたしまして農商工連携事業などに取り組んでいるところでございます。地域とか農業という分野におきましてシニアの方々の活動は特に重要性が高いと思われます。

徳島県の上勝町というところに彩（いろどり）という会社がございまして地域の女性や高齢者が山で紅葉とか葉っぱを拾いまして日本料理のつまものとして出荷する事業を行っております。それはＩＴを活用して非常に成果を挙げているものでございます。高齢者の方々が出荷の管理などでパソコンを駆使されて、月末にそれぞれの個人の方々の売上を競い合ってすごく活き活きと活動されているということが報告されています。

「天は自ら助くるものを助く」という言葉もございます。皆様がシニアネットなどを通じて得られたＩＴの知見を積極的に使われまして、新しいことにどんどんチャレンジされることによりまして皆様個人個人が元気になるとともに皆様の世代が元気になる、それがひいては日本全体が元気になることにもつながるというふうに考えています。経済産業省といたしましてもニューメディア開発協会を通じまして皆様の活動をご支援させていただきたいなというふうに考えています。

最後になりましたがご来場の皆様の今後の更なるご発展ご活躍を祈念いたしまして私の挨拶と代えさせていただきます。

■基調講演　Ⅰ

「高齢化社会に於けるアクティブシニアの新しい生き方―社会の主役に―」

島田　晴雄氏
（千葉商科大学　学長　慶應大学名誉教授）

はじめに

シニアの皆様の熱意ときらきらした目と力を感じております。今日、日本ではシニアが一番元気で、我々が頑張らなければいけないなと思います。

私も今年６６歳でございます。私は６０を過ぎて初めてゴルフを始めました。大自然の中でおおいに楽しむことはいいな、と思ってやってみたらはまりまして、ゴルフは救国のスポーツと言っています。ゴルフは教育に役立つと思います。友を大切にし、信頼を大切にし、そして穴を開けたら砂をかけておくという自然を愛すること。この三つだけあれば教育は足りるわけです。

私はシニアに近くなってきてから、人生楽しいなと思うようになりました。それまでスキーを少しやっていたのですが、本格的にスキーをやるようになりました。来週は北海道のルスツというところへ行って３日間やります。スキューバダイビングもいよいよ本格的にやることになって、秋には沖縄へ行ってきました。

私は今、千葉商科大学の学長をやっています。いま少子化ですからどんどん学生さんの数が減っていて大学の収容人数のほうが学生さんの数より多くなっています。これは何を意味するかというと駄目な大学は潰れるということです。このような業界に身を置いてしまったものですから、こうなったら勝つ以外にないとこう思って頑張っているところです。

なにやら６０を過ぎて、６５を過ぎてますますやることが多いなというのが人生でございます。おそらく皆様も同じような人生をおくっておられるように思います。

本日は、エコノミストとして、最近の経済の変化についてお話し、今後の見通しなど私の感想などを申し上げてみたいと思います。皆さんの日頃の活動と、将来の展開を考える上でご参考になれば幸いです。

１．アメリカ発金融危機と世界同時不況

【サブプライムローン問題とは何だったのか】

今回の発端は米国のサブプライムローンです。サブプライムローンというのは貸したら返せないだろうという階層に住宅金融をしたということです。普通は所得の３倍か４倍でないと危ないのですが、１万ドルの所得の人に１０万ドルのローンをつけていたわけです。アメリカは

実はこの２０年間、ドンドン成長するからいいのだよと、希望のある生活をしてきました。
　私は去年の夏に、地中海クルーズに家内を連れ出しました。大きい船に乗ってみたらほとんどアメリカ人です。アメリカ人の消費というのは無茶苦茶です。アメリカでは、貯蓄率はマイナスで、ドンドン消費している。それを２０年間続けていたから大丈夫だという感覚があったのだと思います。
　ここに危うさがひそんでいました。我々がバブル崩壊とかデフレの時に味わったようなことではないものが今回のサブプライムローンにはあります。
　我々がバブル崩壊のときに悩んだときには、経済成長するというので、業者が土地を買って建物を建ててなにかやりたいというのに銀行が貸しました。わが国の不良債権問題では、誰に貸してどうなっているか、１対１対応でわかりました。
　しかし、アメリカでは金融技術が非常に発達していて、我々がバブル崩壊のときに悩んだような問題のようになりませんでした。サブプライムローンの仕組みは全然わかりません。金融技術が発達したものだから、本当はやってはいけないことをやっているので、ハイリターンだけれどハイリスクになってしまいます。
　ハイリターン、ハイリスクは皆気をつけますが、いろんなほかの商品を混ぜ合わせて数学的にはヘッジが利いてきてリスクが下がり、そうすることにより格付け会社は評価を上げてしまいました。だから、サブプライムローンの入った商品がトリプルＡとかいうのがたくさんあったわけです。そうなればものすごいハイリターンでローリスクに見えるので飛びつくように売れていったわけです。

【金融工学の発達】

　ただ、これは作った人しか分らないぐらい難しい仕組みになっています。これは金融技術というか金融工学といいますけど。この１０年間ものすごく発達してきました。工学部の人が皆金融に行ったとすら言われています。デリバティブといって、日本で言う先物のお化けですね。例えば今から何年間かのある国とほかの国との為替レートの変動リスクを取引するという、そうなると何を言っているか分らない世界です。だけど一応それを商品として取引するものですから、決済したりするのでお金に似た流動性を持つのです。

【投資銀行】

　今、世界で３００の国があって全部足してもＧＤＰは大体7,000兆円ぐらいしかありません。日本が大体５００兆円あって、アメリカが1,400兆円あります。彼らが作ったこのデリバティブスのお化けは全部足すと６京円になるのだそうです。我々のお金の概念ではありません。我々持っているお金はポケットに入っているお金と銀行に入れている預金です。これはＭ２といいますが一番流通性が高いものです。
　７０年前の大不況の時に信頼が崩れて取り付け騒ぎになって、これではいけないと言うことでアメリカが法律を作りました。預金保険機構などを作って銀行はそういうことがあってはいけないから自己資本８％以上持たなければいけないとか、預金者の1,000万円くらいの預金は守るとかとい制度を作りました。これはＭ１、Ｍ２の世界ですが、今回は、Ｍいくつだか知りませんけどその何十倍も作ってしまったのです。これは作った人しか分らない、我々には分らないという世界です。毎日、何千兆円という取引が行われていたのです。
　そういうのを一番激しくやっていたのがアメリカの投資銀行というところでゴールドマンサックスとかソロモンブラザーズとか５～６社あったのです。これが飛ぶ鳥を落す勢いという

か肩で風を切るという格好でやっていたのです。また、経営者とかスタープレーヤーはものすごい高給を取っています。作った人しか分らない世界で我々の通貨の何１０倍という付加価値を作って、会社に何百億円の何千億円の利益をもたらし、成果が上がると成果報酬を得ていました。

香港にHMBC（香港上海バンク）のディーラーが自分のところで1,000億円くらいのサブプライムローン含みの商品を買っていたが、おかしいと思い、売り戻そうとしたのですが、いろいろやって結局６００億円くらいで落ち着いた。その噂が専門家の間ですぐに行き渡って、サブプライムローンは危ないかもしれないというのが一昨年の暮れごろから急に広まったのです。

そうなると、サブプライムローンというのは我々のバブル崩壊とかデフレの話と違って１対１対応ではなく、まぶしていてそれを転売していますから責任の関係が分りません。非常に分りやすく言うと毒入り餃子という感じですかね。毒入り餃子は見ても分らないでしょう。食べて初めてしまった痛いということになるわけですね。

【金融危機から経済危機へ】

インターバンクローンという銀行間市場というのがあります。実は業者間で非常に低利で毎日毎日融通しあって金融市場は動いています。ちょっと低利で貸してほしいと言ったときに、あなたのところは何か買っているらしいから駄目だって言い、金利１０倍にしても危ないからいやだというようなことが起きました。こういうのをクレジットクランチといいます。流動性というのは信用だけですから、信用崩れたら全部金融システムというのは崩れてしまうのです。信用が止まるからローンとかが出来なくなるので、企業が投資したいというのに貸してくれる人がいなくなってしまった。というので経済が止まるわけです。

それが去年の春に起きたのです。それでアメリカのベアスタンズという日本で言うと日興証券ぐらいの会社が潰れたのです。だけどそれはＪＰモルガンという会社が買ってくれて、良いかなと思われましたが、半年たったらリーマンが潰れました。リーマンが潰れたら野村證券が潰れるような騒ぎですから。アメリカが壊滅だという雰囲気になって世界中が一気に衝撃が走って経済が逆回転始めたのです。

【ＡＩＧ問題】

リーマンが相当危ないというので、ポールソン財務長官が、ニューヨークへ集まろうといってバーナンキさんとかいろんな人が集まりました。ポールソンさんは一晩話してくれれば終わるよ、と言って下着１枚しか持って行かなかったという説がありますが、もっとひどい話としてＡＩＧの問題が浮上していました。

ＡＩＧという保険会社は世界中に３００から４００の会社が傘下にあり、日本でも３つか４つＡＩＧの会社があります。ＡＩＧの何で危ないことになったかといいますと、ＣＤＳというデリバティブの一種の保険商品の元締めをやっていたことにあります。クレジット・デフォルト・スワップといいます。それなりのリターンがありそうだから５００億貸して、潰れたら困るから２億円くらいの保険かける。相互に保険を掛け合い、それが３重、４重になって、残高がいくらになったか分らない状態になっています。コントロールする機関がなくて膨れ上がり、ＡＩＧがどこかでこの仕組みが破綻するというのが見えてきて、専門家が推計したらどうも６千兆円くらいになるそうです。大体世界のＧＤＰと同じくらいの額をＡＩＧがそういう訳の分らないデリバティブ保険でやっていたということになります。

ＡＩＧが崩壊したら世界の保険は全部止まりますから、そしたら世界経済の心臓が止まりますので、アメリカ政府はそこへ猛烈に梃入れして何とかＡＩＧは保ったのです。

このようにして、金融が傷ついたら、今度はリアルの経済に跳ね返ってきて、トヨタみたいなことになって、一番真面目にやっていた日本が落ちていくという事態が起こったのです。

２．実体経済の収縮と世界不況の進化

今、世界はとんでもないことになっているわけですね。１００年に一度の危機だとかいわれています。グリーンスパンという人が１００年に一度の津波だといったのです。（現在は、バーナンキという人がアメリカ連邦準備制度の議長で、それは日本で言うと日銀総裁です）

グリーンスパンは２０年近く中央銀行の総裁をやっていて金融の神様といわれていた人です。今になって、あれは神様でもなんでもないのではなかという批判が起きています。

【アメリカにとって１００年に一度の大きなつまずき】

たしかにアメリカからみたら１００年に一度かもしれません。アメリカ経済はもともとコロンブスがアメリカ大陸を発見して、だんだんと西部を開拓して産業資本主義が起きて金融資本主義になって、２度の戦争でも戦地にならずに無傷でどんどん育ちました。最近はＩＴとか情報とか物凄い成長をしてきたわけです。アメリカが悩んだのは独立戦争ぐらいです。その後アメリカは大丈夫だったのです。その後初めての大きなつまずきだから、１００年に一度ということなのでしょう。

【日本では１００年に一度の経済危機とは言わないようにしよう】

皆様にぜひひとつはっきり提言申し上げたい。１００年に一度の経済危機だなどということは言わないようにしていただきたい。生産が１０何パーセント落ちたというのは、日本は何度も経験しているのです。

終戦直後を見て下さい。焼け野原の中から奥さん達はタンスの中に焼け残った着物を田舎へ持っていって芋と取り替えて赤ん坊を育てました。戦後の状況に比べたら今日の状況はまだ良いのです。

オイルショックの後で日本が大変な不況になった。あの時のほうが今より落差が大きいので４０年ぶりと言っているわけで、何が１００年に一度だと、そう思います。

【わが国の人口構成の変化と需要の縮小】

トヨタの生産が大幅に落ちました。どうしてかというと、トヨタはあまりにも優秀な会社だからです。トヨタは１０年前まで世界販売は５割でした。去年の世界販売は７５％になりました。これは日本の人口構成が変わっているから、そういうことをやっているのです。

日本はいま１億２千７百何十万人です。あと４０年すると９千万人を切るかも知れないといわれています。３千８百万人ぐらいの人口が消えるといわれています。お隣の韓国ぐらいの人口が１世代で消えてしまうのです。これは人類史始まって以来の人口現象です。そのおかげで高齢化現象が生じ、我々の世代の比が増加します。

人口現象が一番先に見える業界は紙パルプの産業です。紙の一番大きな消費は二つで、トイレットペーパーと新聞です。これは人口の関数なのです。人口が減っていけば消費は減るのです。

紙の次は食品です。人口が減ると口が減るのですから、食品の消費量も減るに決まっています。年取ってくれば若いときほど食べなくなるのでどんどん減るのです。もう食品業界では、合併・吸収・再編と大騒ぎです。今度それがコンビニまで来たということです。

そして自動車も減っているのです。自動車はちょっと前までは、日本列島の上を7,000万台走っていましたが、もう５００万台ぐらい減りました。

人口は、私どもの年代は一歳刻みで２２０万人います。私が教えている大学生諸君は一歳で１５０万人、小学生は大体１１０万人です。つまり我々の年齢層に比べると小学生は半分しかいない、逆ピラミッドなのです。これから自動車を買う人たちはその人たちなのですから、もっともっと減少することはわかりきっています。

【世界人口予測と需要】

世界はどうなっているかというと、今、世界の人口は６７億人というのが国連の推計です。今から４０年経つと９３億人になるというのです。まだ２６億人増えるという予想です。そこしか伸びる道はないからトヨタは世界へ出て行った。そのようなときにアメリカとヨーロッパも同様に津波で縮んだわけです。しかし、その他の国はどんどんいま伸びています。

今から６年前にゴールドマンサックスという証券会社の研究所がこれからＢＲＩＣＳ（ブリックス）の時代になるといった。ＢＲＩＣＳとは何かというと、ブラジル・ロシア・インディア・チャイナ、これらの国は人口も多いし成長率も高いです。

中国は１０%以上の成長を続けてきました。インドは９%くらいです、ロシアの人口は１億４千万人ですが８%の成長をしてきました。アメリカ・日本・ヨーロッパに比べると成長率が高い。この２０年間アメリカは平均３．５%の成長、これもたいしたものなのです。これは高度成長時代なのです。失われた１５年とか言って、世界でゼロ成長の近辺でウロウロしていたのは、日本だけなのです。世界はこの２０年間は大成長時代だったのです。

【日本の落ち込みが大きかった】

そこへトヨタがどんどん売り込んでいったわけですが、気がついたらリーマンショックの後でアメリカの株価は３５%しか落ちないのに日本は５割落ちてしまった。中国は６割も株価が落ち、インドは７割も落ちてしまった。アイスランドにいたっては９５%も株価が下がったのです。アイスランドは世界の金融立国と言って最新の金融立国と言って頑張ったのだけれども、手漕ぎの漁船の小さい島に戻ってしまった。

先進国も新興国も全部同時にやられたので、トヨタは全部に販売網を作っていたので逃げ道がどこにもなく、トヨタの販売は３０%落ちてしまいました。３０%落ちて在庫がたまり始めたので、生産を４割下げ在庫吸収しなければいけない。トヨタは６割操業と決めて頑張っています。

何故日本が一番縮んでしまったかというと、日本が一番優秀だったからです。日本の世界に冠たる一番誇れるものは、輸出関連大企業を支える関連中小企業群なのです。

これはたとえば鉄、石炭、原油を輸入して、それがいろんな生産工程を経て最後に自動車になったり電気機械になったりする。１０段階ぐらい生産工程を過ぎる。各段階で生産性を倍増するということを日本の経営者も日本の勤労者もやれます。そうすると理屈だけで言うと各段

階で倍になれば１０工程あれば生産性は２０倍になるわけです。１００工程あれば１００倍になるわけです。

ということがあって、日本の生産性向上というのは実はトヨタとかパナソニックがやっているのではなくて、それはごく一部で、全てを下が支えていたのです。トヨタは6万５千人が正規従業員ですけど、協豊会、共栄会という下請けを合わせて１６万人雇っています。それはまだ2次下請けくらいまでで、その下にも下請けがあります。最後の下請けになると電気産業の下請けと混じってしまいます。自動車の半分はコンピュータですから。分りやすく言うと日本中全てが毛細血管のように輸出産業を支える構造になる。そこまでそんな体質を作ったのが日本です。

今回みたいなときには最後の売り手のトヨタが不調になるとすべてが影響を受けます。ですからグラフを見ると、崖が落ちているようなグラフばっかり出てくるということになりました。これはアメリカがとんでもないことをやってくれたというのが原因です。

中国でも韓国でも日本のような仕組みが欲しい。韓国経済がちょっと脆ういのは、日本はこれを３０年から４０年かけて構築したものを韓国は持っていないからです。いま、インドでもアメリカでもロシアでも韓国でも皆それを欲しい。これは中小企業なのです。

3．何をすればよいのか

【資産価値の回復には時間を】

皆様方や私の世代のシニアがどうすればいいのかということについて、私がいつも申し上げていることをご披露します。

一昨年まで、日本は戦後最長の景気回復と言って、株価も上がっていました。しかし現在は、株価 8,000 円になって、もう底だと思ったら7,000円になるという低迷が続いています。冗談じゃありませんね。皆さんの場合には老後がかかっているから。堅実に生活をやってきて、政府が貯蓄から投資だということもあって、投資をしてみたら、今日の悲惨な状況です。

一昨年の夏から秋口までに株を買った人は忘れてください。だけど本当に忘れてはいけません。ぜひ、こうして下さい。まず早寝、早起き、3度の食事は決まった時間にきっちり食べる。それから出来るだけしっかり噛む。それから森光子さんに負けないだけスクワットをする。森光子さんは１００回やっています。放浪記ででんぐり返しするもとになっています。あの人は９０近くです。それからゴルフの好きな人は安いゴルフ場へ行って毎週やる。女性の方は1週間に3日くらい宝塚行って下さい。

このようにして3年は寿命を延ばして、池に落ちた財産も上がってきますから、それをさっと拾う。そうするとそんなに損しないですみます。ぜひそうやって下さい。

投資をし遅れた人、今現金持っている人にとっては、今買い時です。責任は取りませんが、今日買ってもいい。みんな底値を打ったらと思っていますが、今が買い時です。機関投資家が底値らしいと思って買いを入れると1時間後に株価は上昇します。それ底値だと新聞で見て買

ったら大損です。
【今は好機：バフェットルール】
ビル・ゲイツも世界一の大金持ちといわれています。マイクロソフトには、日本で作っている１台のパソコンに対して知的財産権だか利用権として１００ドル払っています。ビル・ゲイツはこのやり方で財を成しています。
アメリカにはこういう考え方があります。
とにかく早く実業家になって
Earn as much as you can. 稼ぎましょう、出来るだけ
Save as much as you can. 出来るだけ貯めましょう
そうして功成り名遂げたら
Give as much as you can. 恵まれない人に分けてあげなさい
彼はビル＆メリンダ（奥さんがメリンダ）財団という世界最大の財団を作りました。アフリカからＨＩＶを消すことと人々を癌の苦痛から救うことにものすごいお金を注ぎ込んでいます。自分だけでお金出すのではなく、あらゆる企業や財団からかき集めています。アフリカに１０年間で５０兆円注ぎ込むという計画です。アメリカも日本もそれには対抗できないぐらいになります。
アメリカには、素人みたいな買い方をして大金持ちになったバフェットさんと言う男がいます。そこにバフェットさんがビル・ゲイツの財団に３兆円も提供しています。
【バフェットルール】
このバフェットさんのルールを紹介しましょう。今日はこれだけ聞いて帰ったら島田の話は良かったということになりますよ。ただ、英語で言います。
Be greedy when people are fearful.
人々が恐れおののいていたら欲張りになりなさい
Be fearful when people are greedy.
人々がいけるぞと思っているときは恐れおののきなさい
日本語で意訳すると
人々が悲しんでいるときは買いなさい
人々が得意になり始めたら売りなさい
ということなのです。
このルールを守っていれば２年前の夏に株を売っていた筈なのです。今恐れおののいているから買いということになります。今、買えばまた数年後には数倍になりますから。このルールでは、底値なんか見ないで、人々が悲しみ出したら買う。得意になりはじめたら売る、これで良いのです。まだまだこれから皆さん２０～３０年ぐらい生きられるから十分ですよ。それを今日は覚えて帰って下さい。
【回復するときの風景が違う】
それで、これからどうしたらいいのでしょう。景気は必ず回復します。経済には自動反転メカニズムというのが組み込まれているからです。物とかサービスの値段が十分に下がれば反転するのです。たとえば２００億円で作ったゴルフ場でこれだと 3,000 人ぐらいのお客がいつも来てくれないといけませんが、５億円ぐらいで買いますと５００人もお客が来れば黒字は出る。だから、十分下がれば必ず回復します。世界経済でも同じようなことが起きます。

しかし、回復するときの風景が全然違います。今の経済が回復するかといったら全然違います。これだけは覚えておいた方が良いですよ。

【第２期パックスアメリカーナの終焉　アメリカが普通の国になる】

違いはアメリカが全く変わってしまうということです。イギリスの時代が１５０年続きましたが、第２次大戦後イギリスがくたびれて、ポンドの世界をドルの世界に譲ったのです。パックスブリタニカがパックスアメリカーナに変わりました。

パックスアメリカーナは１９４５年にはじまり、１９７１年までは第1期パックスアメリカーナのときはドルが金といつでも交換できました。１９７１年に金の兌換をしませんと言い出し、パックスアメリカーナ第２期に入りました。軍事力などで圧倒的に強いアメリカは基軸通貨であることを良いことにしてドンドン財政赤字を増やしてきました。中国、日本、台湾など黒字の国がアメリカの財務省証券を買ってきました。

アメリカの旺盛な消費にむけて、日本、中国、インド、ロシアの輸出が続き２０年間の高度成長が続きました。その流れの中で、デリバティブスを中心にした変なお金が何１０倍も増えてしまって今回の騒ぎになっています。それでパックスアメリカーナ第２期は去年に終了を告げました。

【オバマの大型の景気対策】

アメリカの大型の景気対策は７２兆円といわれていますが、やがて１００兆円を超えていくと思います。そうすると財政赤字１００兆円、貿易赤字１００兆円でこの財政赤字の１００兆円を自分で賄えることが出来なくなります。国際貿易はゼロサムゲームですから、黒字を持っている国が買い支えてくれればいいですが、そうは行きません。アメリカの力は落ちていますし、経済支出も不安定でアメリカは消化できないから金利が上がってしまいます。金利が上がると財政支出は雪だるま式に増え、アメリカが転げ落ちてくる心配があります。それをさせてはならないからオバマさんは一気にアメリカの改革をしなければならない。必死なのです。

【日本のアジェンダ】

世界を仕切るかというと仕切る国がなくなります。運転手のいない世界になるということです。そういう中で、日本人は非常に珍しく、まだアメリカ、アメリカと言っています。アメリカは一番重要な国であることは変わりませんが、目を瞑ってアメリカお願いしますでは通りません。自分の足で立って自分の頭で考えて自分で構築する必要があります。世界の経済は良くなるのだからその時何とかしようでは駄目で、自分から良くしようという構造でないとやっていけない歴史段階に入ってきました。

【世界が変わるときの３つのメガトレンド】

最後に、この世界が変わるときの３つメガトレンドについて述べてみたいと思います。一つは人口、もう一つは環境、３つめはエネルギーです。

①人口について

人口については二つのことがあります。一つは、人口爆発による食糧と水です。世界は水が大変な問題になります。食糧も足りません。これをどうするのか。日本は技術を持っているのにあまりにも無策でした。

人口が減って皆高齢化になると重要視されるのは健康です。日本人は本当に健康に熱心で、健康になれるのであれば死んでも良いという人が５百万人いる、と言う専門家がいます。日本は国民皆医療、皆保険ですが、それ以上を期待する人は自分のお金で医療を買うというのを解

禁するという混合診療にすれば、医療は大産業になる期待がもてます。

②環境について

環境はよく皆さんご存知のように恐ろしい問題があります。空気中のＣＯ２が毎年０．０２ｐｐｍづつ上がっています。０．１ｐｐｍ上がると温度が１度上がりますから、あと２０年ぐらいすると２度か３度か上がります。そうすると生態系が全部変わってしまいます。北海道でお米が作れるようになるというか、お米の主産地が北海道だけになってしまう可能性がある。これ言い出すと私５時間ぐらい喋りますが・・・・。環境をどうするか大きな問題です。

③エネルギーについて：

太陽経済の時代が来る

１９世紀は石炭を使ってイギリスが大帝国になりました。２０世紀は石油を使ってアメリカがパックスアメリカーナをやりました。１バレル１ドルだったのがオイルショックで１０ドルになって、最近１００ドル超えました。今は少し下がりましたが、やっぱり次のエネルギーを考える必要があります。

最近世界でも注目されている原子力（日本：４０％、フランス：６０％）は多少危険があります。長期的にみて一番良いのは太陽経済だと思います。太陽光をそのままエネルギーにする技術をはじめて人類が手にしました。石炭や石油は微生物の化石です。だから５億年待たなければエネルギーになりませんでした。太陽光はそのままエネルギーにすることが可能です。太陽光発電、それを蓄積しておく電池、リチウム電池、摩擦なく電気を送る超伝導、電気自動車などの要素技術は日本が世界で一番なのです。世界経済を引っ張るために、政治家にも太陽エネルギーの推進について考えてもらいたいものです。

終わりに

本日は、エコノミストとして、サブプライムローンに端を発した世界不況の始まり、世界とわが国に何が起こっているか、今後の見通し、そのために何をするか、等について最近感じていることを申し上げました。皆さんも是非、最近の経済状況についても関心を持ってください。そして、本日お話いたしましたことが、シニアネットの活動において、皆さんのご参考になればうれしく思います。

冒頭にも申しましたように、シニアのひとりとして私もがんばりますので、ぜひ、皆さんも健康で頑張っていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

■基調講演　Ⅱ

「ＩＴと暮らすシニアの安心と安全～ＩＴはシニアの強い味方～」

黒木　直樹氏
（トレンドマイクロ株式会社　上級セキュリティエキスパート）

１．シニアの暮らしとＩＴ

１）最近はＩＣＴ（Information and Communication Technology：ネットワーク通信による情報・知識の共有を意味する）とも云われますが、シニアにとってもパソコンはなくてはならないものとなってきています。ＩＴが今後どう変化していき、どのような危険があり、どう使えば安全なのかについてお話をします。

２）パソコンの使い方も変化しています。ゲーム・テレビ電話・ショッピング・デジカメの活用・オンラインバンキング等々、様々な使い方ができるようになり、多くのシニアが利用しています。

２．パソコンの歴史と未来像

１）1980年（昭和５５年）から広い意味でのコンピュータが一般向けに提供され始め、パーソナルワープロ機、アップルのマッキントッシュ、ＩＢＭのＰＣ/ＡＴ機などが販売されました。マイクロソフトのWindowsもこの時代に出てきました。ゲーム機としてファミコンも販売されるなどコンピュータが身近な存在になってきた時代でした。

２）９０年代には、WWW（World Wide Web）プロジェクトが推進され、インターネットが始まりました。ＧＵＩ化されたWindowsが販売され、家庭でも使いやすくなり、インターネットを経由してメールを送るなど遠隔地の他者とも簡単にコミュニケーションができるようになりました。

３）2000 年代は通信速度の速い光（ＦＴＴＨ）も普及、最近は「Skype」などによるテレビ電話やチャットも一般的になり、「iPhone」など、より小型なコンピュータも求めやすくなって来ています。

４）このように、１０年間ごとに区切ってみると劇的な変化を遂げていることがわかります。今では、オンラインショッピング、オンラインゲームなどインターネットを介して便利さや楽しみを得ることができます。

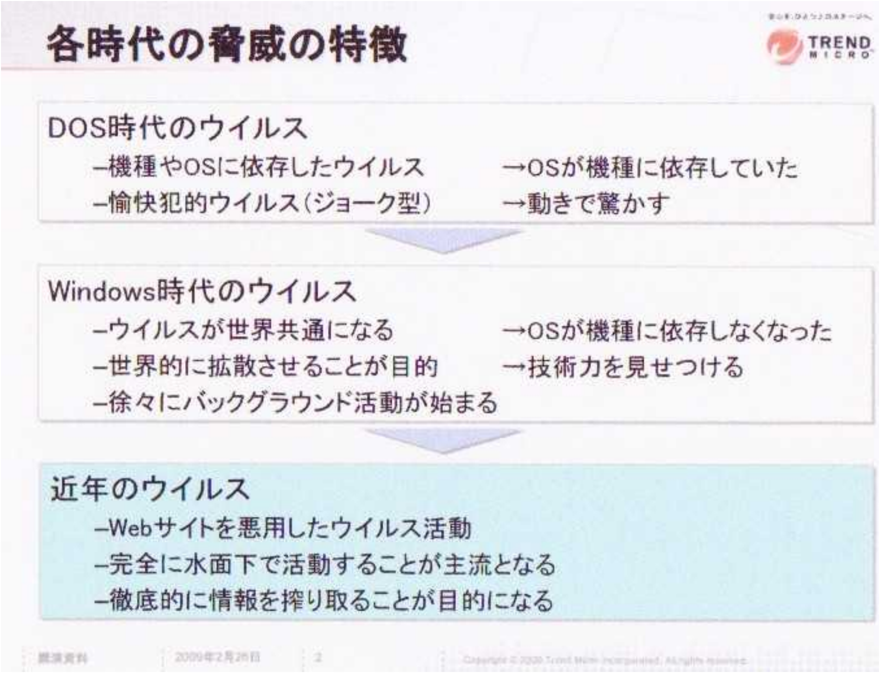
５）では、今後どのように発展するのでしょう？　予測するのは難しいことですが、白物家電のネットワーク化、より高速なネットワーク、交通情報や医療システムのネットワーク化、防犯防災情報やロボットの活用など、高度なIT利用が発展していくと考えられます。政府も民間のＩＣＴ促進を下支えする体制を整えており、ますます便利になると同時に、生活の安全のためにもＩＴが欠かせないものとなるでしょう。

３．最近のウイルスの特徴

１）インターネットの世界も現実社会と同じように危険もあります。ただ、漠然と危ないということではなく、何が危険で、どうすれば大丈夫か？ということを理解していただきたいと思います。

２）ウイルスの数は右肩上がりで増加しています。以前はファイルやプログラムが壊れた、パソコンが動かなくなったといった被害でしたが、現在は被害者から加害者になることもありえます。振り込め詐欺のように金銭をだまし取られる恐れもあり、インターネットの裏側ではお金や情報を盗むことが動機となっています。

３）ウイルス脅威の変遷は図の通りです。



４）最近のウイルスは悪戯から金銭詐取を目的にしています。

・図に見られるように犯罪者は金銭を得ることが目的であり、お金にならないことはしません。標的も特定の人に絞り込み（例えば特定の銀行の顧客のみを対象とする）脅威の情報が広がらないようにしています。作者は組織的かつ分業（ツールを作る人、使う人）しており、見つからない工夫をしています。

・日本では、身元が分からない携帯電話、口座名義・メールアドレス・オークションＩＤ・詐欺サイトを構築するツールなどの売買が行われています。

・セキュリティ対策会社のサポートセンタへの問い合わせ件数は波があるが、ウイルスの見え

ない化が進んでいると思われます。ウイルスは１日５００件程度新しいものが発見されており、対策が１日遅れると５００件の脅威に曝されることになります。

5）Ｗｅｂからの脅威

・Ｗｅｂを悪用して攻撃を仕掛ける脅威が多くあります。連鎖的な攻撃手法が特徴です。あるウイルスに感染すると、そのウイルスが別のウイルスを次々と呼び込みます。このため、短い間に数多くのウイルスに感染します（１か月に5,000種のウイルスに感染した例もあります)。このように対策を怠ると多重感染に陥り、パソコンが使い物にならなくなることや、復旧に長時間を要することになるのが現状です。

・どのように情報が盗まれるのか？　ウイルスに感染し、乗っ取られた状態のパソコンでは、犯罪者に情報が筒抜けになってしまいます。例えば、こうしたパソコンを使用してオンラインバンキングを利用した場合、銀行名、口座名、パスワードなどが盗まれ、犯罪者にお金を奪い取られます。さらに、新たなウイルスを送り込まれ、リモート操作で新たな脅威に曝されることもあります。

6）ＵＳＢワーム

最近､最も感染報告が多いのが“ＵＳＢメモリ経由のウイルス ”です。

ＵＳＢワームは図に示されるように､Autorun 機能を悪用して､ＵＳＢメモリを接続しただけでウイルスが自動的に実行されます。ＵＳＢワームに感染するとネットワークで感染を広げ、Ｗｅｂサイトから別のウイルスを呼び込みます。

7）偽のセキュリティ ソフトの横行

スパムメールで時事ネタや有名人のゴシップなど興味がある情報が届くことがあります。メールに書かれたＵＲＬをクリックすると不正Ｗｅｂサイトから偽のセキュリティ ソフトが仕込まれてしまい、図のように偽の警告が表示されます。

偽の「ウイルス検索と除去」画面であり、このソフトの購入が勧められます。購入画面では、氏名やクレジットカード番号など個人情報の入力を求められます。購入してもソフトにセキュリティ機能はないため、詐欺ソフトとも呼ばれます。

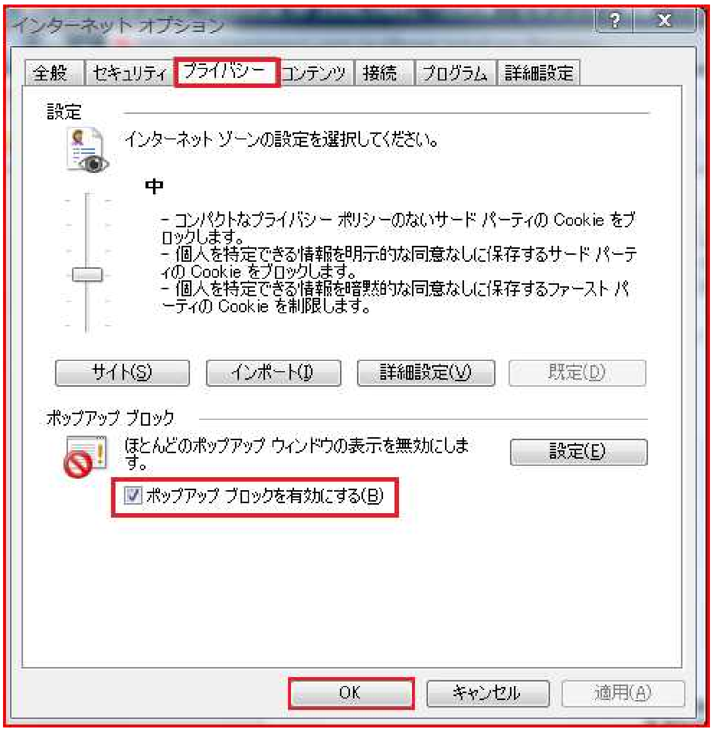
4．ウイルスの脅威からの守り方

1）個人で出来る対策（必ず実行すること）

セキュリティホールの修正	Windows や Microsoft Office のセキュリティパッチは、出来る限り早く適用する
コンピュータの安全な設定	・外部メディアの自動実行無効化 ・隠しファイルの表示 ・パスワードの設定（共有パソコンは必須）
重要データの管理	漏えいが致命的になる重要ファイルは暗号化（パスワードロック）を施す（ID やパスワードなどの個人情報）
総合セキュリティ・ソフトの使用	ウイルス対策、URL フィルタリング、パーソナルファイアウォールなど総合的な機能を持ったソフトを使用する

2）広告のポップアップのブロック

広告のポップアップウインドウが、何度も表示される場合は、Internet Explorer を起動⇒「ツール」メニューから「インターネット オプション」を選択⇒「プライバシー」タブの「ポップアップブロックを有効にする」にチェックを入れる⇒「ＯＫ」をクリックすることで表示されなくなります。それでも表示される場合には、ウイルス感染の疑いがあります。



3）ＵＳＢウイルスの感染を防ぐには下記の設定を行う必要がある。

・Windows の Default 設定では、ＣＤなどのメディアの自動再生機能（Autorun）が有効になっています。このため、メモリの自動再生を無効にする。
≪方法≫マイコンピュータからＵＳＢのアイコンをクリックし、「プロパティ」をクリック⇒「自動再生」タブをクリック⇒それぞれのフィルタ タイプごとに「何もしない」を選択する

・隠しファイルを表示するように設定を変更する。
≪方法≫任意のフォルダを開く⇒「ツール」⇒「フォルダ オプション」を選択⇒「表示」タブを選択⇒「すべてのファイルとフォルダを表示する」にチェック

・ＵＳＢメモリのファイルを開く前にウイルスチェックする。
≪方法≫マイコンピュータからＵＳＢのアイコンをクリックし、「ウイルス検索の実行」をクリック⇒選択したＵＳＢメモリのウイルス検索が開始される

・セキュリティ ソフトや暗号化ソフトが備えられたＵＳＢメモリを使用する

4）有害サイトの規制

総合セキュリティ ソフトが持つ「有害サイト規制機能」を有効にすることで、子どもに見せたくないＷｅｂサイトやインターネットの利用時間を規制できます（ペアレンタルコントロール）。また、見ようとするＷｅｂサイトが安全か／危険かを表示する機能やＩＤやパスワードの入力情報を暗号化する機能の利用もおすすめします。

さらに、迷惑メールからウイルスに感染する危険性が大きいので、迷惑メールを捨てるだけでなく受け取らない措置も重要となっています。

3．持ち帰り、利用可能な情報

1）役立つ情報一覧

- インターネット・セキュリティ、ナレッジ・セキュリティ学習サイト
  http://is702.jp
- Pollution Tracker：脅威をリアルタイムにレポート
  http://jp.trendmicro.com/jp/threat/trend_watch/pollution_tracker
- ニュース チェッカー
  http://jp.trendmicro.com/jp/threat/tools/news-checker/index.html
- トレンドマイクロ セキュリティブログ
  http://blog.trendmicro.co.jp/
- セキュリティ情報Ｗｅｂ
  http://jp.trendmicro.com/jp/threat/
  ※メールマガジン「Security Report」は上記から登録できます
- ウイルスバスター2009 ３０日無料体験版
  http://jp.trendmicro.com/jp/products/personal/vb2009/trial/index.html
- オンラインスキャン
  http://www.trendflexsecurity.jp/free_security_tools/housecall_free_scan.php

特に、「インターネット・セキュリティ、ナレッジ・セキュリティ学習サイト」は、トレンドマイクロが運営する啓発サイトであり、インターネットライフを支えるための重要で基本的な情報を記載しています。ＵＲＬも http://is702.jp と簡単ですから是非ご覧いただき、周囲の方にもお勧めください。その他のWebでも有用な情報を提供していますのでご覧になってください。

本日は、非常に盛り沢山の内容を駆け足で説明しましたが、重要なことは正しく理解すればインターネットは必ずしも怖いものではないということです。脅威を正しく理解し、適切に対処することでインターネットを安全に楽しくご利用ください。

ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

会場よりの質問

ウイルスバスター2009のアップデート中に「危険にさらされている」というコメント（警告）が出るが、何故ですか？

黒木氏（代理）の回答

アップデート後など再起動するときにウイルスバスターが短時間停止することがあります。そのときWindowsが、ウイルス対策ソフトが停止していることに対して警告を出しますが、ウイルスバスターが動き出せばコメントは消えるので問題はありません。

会場よりの質問

「サイバークリーンセンター（ＣＣＣ）」のボット駆除ツールをウイルスバスターに搭載する予定は？

黒木氏の回答

「ＣＣＣのボット駆除ツール」の構築にはトレンドマイクロが協力しており、ここで得た情報はウイルスバスターにも反映させているので、ウイルスバスターを使っていればボット対策も含まれています。ＣＣＣのツールは、ボット対策、セキュリティ対策をされていない方には有効なツールです。

■特別講演

「新しい時代のシニアネットとは
～２０１０年代に向けて更なる飛躍を～」
吉田 敦也氏（徳島大学　総合科学部教授、地域創生センター長）

今日は小話、中話、大話の３つをお話しします。

まずは小話です

こういうものを買ってきました。皆さん知っていますか。デジタルペンと呼んでいます。ちょっと実演してみましょう。デジタルペンは紙に書いた手書きの文字を、書いたそのままの状態とともに、編集可能なワープロ文書として保存してくれます。

紙に書いた文字を読み取る技術をＯＣＲと呼んでいます。郵便局では、葉書や封書の郵便番号の自動読み取りに使っています。オフィスや家庭では、印刷物からデータファイルを作成する際に使われています。その技術が発達して、今や、こんなに小さく、しかも万円以下の簡単な装置で、手書きのメモをデジタル保存できるようになっています。

テクノロジーが私たちの暮らしや仕事を助けてくれることは言うまでもありません。それが、今、さらなる進歩・深化によって、私たちのアナログ行為を助けてくれるようになり、人の可能性のさらなる拡大、そして、大きな社会変革が起こしています。

次は中話です

バラク・オバマ氏がアメリカ合衆国の第４４代大統領に就任しました。このことは私たちシニアネットにも関係ある話題性を持っています。それはオバマ大統領がホワイトハウスに入って真っ先にしたこと、それがホームページの改修だと言われているからです。

事実、ホワイトハウスのホームページは大きくかわりました。各国首脳と議論するオバマ大統領の緊張感溢れる姿、ファーストレディや娘さんのホワイトハウス生活などがトップページの新着情報欄に並び、ライブ感に溢れ、読みごたえがあり、かつ、親しみやすく、魅力的です。

そして、何よりすばらしいコンテンツは、次々に送られてくるオバマ大統領から国民へのメッセージです。毎日更新するとのことですが、それどころか、１日に何回も更新され、大統領がどういう政策を打ち出したのか、誰と何を会見したのかなどを次々公開・発信しています。

報道によると、バラク・オバマ氏の大統領就任式には２００万人が会場に訪れました。加えて、その日のＣＮＮインターネットサイトには１３０万アクセスがあったとのことです。就任式の様子はインターネットの動画サイト ”ユーチューブ ”にアップされました。その日の午後、2,130 万の人がそれを視聴しました。この数字は大統領選挙当日の動画試聴数５３０万をはるかに超えています。

つまり、ネットを国民との対話チャンネルとしたオバマ大統領の政治と人気は、選挙を境に

「あ～ぁ、終わった」ではなく、右肩上がりだということです。
　こうしたオバマ政権を「ユーチューブ政権」と呼ぶ人がいます。その根底にあるのがバラク・オバマ氏の動画戦略。彼は選挙キャンペーンのときから動画を使っていましたが、大統領就任後も”週刊動画メッセージ”を配信しています。それがユーチューブのホワイトハウスチャンネルです。再生回数１００万回を超えるコンテンツがどんどん出ているそうです。こうなると世論調査などいりません。ユーチューブ動画のアクセス数をみれば彼の人気や政策への支持がどのような状態かわかってしまいます。
　日本でも、文部科学省などがユーチューブを使った広報を行っています。ＮＨＫもユーチューブを使ったサービスを始めるとしています。
　ホワイトハウスはじめ世界の主要機関がこういう形で現場の情報、政治の今をリアルタイムで発信しはじめているというわけですが、話はそれにとどまりません。
　フリーライター歌田明弘氏の『地球村の事件簿』によると、バラク・オバマ氏は、当選までが 1.0。当選して 2.0 になりました。なぜかと言うと、大統領選挙運動専用サイト「バラク・オバマ・ドットコム」を通じて 1,300 万人がサイン・アップ。メールアドレス、住所、電話、クレジットカード番号を登録しました。オバマ大統領の発言に反応するアクティブ支援者は２００万人。オンライン調査をすると５０万人が返事を返してくるという史上最大の草の根ネットワークが誕生しているのです。しかも、オバマ大統領は、「このネットワークをどう使うかは私ではなくあなたたちだ」として、運営を自立させています。
　大統領就任式のオンライン生中継を見ることができなかった人が多かったことから、オバマ大統領はブロードバンド アクセスの支援に力を入れるともしており、より良い社会の形成にインターネットなどテクノロジーの利活用がいかに大切かを認識し実践しています。

最後に大話です

【生誕１０周年】

　日本のシニアネットは１０歳となりました。誕生から１０年を経て、今なぜシニアネットなのか？　これからどうしていくのか？あるべき姿とは何か？あらためて考えてみたいと思っています。こうした問いかけが、豊かで持続力ある地域社会形成の鍵になると考えています。
　もちろん、すでに答えがあるわけではありません。私ひとりで答えをだせることでもありません。皆さんと共に考え、より良い答えを出していきたいと思っています。
　そのため、パソコン、インターネットはじめＩＣＴというものがどう使われているのか。インターネット社会では、何ができるのか？　どういう方向に向かおうとしているのかの正しい理解、現状認識が必要です。そこで小話、中話をしました。そして「オバマ方式」をご紹介しました。
　オバマ大統領はウェブサイトの冒頭で「新しい責任の時代」というメッセージを送っています。就任演説では、今までだと解けないような困難な課題に立ち向かい、それを越えていくことが私たちの新しい責任になる、と言っていました。是非、このＳＮＦ２１をきっかけに、皆で考える場を設け、シニアネットの新しい段階を作って行きましょう。盛り上がるよう期待しています。
　こうしたことの先がけとして、昨年、財団法人ニューメディア開発協会は、シニアネット構築推進委員会を設置しました。将来に対する熱意ある取り組みです。「シニアネット設立・運

営ガイド～１０年の成果とシニアネット 2.0 をめざして～」の検討を目標として、堀池喜一郎さん、越谷信弘さん、そして私の３人が委員に就任し、日本のシニアネットがこれまでどのような活動をしてきたのか、地域の中でどのような役割を果たしてきたのかについて、１年間ディスカッションしました。今日はその成果報告書に基づいてお話ししようと思います。

【時代は今】

いまなぜシニアネットなのか？ひとつの答えは、「時代」です。そこには５つの側面があります。

①社会の少子高齢化、②知識基盤社会の到来、③変わる労働と雇用のスタイル、④変わるシニアのライフスタイル、⑤ＩＣＴの飛躍的進化。プラスワンとして、この報告書作成時には全く予想もしていなかったことですが、百年に一度の経済危機ということも当然ここに加わってくるでしょう。

少子高齢社会は、支える者がいない社会の到来を意味します。団塊世代の退職を含めて大きな問題になっていますが、そこでのテーマはシニアの自立です。そもそもシニアネットはこうした少子高齢社会の到来を見据えて発想されました。

知識基盤社会とは、政治･経済･文化などあらゆる人間活動において、知識･情報･技術が基盤となる社会のことです。性･年齢等にかかわりない社会参画が促進され、経験豊かで、数値や言葉にしづらい暗黙的な知恵・知識を身につけたなシニアの活躍が期待されています。

一方、知識は日進月歩。時代感覚、柔軟な思考力に基づく判断が一層重要になり、学びの場と家庭/仕事場との絶え間ない往復が始まると予想されています。そのため、学歴社会が終わり、学習歴社会へと向かいます。そして“キーコンピテンシー”が重要になると言われています。

ＯＥＣＤの定義によると、キーコンピテンシーとは「人生の成功と良好に機能する社会の形成を目標に、知識・技能・態度を含む多様な資源を活用・動員し、複雑な需要やニーズに応える力」のことです。具体的には、自己啓発力（展望力、計画力、表現力)、人間関係力（対話力、協働力、解決力)、道具活用力（言語力、科学的思考、技能/技術）などから成ります。一歩を踏み出し、自立的に活動・課題解決できる鍵がここにあります。日本ではこうした視点での教育は十分なされてきませんでしたが、シニアの経験や知恵はまさに「生きる力」。そうした知的資産を形式化し、隣人や異世代に伝え、地域の活動や活性化に役立てて行くことが社会の課題となっています。

労働と雇用のスタイルも変わろうとしています。大量生産・大量消費という一方通行な高度経済成長時代が終わり、協働型社会などあたらしい社会のあり方が議論されるようになってきました。政策は保護から自立支援へと移りつつあります。ひとりひとりのニーズも多様化しています。地域のなかで生きること、アクティブライフの実現が重視されるようになり、個と社会の両面でバランスのとれた仕事や就労が望まれるようになってきました。ＳＯＨＯやコミュニティ・ビジネスなど社会的起業、ＩＣＴによる在宅ワークなどが注目されるのもそのひとつ。シニアネットはこうした労働と雇用の新スタイルを実現する地域プラットフォーム、あるいは、マッチングシステムとして期待されています。

変わるシニアライフスタイルというのは、「元気な高齢者」社会という現状からくる問題です。シニアというとなんだかひ弱な感じがしないでもありませんが、医療や健康科学の発達に

より、寝たきりとかその予備軍といった人の割合はわずか１０数%です。それ以外は、元気な高齢者です。したがって、今までは弱った人たちのための医療保険型社会観だけでよかったのですが、これからは元気な人たちの為に税金を循環させていこうという考えにも立つ必要が生じています。その基盤としてコミュニティがクローズアップされ、タテ社会からヨコ社会へという考え方が出てきました。

ＩＣＴの飛躍的進化により、何百万円もするコンピュータでしかできなかったことが、１０万円以下の安価なパソコンでできるようになりました。周辺機器は何千円という価格になりました。ＳＮＳやブログはポータルサイトで無料サービスされています。その結果、“自分メディア”の時代が訪れました。シニアネットなど情報の発信と共有を不可欠とする市民活動が加速しました。

オバマ大統領はこうした時代の潮流を見逃さず、全米の誰でもが参加でき、そして、顔が見えるインターネット空間を作り、そこで政策を語り、対話し、かつ、選挙後にも有効な支持者のネットワークを形成したのです。そして成功の第一歩を踏み出しました。

百年に一度の経済危機と言われるように、今、世界的にたいへんな状況ですが、そうしたことを背景に出てきたのが「副業化」という考え方です。例えば、建設業に携わり公共事業を専門にしていた人が景気の悪化で仕事がなくなったとします。その場合、その人たちの道路を造ったり橋をかけたりする技術・技能を活用して、土日だけ、あるいは、仕事のない日に、手が足りない山村の農業・林業の土木的作業を手伝います。あるいは、関連ＮＰＯ活動をします。そして本業よりは少ないかもしれないが、代価をもらいます。もちろん本業もします。そんなワークスタイルです。

考えてみれば日本のシニアネットの中にはすでにこれに似たワークスタイルを実践しているものがあります。つまり、シニアネットは時代を先取る「副業支援組織」であり、新しい社会資本となりえます。見合った代価が支払われるかどうかについては、現在のところ十分な見通しがあるわけではありませんが、それは社会の仕組みとしての位置づけの問題であり、どう積極活用していくかは今後の課題です。そのためにもシニアネット活動に注目し、これまでの１０年から、利点・課題を明確にすることを急いだ方がよいのではないかと考えています。

【自分が輝く・仲間と楽しく】

日本のシニアネットを定義しておきましょう。１０年の活動から帰結されるものです。また、ここで言うシニアとは、準備期間を含めて概ね５０歳～６５歳以上のことです。明確な区切りはありませんが、一般的に５５歳前後。定年退職や医療制度など種々の社会制度等から妥当な線と考えています。

シニアネットとは、『ＩＣＴ活用を基盤として、「自分が輝く」「仲間と楽しく」を前提に、自己実現・地域課題解決のための個人活動、交流、社会貢献活動、事業展開へと接近すること。あるいは、実際の活動に取り組むこと。そのための支援・推進システム、もしくは、ネットワーク形成』。

この元になるのは米国のシニアネット seniornet.org の定義です。米国では「５０歳以上のシニアが、生活をより豊かにし、長い人生の中で築き上げた知や知識を広く社会の中で共有できるようにするためのコンピュータ技術活用教育を提供する機関である」としています。

米国におけるシニアネットの定義と、日本のシニアネットの定義は、共通の部分を持ちなが

らも異なります。相違点は、「自分が輝く」こと、「仲間と楽しく」やること。そして、「地域課題解決」を目指した活動という部分です。

【シニアネットの機能】

日本のシニアネットの機能には大きく３つの側面があることがわかってきました。存在感、支援力、事業力です。

存在感をつくる具体的事例としては「場の提供」があります。「会社」を軸としてきた日本人にとって、定年退職後、会社以外の場所で、自分の置きどころを新しくつくることは非常に大きな問題です。人とのつながりをつくり、社会のために働くことも簡単ではありません。研鑽、自己実現、ゆとりなど様々な意味で、模索し、やってみる場が必要となります。明確な目的をもたずとも参加でき、「居る」ことが心地よい場が不可欠となります。

シニアネットがこうした問題の解決場所となっていることが１０年の活動から明らかとなってきました。サロン活動、フォーラム活動、クラブ活動などの形で活発に行われてきました。

支援力としては、ＩＣＴ利活用学習の提供があります。人材の発掘・養成という目的のもと、パソコン・インターネットの基礎や、情報の受発信・共有の仕方を学ぶことができます。

事業力については、シニアネットのコミュニティ・プラットフォーム機能が注目されています。シニアベンチャー、コミュニティ・ビジネスにおける事業化、事業受託、事業実践に関して、そこに行けば何かしら答えが貰える、きっかけが貰えるという中間支援機能を発揮してきました。

こうしたシニアネットへの参加により、①地域社会との気楽な帰属ができた、②構えずに、パソコンやインターネットなどＩＣＴへ近づき、知らぬ間に技能をあげ、社会に参加し、ネットワークの輪に入れた、③その結果、自然な形で、コミュニティ・ビジネスといった「事業化」を達成することができたというシニアが増えています。

【日本のシニアネットの源流】

日本のシニアネットは、1990 年ごろ通産省（現経済産業省）が「メロウ・ソサエティ構想」を提唱したことに始まります。1992 年～1997 年頃までを日本のシニアネット聡明期と呼びましょう。その後、1998 年頃から全国各地に続々シニアネットが誕生しました。

その源流はおおよそ３つです。①「メローフォーラム」（現在、メロウ倶楽部）、②「生涯現役つなしま会」、「生涯現役ときわ会」、「ＮＥＴ・陽だまり」、③「いちえ会」。

メロウ倶楽部はパソコン通信による会議室活動で日本のシニアネットの草分けとなりました。忘れられない存在です。シニアのＩＴ講習に特化した「いちえ会」の活動は重要なシニアネットモデルを提供しました。今なお大きな存在です。両者とも長く立派に活動継続されることが期待されます。

シニアネットの連携や支援については、現在、財団法人ニューメディア開発協会が「メロウ・福祉情報化」という名称で事業継承しています。

【社会資本化するシニアネット】

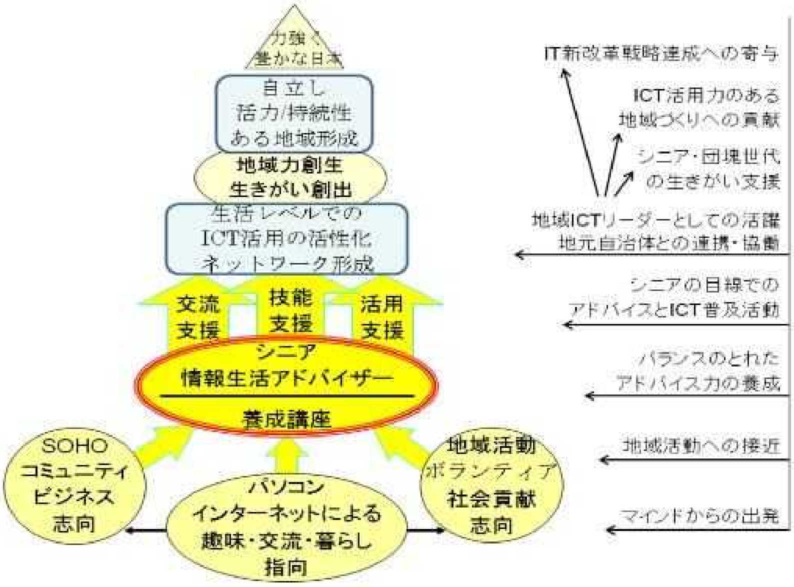
「教育のトレンド」という本があります。その中に、「シチズンシップと国」という章があり、次のような論述があります。「ボランティア活動がたくさんある国であればある程ボラン

ティア活動は増える、少ない国ではボランティア活動は減る」。「ボランティア活動がたくさんある国では国民の間での信頼感の形成がより効果的に行われている。そうでない国は信頼感を喪失した人間関係に陥りやすい」。

欧米のボランティア活動と比較できるようなデータは日本にはありませんが、日本のシニアネットはこうした世界的傾向を支持する成果をあげており、シニアネット活動の数値化に取り組むことが重要と考えています。地域の活性化にも有用な資料となるはずです。

【米国のシニアネット】

米国のシニアネットは何をしているのかというと、ニューズレター発行、ＰＣ情報と割引制度、学習センターの開設、オンラインサービス、全国大会というようなことを行っています。これはニューメディア開発協会が主催するシニアネットフォーラムやシニア情報生活アドバイザー制度と方向性を同じくするものです。一方で、シニア情報生活アドバイザー制度は、米国とは異なる日本の独自性を形成するものとして非常に重要な位置を占めています。



右の図はシニア情報生活アドバイザーの活用の段階です。パソコン学習やその指導者育成に特化しておらず、いろいろな側面・観点からの地域情報化活動を行い、最終的には力強い豊かな地域社会の構築をめざしています。

【ＥＵの新しい動き】

ヨーロッパにはコンピュータドライビングライセンスというのがあります。ＥＣＤＬとかＩＣＤＬという略称で呼ばれていますが、一般市民を対象に、キーコンピテンシーとしてのＩＣＴリテラシーを養成し、国際認証する制度です。ＯＥＣＤとスクラムを組みプラットフォームフリーなパソコン・インターネット利活用力の育成を掲げています。具体的には、情報を入手する力、運用する力、統合する力、評価する力、情報をもとに何かを創り出す力、こういう力をもった人に免許証を与えましょうというものです。ワープロソフトや表計算ソフトが上手に使えれば良いという考え方ではありません。また、こうした能力や資格を世界標準化しようとしています。

運営はアイルランドのダブリンに本部を置く非営利組織”ＥＣＤＬ財団”が行っています。1997 年に設立されました。Ｗｅｂサイト情報によると、公認テストセンターは世界中で 2 万箇所を超えています。

ＥＤＣＬ/ＩＤＣＬはキャリア形成に役立つことを目指していますが、驚くことは、その基

本要素の中に、メール利用のマナー、セキュリティの基本と対処というような項目があることです。シニア情報生活アドバイザー制度の養成講座はこれに類するものであり、日本ではすでに世界標準のことをやっているのだということを強く感じます。同時に、地域課題解決という日本システムの独自性、利点を強調する必要性を感じています。

【世界に誇れる日本のシニアネット】

こうして見てくると、日本のシニアネットが１０年間の歴史のなかで築いた成果が、いかにワールドワイドでオンリーワンなものであるかがわかります。そして、それが結論です。

欧米がサービス提供型、プロバイダー型であるのに対し、日本は会員相互の働きかけを基本とした、相互学習・創発型、自律開発型・知識創造型ということです。

また、日本型は、パソコン・インターネットの学習などＩＣＴリテラシー教育を基盤としているが、必ずしもそれが必須ではなくて、地域の価値、地域力、住民力を高める活動を長年にわたりしてきたことが特色です。

こうした成果のもと、日本のシニアネットは、今、第二段階に移行しようとしています。大人数のシニアネット、長期の活動を維持しているシニアネットがありますし、内容的に非常に充実・拡大・高度化してきているシニアネットもあります。

【日本のシニアネットの課題】

一方で、日本のシニアネットには、組織力を発揮するのが難しいという課題があります。コアスタッフの育成やリーダーの世代交代をどう円滑に達成するかも課題です。

地域社会のなかでシニアネットを活用する仕組みも考えていかなければなりません。シニアネットに参加したい人、潜在的なシニアネット会員はまだまだ多く存在すると考えられます。そういう人たちをどう集め、場を与えていくかにはノウハウが必要であり、単に楽しいとか居心地がよいというだけで解決する話ではありません。行政にも発想転換をして頂かなければならない部分があります。シニアが社会に対して提案する機能づくりも必要です。

今後の課題解決には調査・分析も不可欠です。日本は、産業革命以来２００年にわたり続いた工業生産型社会として、生産性を旗印にした専門家社会を形成してきました。その結果、集中・集約した高効率な専門組織”会社”が多数できたわけですが、一方で、その考え方やシステムは、いま、食の安全や環境問題などの面で対処能力を欠き、機能不全に陥り、破綻しつつあるというのが実状です。我々の生活を脅かしています。グローバル複合な社会、分散化社会への変化に対応できずにいます。

一方で、地域には専門性を持つ人が多くいます。特に、シニアはその役割を分担できる技能と社会的立ち位置を持っています。インターネットなどＩＣＴ活用のもと、消費と生産の融合したネットワーク型分散専門組織の一端を担い、新しい社会構築にシニアが能力を発揮する時

代にきています。そのために、シニアネットをもっと機能させる仕組みづくりをしましょう。具体的には、①一般的シニアネットのさらなる構築、②これまでは少なかった専門性あるシニアネットの育成、③そうしたシニアネットの広がりをつくるための調査研究。これら３つの側面で機能整備することが必要です。

【資産を蓄積しよう】

毎年開催されるこのシニアネットフォーラム（ＳＮＦ）もシニアネットの発展と拡大に大きな役割を果たしています。ところが、インターネットで“シニアネットフォーラム”を検索しますと、毎年の成果がいろいろなサイトにいろいろな形で統一されずに残っています。言い換えれば、長年にわたる大変大きな積み重ねがあるにも関わらず、それが統一したフォーマットがなく、適切にアーカイブされていません。せっかくの成果、積み重ねがデータとして活用しづらい状況になって放置されています。

シニアネットフォーラムをどう続けるかという議論の前に、まずは、過去の資産を蓄積・整理するすることが大切です。私たちがどのような足跡を残し、社会にどういう影響を与え効果してきたのか、このことを正しく評価できる材料づくりを急ぎやらねばなりません。

その上でこれからのシニアネットフォーラム、そして、シニアネットが設計されていくように思います。そのために、長年言い続けてきたことですが、全国的なシニアネットセンターが欲しいところです。その実現には大きな力が必要となりますが、結集された力がさらに大きな力を生み出すことは間違いありません。スキームが打ち出され、考え方を共有できればと願っています。

【私たちはデキル！】

時間が来てしまいました。Change で始まりましたので、Yes We Can で終わりましょう。デジタルペンの教訓、オバマ・バラクの教訓、シニアネットの教訓をお話ししました。

デジタルペンの教訓は「ＩＣＴの威力はすごい。ニーズに合ったＩＣＴ活用をしよう」でした。

オバマ・バラクの教訓は「やる気をもった人の驚くべき可能性は改めてびっくりする。ＩＣＴ活用でつながりをつくることが成功のカギだ。国に頼る時代ではない。メッセージを送れ！」でした。

シニアネットの教訓は「日本のシニアネットは世界に誇れる日本の宝。その１０年の歩みと活動、シニアネットフォーラムの蓄積、シニア情報生活アドバイザーの活躍、これをきちんと評価の土俵に上げていきませんか。そのためには、総和としての情報発信、資産を活かす工夫と仕組みづくり、シニアネットモデルの確立、社会活動とＩＣＴ技能講習の体系化、シニア情報アドバイザーのステップアップ、特色・役割を意識した活動が重要。そして、もっと手をつなごう、もっと楽しく」でした。みんながハッピーになる活動を作っていくことが大切です。そしてもちろん、Yes We Can！

ご静聴、ありがとうございました。

＜質疑応答＞

会場よりの質問

シニアネットは大きな問題に直面しているのではないかという気がしてならない。団塊の世代の方が気にしていること、関心を持っていることと現在のシニアネットが目指しているものと、ギャップが出てきているのではないかと思うのですが、その点、先生はどのようにお考えか、お聞きしたいと思います。

吉田 敦也氏の回答

そのギャップは、私たちの度量、あるいは能力だと思うのです。ひとつは、団塊の世代は、プログラム化されて自分の可能性を引き出してくれるようなシステムを求めているのかもしれません。それは今ありません。団塊の世代に限らず、シニアネットの裾野を広げるためには、そういうものを作っていくことも必要です。こういう集まりですら、もっとテンプレート化して入りやすい形にしていくことが私たちの課題だろうと思います。そのため国の援助を求めることも必要かもしれません。

もうひとつは、合わないところは合わない、ということはあるかもしれません。お互いの話し合いがもう少し必要なのかとも思いますが、時代を作ってきた世代と価値観をどういう形で共有できるかはシニアネットの枠組みを超えてさらに大きな国民的課題です。

パネルディスカッション

「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットのさらなる飛躍」

■コーディネーター
吉田 敦也氏
徳島大学　総合科学部教授　地域創生センター長

■パネリスト（５０音順）
大橋　元明　　氏　ＮＰＯ法人　シニアＳＯＨＯ小金井　代表理事
斎藤　富士夫　氏　ＮＰＯ法人　湖南ネットしが　理事長
砂川　正男　　氏　ＮＰＯ法人　沖縄ハイサイネット　会長
中西　建策　　氏　ＮＰＯ法人　おおさかシニアネット　副理事長
柳原　正年　　氏　富山社会人大楽塾　代表

■吉田敦也コーディネーター

今日は全国からそれぞれシニアネットを運営されている方、あるいは主催をされて今日まで活発な活動を続けてこられた方に集まっていただきました。先ほど私はシニアネットのことについて紹介したり意味づけをさせて頂いたりしました。

ここからは、現場で実際にやっておられる方々に、そこでなされている貴重な、そして共有すべき活動内容や御苦労、地域性など、それぞれのお話をお聞きしたいと思います。そして、それに基づいてディスカッションすることで見えてくるものもあるのではないか、ということでこのパネルディスカッションを進めたいと思います。まず、自己紹介を含めてそれぞれの活動の概略を３～５分位でお話頂いて、どんな方が壇上にいるのか知りたいと思います。それでは柳原さんからお願いします。

柳原正年氏（富山社会人大楽塾　代表）

みなさんこんにちは。おくりびと、納棺師日記で一躍有名になりました富山から参りました、柳原と申します。よろしくお願いします。私どもの各論につきましては、お手元にシニアネットの会報がいっておりますので、その２ページ目に概略書いてございます。私ども大楽塾の位置づけとコンセプトをお話ししたいと思います。

私どもは、1989 年に首都圏１３か所に生涯現役フォーラムをつくって立ち上げました。当時のメンバーの方々もここに何人かいますが、当時はＩＴが個人で使えるような状態ではなかったので、あくまでも、人間対人間の会合でございました。定年後富山に帰りまして県民カレッジの講師をやりました。そこの受講生１２０名の方のフォローアップのために作った会があります。夢たまごネットワークと言うのですが、これを富山県の補助を得ましてＩＣＴを使った形で支援できないか、という

ことで始まったのが 2000 年でございます。
　現在の活動はラッキー部門とハッピー部門に分かれておりまして、ラッキー部門は一人称、まず自分がスキルアップすること、そして二人称、仲間とコミュニケーションをとって仲間を広げて行こう、さらに経済基盤のスキルアップにつなげていこうじゃないかということで、ここは多少運営費を生む部門です。
　一方、ハッピー部門というのがありまして、これはボランティアで社会貢献しているのですが、三人称で社会の為にというコンセプトで、笑顔健康づくり、福祉レクリエーションボランティアチーム、シニアネットとやまチーム「パソコンボランティアクラブ」という形でＩＣＴを基本に活動しています。
　シニアネットそのものを作ったのは 2000 年ですから今年で８年になりますが、ニューメディア開発協会様のおかげでシニア情報生活アドバイザーをこの年から養成することになりました。それが私ども大楽塾のメンバーの発信する力を付ける、また、リーダーシップのとれる力につながりました。
　そんなわけでラッキー部門はほとんど、シニア情報生活アドバイザーが発展的に取り組んできました。私どもはＮＰＯにするのではなくＬＬＰ（有限責任事業組合）型、個人事業主の集団型にしまして、コアメンバーは自分で事業をやってネットワークを作り、なにかプロジェクトがあったときには集まってやろうよ、というようにやっています。

コーディネーター（吉田氏）
　ありがとうございます。後ほどさらに詳しくお聞きして話を深めていきたいと思います
それでは大阪シニアネットの中西さんお願いします。

中西建策氏（ＮＰＯ法人　おおさかシニアネット　副理事長）

　おおさかシニアネットの中西です。私がこのおおさかシニアネットを立ち上げた経緯は、地元大阪の市会議員を３２年間やっておりましたが、定年制だったので、定年後何をしようかといろいろと考えておりました。
　2001 年に介護保険の勉強にアメリカに視察に行きました。当時アメリカにはそういう社会保障制度はありませんでしたので、どういうことかなあと思いましたが、そこで初めてシニアネットという言葉を知りました。ロサンゼルス、サンフランシスコ、シアトルのシニアネットを見て参りまして、あまり介護保険と関係ないと思ったのですが、これからの高齢社会を考えていくと、年金や医療費など、どこまで税金や保険料で賄えるのか、とても疑問を持ちました。元気でいかに生きるか、それが医療費の削減にもながる。また、超高齢化社会の中ではちょっとした仕事も必要になってくるのではないか。そんな思いで、私どもアンチエージング、墓場に入るまでは引退しない。という思いでやっておりました。
　そこで考えましたのは、インターネットという手段を使って、コミュニケーションをはかり、地域コミュニティ作りをしていこうという。大風呂敷を広げ、シニア世代にとって必要なことは全部やろう。健康はもとより、運動や趣味を通した世界など、そうしたもののネットワーク作りをしたい、という思いでこのおおさかシニアネットを立ち上げました。

2002年から準備を始め、2003年に、私の引退にあわせてシニアネットを設立しました。いろいろなことをやりたいと思っていたのですが、とりあえずシニアの皆さん方に情報手段としてのインターネット、あるいはメールなども出来るようにということでパソコン教室を始めました。ホームページも２年おきに改正をしておりまして、現在４回目の改正に入っております。その他の活動は、季刊誌「グランパ」発行のほかいろいろな活動を行っています。

最後に、アメリカの話に戻りますが、アメリカでは社会保障制度が日本のように国営でやられていません。シニアネットというのは一体どういうものかと、行くところ行くところで質問したのですが、よくわからない。大きな企業がそれぞれのシニアネットを支援して仲間作りをしているようです。ただ、それはお金集めを一生懸命しているようで、私はちょっと違う、と思ったりしました。

日本の場合、その時分は社会保障制度がしっかりしていましたので、そのことも含めて日本でのシニアネットの在り方を考えました。日本におけるシニアネット、またＮＰＯ法人制度との関係など、我々これからの１０年に向けて歩み方をいろいろ検討しているところであります。

コーディネーター（吉田氏）

はい、ありがとうございます。次は湖南ネットしがの斎藤さんお願いします。

斎藤富士夫氏（ＮＰＯ法人　湖南ネットしが　理事長）

湖南ネットしが理事長の斎藤です。よろしくお願いします。琵琶湖のある滋賀県から参りました。私どもは昨年４月にＮＰＯ法人湖南ネットしがを設立したばかりで、一年たっていない中、どう事業展開しているのかご紹介させて頂きたいのと、これからの活動についてお話しさせて頂きたいと思います。

私たちの会員は現在２９名いますが、シニア情報アドバイザーの認定を受けた仲間が集まって、地域で活動できる場の提供、ということで事業を進めていこうとしています。このアドバイザーのネットワークを使っていろいろな地域活動をしていこうと思っています。

私どもの主軸となる一つの活動は、シニアＩＴリーダーの養成です。この人たちが中心となってこれから説明する事業を展開しています。

まず、やさしいＩＴ教室、これはパソコン教室です。それから外国人市民へのＩＴ支援、地域組織、地域コミュニティへのＩＴ支援、そして、私どもは高齢者だけでなく、子供の健全育成ということで、ＩＴを通した切り口での支援、就学前の幼稚園児たちへのＩＴ支援ということをやろうとしています。

昨年、ペルー国籍の山内アルフレッドさんが私どものメンバーにもなられました。彼は、地域に住まれている南米系の方のＩＴ支援をしたいということで、シニア情報アドバイザーの認定資格にチャレンジされ、みごと合格されました。

次は、パソコン教室です。やさしいＩＴ教室ということで私どもでは教室スタイルではなく、シニアの目線で教えられる個別指導型で開催しています。また、昨年１０月からはマイクロソフトさんのＩＣＴスクールの認定を受け、これを開講しています。

また集落にある和風喫茶で、夕方、主婦の方、仕事帰りの方が集まってお茶を飲みながらパソコンを勉強するという講座もやっております。

パソコン同様、携帯電話もシニアにとって機能が使いづらいという方が多いので、携帯講習も開催しました

外国人市民へのＩＴ支援は、先ほど話しました山内アルフレッドさんが、パソコンの操作および通訳業務をしながら講座を受け持っています。湖南市の場合、外国人市民の方が５%位いて、全国でも１０本の指に入るほど外国人がいます。そこで、湖南市の国際協会との協働事業という形で、外国人市民の方にパソコン操作と、パソコンを通した日本語を教える活動をしています。ご家族で来られて、和気あいあいとアットホームな感じでやっていて、たまにはオフ会でランチを持ち寄って話をしたり、日本文化を紹介したりして交流しています。

地域コミュニティへの支援では、ホームページやブログの作成を応援し、ブログで自らが情報発信できるようにする活動をしています。

子供向けには放課後を利用して、ＩＴを通した切り口で、インターネットを検索してよく飛ぶ飛行機を実際に作ったり、ペンタブレットを使って塗り絵をしたりと、シニアと子供が一緒に活動しています。

また、小学校高学年から中学生を対象に、ＩＴを使って少し高度なプログラミングをしてリニアモーターを動かすというようなことをやりました。理工系、あるいはプログラミングというエンジニアリングのセンスを小さい子供のころから身につけてもらおうという活動をしています。

さらに、小さい子供たち向けに、これは現在計画中ですが、今年の夏休みに湖南市の幼稚園にキッズスマートという幼児教育用プログラムのキットを寄贈します。これは、ゲームではないのですが、ゲーム感覚を持って数字や形、物の大小を学び、各園に一台ということなので順番を待つというような教育にも使えるのではないかと期待しており、このデモ機を明日の交流広場でも展示します。明日は是非私たちのブースにお立ち寄りください。

私どもではＩＴというかかわりと、シニア情報アドバイザーの会員が街づくという接点で活動している団体です。よろしくお願いします。

コーディネーター（吉田氏）

はい、ありがとうございます。それでは、沖縄ハイサイネットの砂川さんお願いします。

■砂川正男郎氏（ＮＰＯ法人　沖縄ハイサイネット　会長）

ハイサイ！

ハイサイというのは沖縄の方言での挨拶ですが、中国でニーハォとか、ハワイでアロハ、アメリカではハイとか、そういう挨拶の言葉で、朝、昼、夜関係なく、とても親しみの沸く言葉です。そういうわけで私たちは地域性をアピールしたかったので、沖縄シニアネットとはせずに、沖縄ハイサイネットとしました。

沖縄ハイサイネットのメインテーマは『常に楽しく』です。楽しくないことはやらない。難しいことはやめておこう。とい

うことで、常に楽しくということが沖縄ハイサイネットのメインテーマになっています。
沖縄から東京まで 1,500ｋｍ、沖縄は昨日まで２６℃だったんです。車も冷房、部屋の中も冷房を使っていて、ここに来ると暖房になっていて調子狂っておりますが・・・。
沖縄というとサンゴ礁と、ハイビスカス、そして私の大好きな泡盛。わたしはどうにかして美味しい泡盛が飲みたい、あるいは泡盛のルーツが知りたくてコンピュータを始めました。平成元年に始めて、中国とか韓国とかルーツを求めてアクセスはどうするか、旅の旅程はどうするかというのに使いました。また、沖縄の芸能。また、料理も欠かせません。沖縄では横の社会を大切にしますから結婚式では３００人～５００人くらい招待します。それは知人、友人、職場の同僚から全部呼びます。酒と踊りとごちそうがないとお祝いになりません。これが沖縄の総合文化です。
今日は交流を中心にお話しさせて頂きますが、交流の手段としては、
・文書を使用して行うもの→ハガキや手紙、
・通信機器を利用するもの→電話、Fax、メール、
・通信映像を活用するもの→テレビ、電脳映像、
・相互の直接的友好訪問→シニアネットの交流、
・グループ・個人交流→イベントやフォーラム等、
こういうような交流の分類があるのではないかと私は思っています。沖縄ハイサイネットの活動方針は、次の２本の柱を持っています。１つはシニア向けパソコン講習会等の実施、もう一本が国内・海外シニアネットとの友好交流です。
１つ目のシニア向けパソコン講習会は今１８クラス持っています。１つのクラスに講師が１人つき、４人がサポーター、そしてサブサポーターが５人位つきます。１５人から２０人のクラスになると１０人位が関係して教えているというシステムをとっています。現在までの受講者は延べ 9,000 人に上っています。
また、国内・海外シニアネットとの友好交流では、アクティブシニアを大切にしなければなりませんので、ネット上で、バーチャルの世界で友好交流してもしょうがない。実際にそこに行って、自然や、食べ物や、直接お会いしてそこの文化を吸収して来たりします。これまでに、仙台シニネットクラブとの友好交流会、台湾タイペイシニアネットと海外初の友好交流会、韓国ソウル江南区シニアネットとの友好交流会、ハワイシニアネットとの親善交流などを実施してきました。
パソコンの教室や通信環境の整備は市や県の役目だと思っておりまして、そのような環境の整備を行政に支援を頂き、そのほかは全部自前で、年間予算 1,000 万ほどで頑張っています。よろしくお願いします。

コーディネーター（吉田氏）
はい、ありがとうございました。それでは、シニアＳＯＨＯ小金井の大橋さんお願いします。

大橋元明氏（ＮＰＯ法人　シニアＳＯＨＯ小金井　代表理事）
ＮＰＯ法人　シニアＳＯＨＯ小金井の大橋です。3日前にお話がありまして、塩見様がご病気で来られないがどうだということで、スケジュール表を見ましたら昨日と明日は埋まっているけれど、今日は空いていたのでお受けしました。ところが一昨日、写真とプロフィールを送

れといわれ、しまったと思いました。急遽それを作って送りました。

小金井市というと知らない方もいるようです。三鷹の先、北に小金井公園、南に武蔵野公園、野川公園と南北に大きな緑地帯を持っています。東西南北４キロ四方の狭い中に大学のキャンパスが３つもあるのです。また、日本標準時を出している、情報通信研究機構という大きな研究所もあり、緑も多く、ほとんど住宅で大変住みやすいところですが、困ったことに税収がないのです。大学は税金を取れないし、ほとんど都立公園です。

それで、地域にはいろいろな課題があります。そこに、シニアが活動できる場があっていろいろやっているところをご紹介します。

退職されて家に閉じこもる方がたくさんいます。そういう方にもっと社会参加していただきたいということで、地域参加支援講座をやっています。この正式名称は「団塊の世代のための地域参加支援講座」といいますが、団塊の世代の方の集まりが悪いので、チラシはそれをなくして出しています。2003年からやっていまして、ホームページにはその様子が載せてあります。座学や公園でバーベキュー、農工大の博物館、江戸東京たてもの園、など。小金井市には、ジブリスタジオがあって、「千と千尋の神隠し」のモデルになった場所です。ジブリスタジオから小金井市に美術館を作りたいと申し入れがありましたが、小金井市は断ってしまって、三鷹に持っていかれました。三鷹の行政はすごいなと思うわけですが、今ではそこにわんさと人が集まります。

もう一つのプロジェクトとして、ごみゼロネットというのをやっています。小金井市は今、焼却場問題でもめているのですが、ごみゼロ社会を作ろうということで、そこに１００名ほどのシニアが参加しています。ごみゼロ社会は「ごみは資源だ」、というのが基本であり、こういった分野にシニアが参加してごみゼロ推進会議とか、ごみ問題市民ネットワークなどに参加しています。また、そのホームページを私たちが作っている。さらに、これからはゴミを燃やす時代ではないということで、筑波や、大垣など、新しいごみ処理の方法をあちこち見て回っています。

次は、まちづくりですが、「地域情報サイト、小金井ｉｎｆｏ」という商店ガイドのようなホームページを立ち上げています。目的は街の活性化、その支援です。グーグルのＡＰＩを利用して市内のほとんどのお店を網羅したマップを作っています。また、イベントカレンダーや、シニアが街に出てイベントなどの情報を発信するようなこともやっています。

福祉関係では、障害者トイレの問題をやっています。市内にある障害者トイレの分布の発信、問題点の行政への提案を行い、小金井公園の障害者トイレが改修された成果を上げています。

次に、情報技術ですが、今の時代、団塊の世代の方はほとんどパソコンができます。そこでどうしようかということで、いろいろ新しいこともやっています。ひとつはオープンソースソフトの利用です。これら（Ubuntu 、OpenOffice、GIMP、lnkscape）はみな無料のソフトです。今世界中でオープンソース化の流れがあります。ヨーロッパでは、Windows から Linux に代わっています。そういう流れを受けて、Ubuntu 、OpenOffice、GIMP、lnkscape などの普及活動をしています。３月８日、次の日曜日に Ubuntu やそのほかのソフトのセミナーを開催します。

ということで、シニアの力を生かして地域に貢献する。また、退職後の人たちを地域に呼び戻すという２つのことをやっています。

ハーバード大学で研究してその結果出た結論は、健康、心身機能の向上、積極的な社会参加、この３つが相乗効果を持っていて、ひとつを欠いてもうまくいかない。健康や心身機能の向上は個人レベルの問題ですが、積極的な社会参加は社会全体で取り組んでいかないとうまくいかないと思います。この３つをテーマにしてご紹介したような活動を行っています。

コーディネーター（吉田氏）

ありがとうございました。これは大変と思っていましたが、面白くなってきました。

柳原さんは富山でのＬＬＰ型シニアネットの活動を簡潔にまとめてくださいました。

大阪シニアネットの中西さんはＮＰＯ論を含めて元市議ならではの話題提供がありました。私たちは税金を払っているけれど、病気の人たちにしか皆還元されておらず、元気な人たちに還元されていない。そういう視点をとても面白く感じました。

湖南ネットしがの斎藤さんのお話では、日本在住外国人の支援、レゴのマインドストームを使ったロボットプログラミングの話、キッズプログラムの紹介などがあり、経営の考え方に、引き込まれました。

ハイサイネットの砂川さんからは、文化伝承、交流に徹底した活動が紹介されました。沖縄という地理的条件を生かしたシニアネット活動が魅力的です。

最後、シニアＳＯＨＯ小金井の大橋さんからはオープンソースという話が出てきました。これはシビレますね。なにがシビレルかと言うと、linuxの講習をして受講生が集まることです。小金井の立地条件、研究学研的なゾーンがあることが関係しているのでしょか？

大橋氏

よくわかりません。多少はあるのかもわかりませんが１回に４～５０人は集まります。

コーディネーター（吉田氏）：経済面と技術力の確保について

私が主宰するＮＰＯいきいきネットとくしまでもＭｓオフィスやめてオープンオフィスにしようと思うくらい、やりたいなあという気持ちが湧くようなご発表でした。グーグルのＡＰＩの話なども非常に魅力的でした。ユニバーサルタウンづくりに結びついて、Recycle とか、街を作っていくコンポーネントになっていると思いました。そのあたり、とてもうまく出来ていると思います。

皆さんそれぞれの持ち場があって、私は非常に楽しく聞いていました。これに関連して、マネジメントについて取り上げてみたいと思います。湖南ネットしがでは、子供たちにマインドストームを使ってロボットプログラミングを教えておられますが、運営側の技術力はどうしておられるのでしょうか？　また財源はどうしているのか興味がわきます。皆さんは、そういう

経済面と技術力の確保はどのようにしておられますか。とりあえず湖南ネットしがさんから聞かせて下さい。

斎藤氏

我々にはバックがあるわけではないですし、アドバイザー認定者２９名の会員ですから、年間に一人 3,000 円の会費収入ではとても経済力といえるようなものではありません。そこで、協働ということを設立当初から考えていました。協働というのは行政との協働もありますし、企業との協働も考えています。企業が社会貢献活動をやるとしてもなかなか地域密着ではできないが、地域で活動するＮＰＯが一緒にやることで、企業からは支援金や寄付を頂いて、受益者である幼稚園などでは無償ということで、運営の面では企業との連携ということ強く考えています。また、無償ということで、教育委員会などに働きかけても話が早いというメリットもあります。

コーディネーター（吉田氏）

どうでしょう、資金調達という面では、私なども困っていますが、協働というのは事業費は出るけど組織を維持するお金は出ないですよね。そういうのはどうしておられますか。

斎藤氏

われわれは、派遣、人材を含めて事業費として頂きます。われわれはボランティアではなく、会員が行った対価は頂く、という形をとっています。まあ、最低金額ですが。

コーディネーター（吉田氏）

それで生活は成り立ちますか。ＮＰＯ活動を生業としたい人がいたとして、その人に応えられるような給料が払えますか。

斎藤氏

現在では無理です。今は雇用をしておりませんし、専任もありません。計画ではあと２年以内に事務所を持って常任を置きたいと考えています。

コーディネーター（吉田氏）

つまり、自立ということを一つの目標にしていると？

斎藤氏

そうです。

コーディネーター（吉田氏）

なるほど、すばらしいですね。

ハイサイネットは事業規模1,000万円とおっしゃっていましたが、どういう種類の事業や収入があるのでしょうか。

砂川氏

私たちはもっぱら受講料です。初級、中級、上級と１８クラスやっています。また、県や市など公的機関から運営費は一切もらいません。それは、物が言えなくなってしまうということと、シニアになって、これまで職場や社会にいろいろお世話になっていますから、地域に対してご恩返しするのが当たり前であって、自分たちのことは自分たちでやろうという理念でやっています。ＮＰＯだから営利は出さない、できるだけプラスマイナス０で行こうとしています。ですから講師料はほとんど交通費、ということでボランティアとして協力して頂いています。事務所はハイサイネットが借りて運営しており、専任の事務員がいます。

コーディネーター（吉田氏）

ありがとうございます。

受講料で1,000万というのは、講座に対する地域ニーズが高いということですか。

砂川氏

そうですね、年間で言うと３か所でいろいろなクラスをやって、延べ1,000人ぐらい終了しています。

コーディネーター（吉田氏）

たとえば沖縄は基地の関係から建設業者などの入札も電子入札がかなり進んでいると聞いていますが、そういった専門業種からの受講というのはありますか。

砂川氏

そういうものはありません。琉球舞踊をやっていたとか、学校の先生をやっていたとかいう人が多いです。

コーディネーター（吉田氏）

すばらしいですね

小金井のほうはどうでしょう。

大橋氏

小金井はパソコン教室もやってはいますが、年間数人程度しか来ません。シルバー人材センターでも大々的に宣伝してやっていますが、それも来るのは１～２人。公民館でも無料のパソコン教室をやっていましたが人が来ないのでやめるということです。そんなこともあって、新しい基軸でオープンソースの普及ということを無料で行っています。

コーディネーター（吉田氏）

ウインドウズの講座は有料だから来ない、オープンソースは無料だから来る、ということはありますか。

大橋氏

ウインドウズでパソコン教室をやっても来ないのではないでしょうか。団塊の世代の受講者がきてもほとんど全員メールができる。そういう時代だから、収益ということを考えたら、パソコン教室は今後どうするかというのは課題になってきます。

コーディネーター（吉田氏）

なるほど。地域性もあろうかと思いますが、大阪シニアネットは規模もかなり大きく、経営的な観点、ノウハウも構築されていると思いますがいかがでしょうか。

中西氏

非常に大変でして、これから１０年のシニアネット、財政的なスキームをどうするのかということを考えていかなければなりません。私ども、いろいろなことをやっていますけど、ホームページをやり替えたりするのも、わずかなお金でやってもらっている。たまたま国のＩＴ５カ年計画の制度に則り、老人福祉センターでやっているパソコン講座を受託して、我々の主催

講座も含めると毎月３００名程度の方が講座に入っています。グランパという冊子も出しておりますが、１回出すと７０～１００万円ほどかかってしまいます。これも広告取りにヒィヒィ言っています。

いろんなことをやり過ぎでして、シニアの為の全てのこと、というのが頭にあったものですから、風呂敷広げすぎて包みきれんというのが現状です。

コーディネーター（吉田氏）

自分のことばっかり言ってなんですが、徳島でシニアネットをやっていますが、事業受託といっても、そもそも地方には受託する事業が少ないのが現状です。そこのあたり柳原さんいかがでしょうか。地方の悩みとか。富山はいっぱい受託事業がありますか。

柳原氏

いや、そんなにないです。私どもは女性が多く、約５００名中で８０～８５％が女性です。これはもともと県民カレッジの私の講座の受講生の方１２０名から始まりました。そのために、こちらのＮＰＯ法人のようなやり方ではうまくいかないということがわかってきた。

私どもの組織では、一番目のパソコン アシストチームでパソコン教室をやっています。この講師に時給1,500円払っていまして、残りは運営費。

２番目のＩＣＴ指導者養成チームは商売になりません。

３番目の講演・研修チームは富山県・富山市・医療専門学校・企業などから、昨年は３００万円ほど受注がありました。私単独の講演も年間１００件ぐらいあります。そこからの上がった分のうち私の場合は全部、他の人も半分を運営費にしています。

４番目の生涯学習大楽講座はストレスケアとか、笑いと健康づくりといった健康指向で、一回２～３千円の受講料を頂いています。また、

５番目の朝食会は会費１千円で半分は喫茶店に払って残りを運営費に回している。というようなことで、多いときは年間５００～６００万、少ないときで３００万位にはなります。そして、ここのスタッフがみんな女性なのですよ。みんな我慢してくれて、時間1,500円です。そんな形で、入ってきたものを、コアメンバー２１名がＬＬＰ型の事業型でやっています。

というのはＮＰＯ法人にしていないので税金の問題が出てきてしまう。そのため、個人事業主としてやれば免税効果も出てくるので、あえてＮＰＯにはしませんでした。つまり、個人事業主の集団化という形でやった上で運営費を入れ、さらに年会費3,000円があります。

先ほど吉田先生から富山は受託事業がいっぱいあるのではないかと言われましたが、３番目の講演研修チームは富山県とか市町村から講演を頼まれますが、テーマはＩＴではなく生きがいづくりで来ます。その中でＩＴを使っていますということで、インターネット市民塾とかシニア情報アドバイザー制度の話をします。これからのシニアの世界は、シニアパワーで福祉文化を作り上げていくのだという気がするし、これが今後のキーワードだと思っています。

６５歳以上が３人に１人になって７０歳以上で家に閉じこもっていたらボケてくるのです。そのためにＩＴをどう使うかなのですが、最終的にはＩＴオタクを作りたくない。出てらっしゃいと言うのだけれども出てこられない。そこが問題なのです。

これまで大風呂敷を２０くらいひろげましたが、８年たって整理したのは福祉文化というところで、昨年から福祉の分野に特化しています。これはＩＣＴが基本で、使うということを前提にフェース ツー フェースの世界へ誰か入らなければならない。自分のＩＴスキルがどうだ

とかいう話ではなく、現在の政府ができないことを我々がやるのだというくらいの大風呂敷を広げて、福祉にどうＩＣＴを使っていくかということが私どもの課題としています。

コーディネーター（吉田氏）：今後に対する抱負などの発言を求める

ありがとうございます。ＩＣＴの話が出てきましたが、ＩＣＴはシニアネットのインフラ的要素であるけれども、ＩＣＴを使う、使わないは二の次であって、むしろ地域課題をシニアパワーで解決することが本質ということですね。こうしたすそ野の広がりについても考えていきたいところです。その意味で、今の柳原さんの話は切り口としてとても新鮮思えました。

今後の方向性を含めてシニアネットはどうあるべきか。その位置づけのなかで自分たちはどういう方向を目指しているのかということを、今まで言い残したことも含めてお話頂きたいと思います。

小金井の大橋さんからお願いします。

大橋氏：今後に対する抱負など

私たちは、資金が大きな問題です。理科系の人間が多いのですが、営業マンがいればもっといろいろ出来るのではないかと思うしそれが資金になって還元されていくと思っていますがなかなかむずかしい。ソーホーも受託や訪問サポートなどポチポチある程度です。

また、地域情報サイトも、できたらバナー広告なり掲載料なりをもらいたいと思うのですが、行くと皆さん大変きびしいしなかなかお金を下さいと言うところまでいかないので、無料でやってしまうことが多いというのが現状です。

皆さんは年金をもらっているので、お金がほしいという言う人があまりいないというのもありがたいことです。

ごみゼロネットはボランティアでやっています。大垣に最新のごみ処理施設があるのですが、ここへ皆が自前で見学行かます。これを議員さんが行くと視察になるのです。見学と視察の違いは、自前で行くのが見学で、公費で行くのが視察かなと思ったりします。まあ、シニアの方はボランティア精神が旺盛でなんとかこの街をよくしたいという思いで、大変多くの方が集まってくれ、一生懸命やっている。それは、これからのシニアの可能性を示していると思います。

また、これまで地域に無縁であったということが、逆に変なしがらみがまったくないので、自由な発想で自分が今までやってきた専門分野で街を良くする貢献ができる。環境問題で小金井が最先端になろうじゃないかという意気込みでやっています。これもシニアの今後の生き方かと思います。

コーディネーター（吉田氏）

街づくりに、中立的な立場を利用し、時間に追われない発想で参加している。そういう役割があるだろうということだと思います。

それでは次に砂川さん

砂川氏：今後に対する抱負など

私どもが常に掲げているテーマとして、生活に役立つかどうか、便利な機能であるかどうか、趣味に活かせるかどうかという３つの視点が必要だと思います。これを自ら講師、サポーター

が３つの視点で勉強しスキルアップしていくこと、そして、感動と発信ということを大切にしたい。自らが喜んで、感動してすばらしいと思わなければそれを発信することはできないと思います。

私ども、講師、サポーターは実働７０人、サブサポーターを入れると１００人を超えます。自分たちのクラスで講師、サポーターが生き生きと楽しんで喜んで参加する。パソコンだけでなく仲間を作る。生きがいを作る。ということが大切だと思うのです。パソコン講座を終わると一緒にコーヒー飲みに行ったり、買い物に行ったりというグループができて、それがまた楽しい。

また、スキルアップが是非必要です。シニア情報生活アドバイザーという制度は大変素晴らしいもので、こういった全国的なフォーラムが年２回開かれているのはお互いの情報交換の上で非常に大切です。

私のところではシニア情報生活アドバイザーに認定されるとすぐサブサポーター、サポーターの見習いになって勉強する、そして、週に１回スキルアップ講座を設けている。これは、専門の先生が来てやるのではなく、講師の中でオートシェイプが得意な人はそれをやる、デジカメが得意な人はその人が講師を務める。そのような形でやっています。

もうひとつ、国際的な交流も大切にしたい。沖縄は移民県です。ブラジルやアルゼンチン、ペルーなどに９０代の一世の方がたくさんいる。沖縄にはエイサーという勇壮な踊りがあるのですが、その方々は生きている間にそれが見たいとおっしゃるけれどブラジルやアルゼンチン、ペルーなどから一人ではこられない。３人位で来たのでは費用が大変だ、ということで、市役所にお願いしてエイサー祭りをネット中継で見てもらい、非常に喜んで頂きました。韓国のソウル江南区、世界一電子化が進んでいるといわれているところとも交流を持ちました。メールは国際的にもすぐ送受信できますのでそういう人たちでもっともっと広くメールを使っていくような国際的なことも大切にしていきたいと考えています。

最後に、講演の中で吉田先生が提唱された全国的なシニアネットセンターは是非作っていただきたいと思います。

コーディネーター（吉田氏）

ありがとうございます。

沖縄ハイサイネットのポジションは指導者のスキルアップ、交流というのを大切にしていきたい。そういう形で地域の底上げ、あるいは地域支援をやっていくというところが見えてきました。

湖南ネットしがでは、ペルーの方が参加されていて、多文化交流しておられます。今の話と接点があるようなのでその辺をお話しくださいますか。社会の中での移住者や外国人に対するサポートなども含めてお願いします。

■斎藤氏：今後に対する抱負など

ではまず、ペルーから来た山内アルフレッドさんの話ですが、彼は高校生の頃に日本に来られていて、日本語はできる状態です。本人は湖南市近隣の外国人たちを支援したいという気持ちが強く、シニア情報生活アドバイザーの認定を受けてサポートしたいという気持ちを持って我々の会に入って来ました。我々もそういう方々のサポートをしたいということで、昨年から

湖南市の国際協会と協働で事業を始めており、国際協会からは事業費も頂いています。
しかし昨今の不況の中でほとんどの外国人の方が解雇されています。行政がハローワーク等で再就職の支援をしていますがやはり日本語ができないこともあって大変難しい状況です。我々もパソコン教室のパソコンを使って履歴書を作るというような支援を行ったりしています。残念ながらあまりこられていませんがこういった環境の中で支援を行っています。
また、冒頭に話しましたようにアドバイザーのメンバー２９名が自らの生きがい作りという目標で、地域に参画して、幼稚園から高齢者までを対象にしていろいろな事業をやっています。パソコンや携帯電話の講習に来られる方はＩＴの利活用を通して自分の生活を楽しんでいただく。さらに、パソコン教室を長く受講されている方の中からは、教わる立場から教える立場に立つ人も出てきています。
それと、ＮＰＯということで企業と違って横のつながりが取りやすい。横でやっていることをまねをし、情報交換がすぐにできて、良いと思ったことをすぐに取り入れられます。
先日は総務省と税務署ですか、ｅタックスの普及ということで急遽、全国のＮＰＯ、パソコン教室でやるというということが決まりました。我々は8回ほどやりましたが、そういった連係、横のつながり、ネットワークを繋げるようなことを今後やって頂けると、我々現場でやっている者たちも、先進的な事例がどこに聞けばよいのかわかるので、ありがたいと思います。

コーディネーター（吉田氏）

ｅタックス講習会の案内に限らず、情報はメーリングリストで流し、参加希望者は手を上げてください、というような方式がいいですね。そのためシニアネット連携のメーリングリストも欲しい。本当に情報の流通が悪いです。
それはさておき、湖南ネットしがではシニア情報生活アドバイザーがありき、という感じですが、柳原さんのところもシニア情報生活アドバイザー養成講座がきっかけで人がよみがえったというか成長が起こったという話がありました。大阪もそのような言い方をされていました。シニア情報生活アドバイザーというのがシニアネットの大きな原動力というか、エネルギーになっていることは間違いないですね。その割にはもうちょっと体制的に頑張ったほうがいいかなという思いもあるのですが・・・。
シニア情報生活アドバイザーの存在とそのシステムの重要性が少し再認識できたなあと思います。
それでは大阪シニアネットの中西さんお願いします。

中西氏：今後に対する抱負など

シニアネットというのは一体どういう目的で何をやったらいいのか。これがこれからの１０年の課題ではないか。行政とのつながりも必要になってくるのではないか。また、求められている方も、社会的に貢献をしたいとか、やりがいがあるということをボランティアの条件にされている方もいますし、少しでもお小遣いになったら、というような調査結果も出ています。
そこで、シニアネットをどのような観点で見たらいいのかといいますと、ひとつは事業性の面から、もう一つは社会性の面から見る場合があります。事業性を縦軸、社会性を横軸にとって考えますと、上のほうにコミュニティ・ビジネスがあって、これがもっと上に行ったら完全に事業になる。シニアネットとしてはまだ事業の段階に行かない、地域の活性化や地域とかか

わりを持ってやっていくコミュニティ・ビジネスというところまでかと思います。
　一方、ボランティアの立場で考えますと事業性は低いけれど地域と密着した仕事が多い。やはり「やりがい」のある仕事、「社会貢献」ということを重要視している方が多い。そして、少しでも年金プラスの世界が自分で作れないか、とお考えの方が多くいる。ですから、ボランティアといえども有償でお金を支払わなければならない。
　どんな仕事を、ということになると行政との連携ということも必要になる。私たちは行政との連携でＭＡＷＳＮＥＴというのをやっています。大阪市の提案で、団塊の世代の人たちがどんどん社会に出てきたときに、その人たちに良い働きかけができないか、ということで、私どもが大阪市にＭＡＷＳＮＥＴを公募提案して取り上げられました。ＭＡＷＳＮＥＴは双方向のＳＮＳの方式を取り入れてやったものです。輝ける「場所・活動・出会い」というコンセプトで、団塊の世代の自己実現を後押ししようとするものです。

コーディネーター（吉田氏）
　ありがとうございます。事業性と社会性という明確なキーワードで位置づけをしていくということですね。
　それぞれの可能性を抑えない形で全体としてはコミュニティ・ビジネスだということでしょう。今言っているコミュニティ・ビジネスというのはソーシャル ビジネスに近いのかもしれませんね。事業規模はいろいろあるけれど、公益性としてのバランスはとっているということですね。
　それでは、柳原さんお願いします。

柳原氏：今後に対する抱負など
　私はシニア情報生活アドバイザーが決め手だと思っています。８年間やってきてコアメンバーがコミュニティ・ビジネスの出来るようなスキルを付けながら自分の専門性を高めて、そのネットワークの中に広げていく。
　シニアネット１０年目を迎えてどう整理するかというと、多様化という問題で、すべてのシニアネットが総合商社、あるいは総合デパート化しなければいけないのか。それはそうじゃないと思うのです。特化した専門店型があってもいいのではないのか。私たちは８年間やった結果、たどり着いたのは、福祉文化に特化したＩＣＴを使った専門店型の、しかも女性が中心の健康と介護、福祉。このへんだったらまだコミュニティ・ビジネスとして成り立つだろうということが見えてきたのでそこに入り込んだんです。
　女性が持っている楽しさの感性を使おうとしたらやはり楽しみ系、健康系だろうと思いますのでこの辺で脱皮しなければならない。その中で、平均寿命は女性８５歳、男性７９歳。平均的にここまで生きるわけですが、何らかの介護が必要になる分岐点は男性が７１歳です。
　ここにいらしてる方は年を感じませんから関係ありませんが、平均的にここに出てこられない方の半分が７１歳で奥さんに介護されているか、介護サービスを使わないにしても家でそういう状態になっているのが現実だそうです。女性は７６歳。つまり女性の場合で９年間、男性だと８年間は何らかの介護が必要な状態になっているということです。その分岐点で介護のお世話になるのか、ピンピンころりで１００歳まで行くのか。その辺を我々は社会問題として、引きこもりをやめて、シニアネットで交流する社会を作り上げる必要があると思うのです。

これからの社会、ＩＣＴは高齢者にとってＱＯＬ（生活の質）並びにＡＤＬ（生活基礎動作）です。万一寝たきりになってもパソコンは見えるわけですから、そこの中でどうやってネットワークとして本領を発揮していくか。自宅に居て、外部との開かれたネットワークの中でＡＤＬ、ＱＯＬを高めながら、平均健康寿命を延ばす。そういうことがこれからのシニアネットの願いです。

私ども富山社会人大楽塾では、現役でピンピンころりのことを、ある日突然倒れて三日ほど看取られてさよなら、というのが最高としています。寝たきりで長生きしたってしょうがないのです。そこをシニアネットとしてやるにはシニア情報生活アドバイザーの今のスキルではだめなのです。ちょっとワード、エクセルが教えられて、インターネットができるというのではもうだめです。それには付加価値が必要です。私のプロフィールのところに資格が書いてありますが、健康生きがいづくりアドバイザー、余暇開発士、レクリエーションコーディネーター、福祉レクリエーションワーカーという資格を取り、これが今生きてきている。これをシニア情報生活アドバイザーの皆さんにも取ってもらいたい。そしてシニア情報生活アドバイザーはＩＴを使える上、それだけの付加価値があるから役に立つということを売り出さない限りは、せっかくいい制度なのに生かされない時代に来たのではないかと思います。本日はこの問題を提起したくて参りました。

コーディネーター（吉田氏）

はい、ありがとうございます。それは是非、議事録作成者に今のところを間違いなく書いて頂くように言いたいです。

今の議論は非常に重要で、私は全然だめだとは思わないですけど、次のステップがないから今のような提言を誘発してしまうのだと思うのです。私が特別講演のなかで紹介した厚労省の健康・生きがい開発財団の生きがい情報士は、平成１０年から平成１８年までの８年間で、6920名誕生しています。

シニア情報生活アドバイザーの歴史から考えると養成速度は似たようなものかと思います。今の柳原さんの健康生きがいづくりアドバイザー、これ考えるとあっちもこっちも取っているという人がきっといるということですね。一本化したらいいと思うのだけれど、その時は是非シニア情報生活アドバイザーが基盤になることがいいですね。そのためにも戦略が必要で、もっと裾野を広げてまずは人数を倍にする工夫をしなければいけないと思います。

さっきほど紹介した本には、「能動的な職員に出会う」というのと、「先端技術より、ニーズに合ったＩＣＴ活用」というのがありますが、柳原さんがおっしゃっていることはまさにそういうことだと思います。

シニア情報生活アドバイザーの今後というのは、次のステップ作りということが大切で、それを考える場を作らないといけなし、行政、役人との間をつないでいく役割を誰かが担っていけるような仕組みを考えないといけない。ちょっと今のままの体制では難しいのではないかというご発言ですね。

さて、いろいろ議論をしているうちに時間が経ってきました。あと２０分ほどになってしまいましたがご参加の皆様からご質問をお受けしたいと思います。

会場よりの質問

二点あります。一点目は大阪の中西様にお聞きしたいのですが、これからのシニアネットも財政というのが大事なところだと思いますが、私どもにも機関誌を送って頂いております。先ほどお聞きすると７０万円もかかるというお話でした。そこで、機関誌を発行する目的があって、経費を７０万円かけて発行しているわけですが、それに対してどんな効果があったのか、今後も続けていくのか、忌憚のないご意見をお聞かせください。

もう一点は、大橋さんにお聞きしたいのですが、先ほどオープンソースの話がありました。私のところも５０台からのパソコンを持っていますので、ＸＰやVistaがあって、これから何年後にはまた変わるのかなあということになると、Linux 化も考えるべきなのか、とも思いますが、このへんの見通しはいかがでしょうか。

中西氏の回答

会報紙を年２回発行しています。登録会員は3,000人ほどいますが、これを全員に送ります。会費を強制しておりませんので、2,000 円の年会費を納めてくれるのは４～５００人位です。でも関心を持って頂いている人たちに私たちのやっている事業をちゃんと報告したいということで始めました。おっしゃるように大変です。広告を募るのが大変です。また印刷会社には、言うならばボランティア料金で協力して頂いていて、なんとかしてやり続けようと思っています。

大橋氏の回答

2003年に、世界各国、特にヨーロッパでオープンソース化を進める動きが出て、Windowsがもう使えなくなっています。すでにスーパーコンピュータの９５%がLinux化しているということですし、電話や家電にも利用されています。ＯＳ自身も非常に安定していてウイルスの攻撃もあまり受けない。しかし数年前まではコマンドを打たなければならず、家庭で使うパソコンにはとても使いにくかった。それが３年ほど前、Ubuntu（ウブントゥ）というのが出てきまして、今、世界的に使われだしています。世界では Ubuntu 搭載パソコンが市販されていますが、日本では、Ｄｅｌｌがインターネット販売だけは行っていますが一般には市販されていません。日本も 2007 年に経済産業省が、これからはオープンソースにするということで、ＷｏｒｄやＥｘｃｅｌは買わないしそういう言葉は使わないとしています。非常に速いし優秀なのですが、日本では普及が遅れています。でも一度使い始めれば後戻りできませんし、全部無料でできます。またWindowsはXPだ Vista だとバージョンアップがありますが、それがないのもいいですね。

会場よりの質問

湖南ネットしがの斎藤様のところはシニア情報生活アドバイザーの方をコアにしていろいろ活動されているようですが、やりたい人をどうやって集めておられるのか、やりたい人を集め

る仕組みをどうされているのか、お聞かせください。
斎藤氏の回答
私どもは市の行政と、一緒に何かしませんか、というスタンスでいろんなことをやってきました。その中で、ＩＴという切り口で、公民館の講座とか市の学習交流センターの企画としてやらせて頂き、講師料は行政からは頂かない。受益者負担、あるいは無料で行い、その代り会場費やチラシ広告、市の広報紙、申込受け入れ業務などは市の協力を受けていて、それなりの市民が集まっています。ということで、行政とうまく手を組ませてもらっている、というのが現状です。
会場よりの質問
ボランティアでパソコンを教えたりしていますが、ハイシニアの女性などは、パソコンなんかよりも、家のテレビで２年半たっても地デジというのは見えるかどうか、とか。ブルーレイはどれを買ったらいいのかとか、海外旅行に行くのだけれどビデオカメラで・・ＨＤＤとか書いてあるのは何とか、携帯で歩数計を使うにはどうしたらいいのだとか聞かれるのですけれど、先生たちのところでは、パソコン以外のデジタルライフの質問にどのように対応しているのか教えてください。
コーディネーター（吉田氏）
そういう質問はどんどん答えてあげたらいいのでしょうか。
総合司会者よりの発言
私、電気屋さんの奥さんなのですが、このことはずいぶん質問されます。お店でパソコン教室も開いていますが、パソコンを習いに来ている人が、今日はじっくり話がしたいってことでそんな質問を受けたりします。やはり私たちも勉強しないといけないのですね。シニア情報生活アドバイザーというのはあくまでもアドバイザーです。情報生活ですからパソコンだけではないのですよ。パソコンがいじれて素晴らしいスキルを持っている方が必ずしも良い先生だというわけでもありませんので、やはり勉強して頂きたいと思います。街の電気屋さんに行って聞いてきてもいいのでは。

コーディネーター（吉田氏）：最後のまとめ
今のご発言は、一緒に考えるというところがポイントではないでしょうか。若い人はネットで調べてしまう。シニアはそれがなかなかできない。だから街の電気屋さんの時代になってきました。シニア情報生活アドバイザーと連携した家庭医型電気屋さんが、わからないことを一緒に考えるというのはアリかもしれません。
また、今日はオープンソースの話が出ました。無料のＯＳを利用するという流れです。最近では５万円を切るネットＰＣの売れ行きも好調です。これはインテル社がアトムというパフォーマンスを落として価格競争するＣＰＵを開発したことに端を発するもので、機能をインターネット利用に絞っています。
また、オバマ陣営のニュースを見ていたら、パソコンはウインドウズに限らず多くはマッキントッシュでした。こうした動向は「先端技術よりもニーズに合ったＩＴ」の活用という考え方によるものと思われます。つまりは、自分たちの暮らしをどう作っていくかなのです。
先ほどのオープンソースの話で、「世界水準は・・」っておっしゃっていましたが、ではなぜ、欧米ではオープンソースが流通して日本は立ち遅れるのでしょうか。日本人は英語を使わ

ない、また、課題解決を他人まかせにしてしまうという国民性がブレーキとなっています。したがって、街ぐるみでオープンソース化すればやれないことはないのかもしれません。

その意味でも今日はいろいろな問題、課題、あるいは、論点が出てきて、大変生産的だったと思います。

もうちょっと話をしたいところですが時間となりました。

パネリストの皆さんありがとうございました。またフロアの皆さんも活発なご意見や議論に感謝して終わりたいと思います。

ありがとうございました。

■ワークショップ

テーマ－１：「シニアの生き甲斐を創出、魅力あるシニアネットとは」

課題提供者（五十音順）

小池 達子氏（メロウ倶楽部）

福森 宏昌氏（NPO 法人シニアネット光　代表理事）

コーディネーター

金田 和友氏（自立化支援ネットワーク　理事）

１．趣旨説明（コーディネーター）

高齢化がますます進む中で、シニアネットが全国津々浦々にあって、シニアが地域で生き生きと暮らしている、そうした姿を創出していくためにより一層の普及と拡充を図る必要があります。

そこで、我が国のシニアネットの老舗中の老舗であり全国ネットで活動を続けております「メロウ倶楽部」と山口県全域のシニアのための参加の場つくりを目指して活動している「ＮＰＯ法人シニアネット光」よりお話しいただく中、シニアが喜んで参加する魅力あるシニアネットとはどのようなものか、団塊の世代の参加を視野に入れながら、今後の姿を探って参ります。

２．課題提供

①福森　宏昌氏

NPO 法人シニアネット光は 2000 年８月にインターネット講座を開催してきた仲間の交流から活動を開始しました。2004年６月からＮＰＯ法人シニアネット光として公益的な活動に取り組んでいます。美しいシニアライフを目指し、ICT を活用してまちづくりの助っ人隊として活動しています。

●NPO 法人シニアネット光の活動は次の４つの事業を柱に取り組んでいます。

１　ＩＣＴ活用普及支援事業
２　市民活動活性化支援事業
３　まちづくり・社会参加支援事業
４　研修交流事業

会独自でＩＣＴ普及支援事業、行政と協働してＩＣＴ活用支援事業、市民団体と連携した市民活動活性化支援事業などに取り組んでいます。また山口県域のシニアネットやまぐちの構成メンバーとしてシニア情報生活アドバイザー養成講座を県内各地で開催し５２名の資格者の養成を行なってきました。人生経験豊かなシニアこそ有効に ICT を活用して、まちづくりや生涯学習の推進を担えるとの思いで、シニアが中心になり新たな出会いと学びで地域活動に取り組んでいます。

●「山口県住み良さジャンプアップ事業」を受託して、光市内住民（５６歳～６０歳）の一般市民の意識調査を平成２０年７月～平成２１年３月末の日程で行っています。　調査内容は①退職後の生活において、重視したいこと　②あなたは退職後も収入ある仕事をしたいと思いますか　③あなたが仕事をしたい理由は何ですか　④ インターネットを使っていますか、です。

●我々のシニアネットの活動ということで、これから私達の抱えている課題も「これから団塊の世代」という言葉もありますが、我々よりももう少し若い人達にどう入って頂くか、それに対して、魅力的なものをどれだけ発信できるか、ＩＴ講習をするというのも参加の場ですし、いろんな参加の場を提供できると思いますが、それを私達がどういう格好で、皆さんもいろんな活動されていると思いますので、そういうことの情報交換ができるかなと思っています。

②小池　達子氏

メロウ倶楽部はネット縁です。プロバイダーの@nifty にあったシニア向けフォーラム「FMELLOW」のスタッフと有志が 1999 年に設立したシニアネットです。もともとの縁はネット繋がりで、顔のみえる地縁のネットとは成り立ちが違います。

●メロウ倶楽部の活動

１　日韓交流会

特筆すべき設立当時からの活動としてはメロウ倶楽部と元老坊(韓国)との日韓交流会で、日韓草の根交流事業として、産経新聞(2001 年)、ジャパンタイムズ(2002 年)、朝日新聞(2002 年）に掲載されました。現在も継続中です。

２　特別コンテンツ

メロウ伝承館　(前の世代から引き継いだ歴史、文化を　後世に伝承しよう)、メロウライフ館(「素晴らしい老後生活」のための情報が満載)、メロウ横丁(全ての会員が一枚のホームページを持とう)、メロウ動画館(シニアが　シニアの手でつくるビデオライブラリー)があります。

３　オンライン・オフライン

・会員同士の会議室(掲示板)でのオンライン交流
・チャットやSkypeを利用した交流や勉強会
・オンライン運営会議・オンライン総会・オンラインアンケート調査
・各地の活動　(勉強会・お楽しみ会などのオフライン活動)
・全国オフ　(年に一度、全国の会員が集うオフミーティング)
・各種イベントへの参加・協力

●掲示板に選択肢が多いこと、外部からの評価も多々頂いていること、特定の企業や資本に頼らず、純粋に会員だけで運営されている事などが、メロウ倶楽部会員にとっては非常に魅力的である要素になっています。

残念なのは設立当時の平均年齢が６５歳前後から、今は７０歳前後に高齢化してきていることです。しかし私どもは、沢山の実体験を持っており、終末問題を身近に抱えた人間集団でもあります。こういった特徴を持った人間集団が、パソコンとインターネットを活用して新しい文化を作るのだというくらいの気概を持って、シニアネットを活性化していかなくてはならないと思っています。最初に難しい課題だと申し上げたように、魅力あるシニアネットとは、どこに向かって魅力があるのかということを考える必要があります。本当に今の会員が魅力を感じる団体が果たして魅力あるネットなのか、やはり若い方にも入って頂けるような、よそにむかって魅力のあるシニアネットにするにはどうしたらよいかについて皆様からお話を伺い、一緒に考えていければと思います。

３．討議・質疑

コーディネーター

討議して頂く大きなテーマは団塊世代がこれから第２の人生に入ってきます。このような若い方が喜んで参加するシニアネットとはどういうものだろうか。どうしたらどんどん入って来るだろうか。ということで論点１とします。

(１) 論点－１　喜んで参加したくなるシニアネットにするには

■喜んで外から参加して入ってくる魅力のあるシニアネットをどうやって作るか

コーディネーター

喜んで魅力を感じて入ってきてくれるネットワークについて、講師にご質問・ご意見、自由にお話をして頂きたいと思います。

会場より発言

未だ会員でない人を取り込むひとつの方法として、絵のほうの団体で、会員ではなく会友とか、どこの教室でもある体験入学とか体験会員というような、特に線を引かないで、何歳でも良く、お金は結構です、あるいは自由意志でということで声をかけていったらどうでしょうか。

会場より質問

福森さまへのご質問です。非常に面白いと思ったのは異分野交流でした。もう一つ、福森さんのアンケートで、男女別というのが分れば、すごく面白いなと思います。女の定年退職と男の定年退職は随分違いますので、それについて何かコメントを頂きたいと思います。

福森氏の回答

２点ありましたけれど、いろんな世代との交流というのは非常に大事だと思っていまして、そういう意味で私達は助っ人隊という風に、会員の合意を得て、いろんな団体・世代と交流したいと思っています（同じ世代だけで同じことを言っていると広がりません）。その時、お手伝いをするという感覚があれば広がって行くのではないかと思います。それから女性と男性のアンケートの数字ですが、数字はあるのですが、今日は持ち合わせていないので、むしろ女性の方から見られた考え方をお聞かせ願ったらと思います。

会場より発言

男性というのは一生、会社いのちみたいで、会社をやめるということは、その辞令を貰う日と翌日とは外の景色もみな変わってしまうと良く聞きます。女性の場合そんなに会社いのちではなく、外の景色が変わるほどの衝撃はなく、地域社会の中で、なだらかな変化です。引き続き、仕事をしたい人としたくない人があるのですが、女性の場合ですと、もう定年まで頑張ることしか、ことにお子さんがおられる場合、精根が尽き果てて、それ以上やりたくない方が結構多いのではないかという話もありますし、男の人は家庭に居場所がないという話がありますが、女性はもともと平気で、真ん中に座っていた人達ですから、そういうことは余りないのかなと思います。

コーディネーター

確かに男の人、女の人とある年齢から先の落差は違うと思いますね。

小池氏の回答

光市の調査は大体年代的にどういう方達を対象に調査なさったかによりますが、今７０歳過ぎている人が過ごしてきた定年退職と今の５０代位の人が過ごす定年退職と生きてきた違いが、この 20 年間で全然違うと思います。そうすると 70 過ぎの人が考えることは 50 過ぎの人が同じように考えるかというと、それは無いと思いますので、そのあたりどう言う風に若い人との接点を持っていくのか、自分の子供とか、孫とかいろいろありますが、子供あるいは孫が発言できるような場（メロウ倶楽部ではサロンのような集まる場所がないのでインターネット上）を作って、そこにおじいさん、おばあさんがちょっと、いろいろアドバイスをしてあげられるよというのがあると、あるいはね、人が入ってくるのかなと思い、今回この命題を頂いて、非常にいろいろ考えましたがなかなかいい解がみつかりません。

福森氏の回答

このデータ自身は前のページに５６～６０歳の年齢データを持ってきました。この年齢が今、団塊の世代の方達も、まだまだ収入のある仕事をしないと生活出来ない条件にありま

すけど、その世代を卒業したあとは地域に参加することになります。このデータを見てもかなり６１歳～６５歳は違って来まして、そこはもう諦めて、今のところにしばらくは居るか、会社の中で１年単位の雇用延長という形で肩身の狭い生活なんですね。そこで不満を持ちながら生活をされているというデータがでています。ただ何か自分が生き甲斐を感じるもの、あるいはやりたいもの、チャレンジャブルなものとか、しかも社会と係わっていけるものが欲しいなというふうなものが見えていると読んでいます。それ以外のデータで、定年後何をするかというと、なかなか老人クラブ、シルバー人材センターとか、具体的な名前になるとこう言う名前しかでません。現役で働いている方が、いきなりボランティアにはパワーを感じないイメージがあります。ちょっと稼げて自分の居場所が欲しいなという風なものが見えているような感じがしています。

コーディネーター

はからずも男女の差、これから入ってくる人の年齢の差が話題になりましたが、ちょっと整理しますと、この大きな命題に対して論点が３つに分かれると思います。

・これから取り組む人達の対象（男女差、年齢差を配慮する）

・発信の仕方（こういうシニアネットがあることをどうやって世の中に広めるか）

・シニアネットの活動内容（一番根本にあるシニアネットの活動内容に魅力がある。その魅力作り）

今日いろんなヒントが得られたと思いますが、上記３つに分けてご意見を伺いたい。対象の問題は分析不能、いろんなデータは出ているが、ここで細かく論ずることは出来ません。

■発信の方法、どのように広めるか

コーディネーター

続いて発信の方法、どのように広めるかについて、講師へのご質問またはご意見を発表して下さい。

会場より発言

会員をどう増やすかですが、それにひとつ気付いたことは、評判の「おくりびと」で訴えていた「家族の重要性」だと思います。会員以外の人も無料で書き込める、例えばフリーサロンみたいなところで、家族（息子さん、娘さん、お孫さん 等）について書いてもらうと、家族の友達も異なった意見等を書きこんでくると思われます。こうした広め方をしてはいかがでしょうか。

コーディネーター

先ず家族を取り込め、そこから始めますか

会場より発言

メロウ倶楽部設立１０年。シニアネットフォーラム開始からほぼ１０年ですが、シニアネットは曲がり角に来ていると思います。この 10 年間の活動は①自己研鑽、②社会貢献に限られて行われています。この２つに関し団塊の世代は魅力を感じず、ソッポを向いていると思います。団塊世代の人がシニアネットに入るのではなく、自分達が団塊ネットを作りあげるという深刻な状況と思います。未だ解はありません。団塊世代の人が魅力あるコンテンツは、実際の自分達の生活に役立つものではないかと思います。そういう新しいコンテンツを取り込まないと少なくとも団塊世代に魅力あるシニアネットではないと思います。

コーディネーター

団塊世代に見捨てられるということですね。

会場より発言

今リタイヤしている人は１５～６年下の人で、その人達のパソコンの関心は、自分で掲示板や、達者な人はマイサーバーを作って、仲間内でやっています。そのような人達を取り込むには、画一的な掲示板やおしゃべりの場では出来ないと思います。もう一つの例です。大阪に労力ネットワークがありますが、自分のホームページと、オシャベリの場を持って、主に中高年の女性を集めて、高崎や大阪で集まりをする、特化した集まりが出来ています。場合によってはそういうものの援助をするというような立場になっていく必要があると思います。

コーディネーター

おっしゃる通り６０歳前後の人はパソコンを使えない人は居ないですね。私の所属しているダイヤネットでは、会員を増やそうとして、壁を感じています。魅力作りの努力をしていますが、ホームページを見てくれないので、どう発信するのか問題になっています。ダイヤネットの代表の助川さんが来られているので、ちょっと一言お願いします。

助川氏の発言

我々の団体はダイヤネットですが、当初三菱グループのＯＢが集まってやろうという特殊な団体でしたが、地域にいろいろ貢献するということで、主として荻窪を主体に活動をやっています。地元の人でもボランティア活動をやりたいので、是非入れてくれと言う方が増えていますので、新しい会員に入って頂いて、地域のパソコン教室、オフミイーティング、巡礼などを一緒に行って、皆様の魅力を増して入って頂く方針にしています。

コーディネーター

やはり地域一つを舞台にして、実際にお役立ちしながら、このシニアネットの良さを理解して頂いて協力者を増やしていくという地道なことも必要と思います。

会場より発言

２番目の「外へ向かってどう発信するか」は、何年も前から言われていて、明確な答えを受け取ったという記憶がありません。それならば、外への発信、すなわち団塊の世代、その次の世代へのつなぎに腐心することを一回諦めてはどうかと思います。そうすると、これは割合簡単で、その人間が魅力あると思うもので魅力ある人を集めてくることになります。そうすれば別な世界が広がる、そのような視点もあってもいいのかなと思います。

コーディネーター

ご発言がメロウの方に固たまっています。他の方のご意見を伺いたいのですが、

会場より発言

琵琶湖シニアネットのサイトを運営していまして、どうやって魅力あるネットにしていくかに苦労しています。皆様に質問があります。昨日からの話で、皆様はすごく良くシステム上のことが詳しいようですが、興味をもたれてインターネットを勉強してみようと思われたきっかけは何でしょうか。

コーディネーター

折角のご質問ですから、誰かお答え下さい。

会場より回答

先程から問題視されています団塊の世代です。私がネットを始めたのは、自分を表現できる場

所ですね、やはりこういうシニアネットでしたら自分が何か表現して、それに対して人が意見を言って、それがだんだん自分の生き甲斐になってきます。問題は何を通して自分を表現したら良いかが分からないのが一般的です。その素材を極め細かく対応して、手を取るような形で、導いていけば、その人が一回恐る恐る発表する、それに対しいろんな意見をいってくれる、ああこうした方が良いか、これが生き甲斐に通じてくると思います。

コーディネーター

一つのお答ですよね。インターネットは自分を表現できる、自分の言いたいことを発信できるステージだと思います。ただ、これに返事がないと終わってしまうので、困りますね。

会場より発言

その辺がミクシィはうまく、気軽に表現してくれます。その工夫は必要です。

コーディネーター

私共のダイヤネットでもホームページを持っていて、投稿しますと、それに対し必ずコメントが来るのですが、こっちが意気込んで、どんと載せたのに、コメントがないとガックリ来ますが、まあ、そういうことはありますが、そういうものがあるのは素晴らしいことですね。そうするとインターネットとかホームページにはそういう役割がありますね。

小池氏の回答

先程の質問で、どうしてそういうふうに詳しくなったかって、別にどこかでお金を出して習いに行った訳ではなく、自分がやっていて、全て必要に迫られて、興味を持ってやることで、だんだんに、いろいろ覚えて来ました。

コーディネーター：発信の方法、どのように広めるかについて

発信の方法、どのように広めるかについてお話を伺っていたのですが、私がまとめをやっています。

・最初は家族を参加させるというお話がありました。要は魅力を感じているグループのことを家族も含めて親しい人に喧伝する、こういうことが地道な動きかなと思います。

・それから福森さんのお話の中にあった、地域へのお役立ちをいろいろやっている内に、いろんなグループと親しくなって、行政との大きなパイプが出来て来た。これは大変な変化と思います。市や、区の広報に載せてもらうことが出来るようになったら全家庭に行きますから、すごいですね。

・先程、どなたか仰っていた他グループへ連携を呼びかける、支援していく、こういうことが出来れば相乗りができますね。

・私なんか講演会の主催で、聞いてくれる人を増やすためよそのグループに声をかけると、むこうのグループも自分達が主催すると呼びかけて来ます。こういった他グループの呼びかけが必要です。

・こんなことが講師と皆様の話からヒントを得たことです。メロウ倶楽部ではすでにやっていますが、NHK とか朝日新聞を使えれば更にすごいですね。

・団塊の世代との価値観の差というか、生き甲斐論がところどころ出ましたが、要は自分も発信する、自分らしさを世に出して反応を求めるのは、これはやりがいの根源であると思います。

■活動内容の魅力どのようにして充実するか

コーディネーター

続いて時間もたっていますが、活動内容の魅力、魅力のある活動内よう、を充実指定かなければならないというテーマがあります。お二人のお話を参考に、感想、事例などを発表して下さい。

なるべくお一人ずつ全員発言して下さい。如何でしょうか。

会場より発言

毎日メールが入ってきます。それを開かずに済ませる訳にはいかず、ちょっと辛いとこです。負担にならないで、楽しめるライフスタイルを作ることが出来ればと感じています。

コーディネーター

「負担にならないで」という考え方は案外人を呼び込むために大事と思います。この会に入ると、制約、負担、時間、お金が増えるのは、魅力あるシニアネットでないでしょうね。

会場より発言

品川シニアネットに一昨日入ったばかりです。会社をやめて３年位ですが、遊んでいたインターネットも、飽きて、スポーツジムに通い出しました。それがきっかけで、品川区の体操の補助員を経て、品川区のいきいきラボ関ヶ原のパソコン教室を知り、そこに行ってみたところ、サロンがあってコーヒーが非常においしい所でした。パソコンを教えるにはシニアアドバイザーの資格が必要でしたが、是非やりたいと言いました。なにしろ、コーヒーがおいしくて、パソコンが楽しくてしようがない人が集まっていましたので、自分にとって、やりがいというか、いい場所がみつかったなということでやっております。ということで今日は情報収集です。

会場より発言

メロウ倶楽部はインターネットだけでやっています。車椅子で一歩も出なくても、メロウ倶楽部に属し、俳壇で活躍している方もいます。その方にとってメロウ倶楽部はそれが無いと死んでしまうという位の命にもなっています。本当に家から一歩も出られない人でも、全部クラブライブラリーを楽しめるように出来ているメロウ倶楽部は、それなりの使命を持っていると思っています。そういう人に特化したクラブがあってもいいし、車椅子で一歩も出なくてもインターネットで全て済むというクラブもそれなりの専門店としての存在価値があると思っています。

コーディネーター

魅力のある活動内容、活動を充実させようということで皆様に問いかけているのですが、なかなか核心に入らないですね、そのご意見があれば是非お願いします。

会場より発言

熊本のシニアネットの代理で来ました。魅力のあるシニアネット、これは私達も今一番、頭を悩めています。メールがだんだん飽きられて来ています。それでどうしたら魅力ある内容にできるかに行きつきました。ネットの中に、現役の方がたくさんいますので、逆に得意分野に投げかける、例えば前立腺ガンについて非常に困られた内容をネットに流したら、ものの何分後に、経験者がいる、こういう病院でこういう形で、こういう治療をされた　等の情報がわっと入りました。それが非常に受けて、ネットの中の良さが、逆に皆様の生活に役に立つ、私共はそれでシニアの中に情報室という一つのフォーラムを作りました。何でもネットに相談といいますか、そういう形で載せて、それに対し皆様がお答えする。ネットが非常に生きて魅力的に

なると思います。

コーディネーター

相互に書き入れできるホームページを作って、どんどん書き込んで頂く、こういうのがあれば出来ますね。世に出ているホームページは自分とこの宣伝だけをして、書き込みが出来ないというのが普通ですが、メロウ倶楽部の例で、会員がそれに書き込みが出来る部屋をいくつも持っている。これはヒントですね。書き込みが出来る、こういうホームページを持つことは魅力の一つになると思います。

コーディネーター：論点１に対する中間のまとめ

だんだんと時間が迫っているのですが、勝手な整理をさせて頂きます。今まで出たお話、講師お二人が力説されたことなどをまとめていくと、

・地縁の方でやはり地域にお役立ちするということ、これは実行で重ねて行くことは非常に会員の方の生き甲斐となっているようです。

・もう一つは趣味ですが、メロウ倶楽部の句会の例は非常に楽しく拝見しました。フォトサロンもいい写真一枚をポンと出せる、軽くていいなと思いました。趣味の分野ではいろんな活動ができます。部屋が多くなると、運営する側は大変ですが趣味の小部屋は多ければ多い程良いと思います。

・それからお話は余り出ていないのですが、魅力ある会というのはその道の達人というか、エキスパートというか、そういう人達が大勢いると思います。それ以外にも人生の達人もおります。80 代、90 代、その人達と会っているといろんなことを体全体で受けるという、人との出会い、触れ合いというのも、これも何かうまく組めば魅力になると思います。やはりお会いして盃を酌み交わす、人との触れ合いをいかにして考えるか、これが案外大事で、これも魅力作りの一つと感じています。

・負担になるというお話で思ったのですが、シニアのネットワークは、縛られる、時間がなくなる、お金を相当納める、こういう三つのものは、魅力を作る時、考慮しなければならないと思います。やれるだけやる、やりがいを感じるからやる、やめたいときいつでもやめる、こういう会社時代と違った、縛られない考え方で参加できるのは魅力の一つという感じがします。

・もう一つ大事なことは、自分の発信の場があるということで、先程書き込みのできるホームページを持つのがいいと申し上げました。生き甲斐と言う時、お金と健康と仲間の信頼というのがあります。もう一つ欠かせないのは自分を皆の前に出す、発信するということが無かったら生き甲斐を感じないとアメリカの心理学者が言っています。この発信するという場がキーポイントになります。

（2）論点－２　シニアネットを推進するリーダーにもとめられること

コーディネーター

もうひとつ短い時間ですが、討議あるいはご意見を頂きたいのは、こういうシニアネットワークを推進していく人はどういう人かというのを考えてみたいですね。如何でしょうか。

福森氏の発言

私達は行政機能がいろんなお膳立てをしてくれて、その場面に参加するという活動になれてい

る訳です。何かリーダーが活動してくれるだろうという思いが何となくあるのですが、活動するのはやはり参加している皆さんです。私自身やっていまして、いろんなテーマが出る時に役を振って、皆がそれを近くから係わって、理解が広がるようにやっている積もりです。この活動を作るというところと、できたものに参加すると、おいしいものがあったら参加するよとは別の次元があって、そういうのを作るということ自体にも楽しみがあるし、苦しみがあるし、面白さがあるんですね。この二つがあってそこのところでいろいろ悩みながら活動やっています。

コーディネーター

かなり仲間の方には分野をおまかせになって、その人達の発想を大切にしていらっしゃるのですか。

福森氏の回答

活動するときに、必ず企画があって、その裏にわずかですがお金があります。

お金は自分のお金で負担するのか、誰かからお金をもらうのか、活動の前に必ず確認します。そういうことを企画する人はセットでものごとを考えて頂きます。私達はそれぞれのテーマに役割をするという考え方に出来るだけしようと取り組んでいます。

コーディネーター

企画だけでなく仕上げまで、その人にやってもらわなければなりませんね。

トータルでまかせるということですね。小池さん何かありませんか。

小池氏の発言

運営に関して、誰が推進するかはとても難しい問題でして、私共、会員が多いし、場所が全国に渡っていますから、ホームページ上に運営会議室を作って、やっています。そこでは運営サイドではなく、会員が、自主的にパワーを使って運営している感じがします。何かイベントがあると、そこに参加してもらえる方を大勢お願いしたりしますが、そういう時は役を振り分けることもありますが、本当に自発的に皆が活動的にやってくれます。これはその会の魅力と思います。

コーディネーター

得てして、会長が起案して、誰かやってくれという言い方になることが多いですよね、お二人の今の話ですと、そういうような硬さというか、硬直した部分がないので、見習わなければならないと思います。

会場より発言

ＮＦＵジャンプシニアは現在１６のグループが集まって活動しています。16人のグループの会長さんは、いろんなタイプの人がいます。グループの人数は１５人～２０人位なので、グループのメンバーを良く理解して、必要な場合は多少の面倒をみるという気を持ったリーダでなければうまく回っていかないと思います。またNFUジャンプシニアは２３０人程で、女性６０％、男性 40%です。私の係わっているところは全て女性の比率が高く、これが当たり前と思っていましたが、メロウ倶楽部の男女比をみせて頂くと、男性の方が多いですね。運営の仕方とか内容の話がありましたが、私が関係している所のやりかたが悪くて男性が集まって来ないのかなと反省しています。

コーディネーター

女性の参加が多いグループにいるのですね。会員構成によってリーダの方の考え方もあると思

いますが、一言でいうと、会員一人ひとりのことを、できれば掌握しておくのが一番良いと思います。極め細かい対応が出来るというのも、一つの会を維持する力になると思います。

会場より発言

ダイヤネットの話で取り上げられたインタラクティブなホームページについては、セキュリティはかける必要があり、ちょっと面倒になりますが、是非運営されたらどうかと思います。もう一つホームページでいくら立派なものを作っても見に来なかったら、何もなりません。この打開策はてどこでもやっていますがメルマガだと思います。メルマガがどれ位、どのように活用したらいいとか、何かご意見があったら是非お聞かせください。

コーディネーター

この質問に誰かお答え頂けますか。メロウ倶楽部さんどうですか。

小池氏の質問

今のお話は外部に対するメルマガですか、それとも会員に対するメルマガですか。

会場よりの回答

両方です。会員に対するメルマガと外に対する宣伝のためのメルマガです。今私が言っているのは、会員が戻って来るためのメルマガで一つの手段として非常に有力と考えています。

小池氏の回答

会員が必ず全員がアクセスするとは限らないので、今どこの会議室に、どんな話題が出ているとか、こういうオフがありますよとかを１回／月、全員に向けて出しています。そうすると「メルマガもらいましたよ」という返事が会員の掲示板に返ってきます。「ありがとうございましたと」いうのが返って来て、ああ見てくれているのだなというのが分かります。外に向けてのメルマガというのはホームページ以外にはないと思います（メルマガというのはメールアドレスが分からなければ出せないのですから)。

コーディネーター：会員以外でいろんな会合で触れ合った人にもメルマガを送ることをダイヤネットではやっています。その愛読者の中から賛助会員がまた出てくるということがありますので、そのことを言っていたと思います。原則としては会員、先程の会友を増やすという考え方と同じです。

会場より質問

本題から離れてしまいますが、先程の発言の中で、メールが邪魔して、面倒くさいというご意見があったのですが、皆除外しているのですか。(迷惑メールの話)。

会場より回答

メールを除くということの日々の面倒くささを申し上げたのであって、迷惑メールがたくさんあって、メールをみるのが大変という意味ではありません。発信する方が必ず見てくれるものという様な思い込みをもう少し払拭するような社会になるとありがたいということです。

コーディネーター

さて、第２の論点のシニアネットの推進役のあり方にご意見を求めていたのですが、直接それに触れる発言が少なく、結局、講師お二人の工夫の話が印象に残りました。福森さんはセットでまかせる。企画からお金を含めて実行するところまでまかせるという、そうすると人を選ばなければならないですね。

福森氏の回答

その通りです。それからバックアップしていくとか、いろんな支え方とかありますが、やはり

体験の必要がありますので、そういう人達を増やしていくという気持でやっています。

コーディネーター

小池さんの方は、自主的に会員にまかせられることはどんどんやらせ、会員のパワーで、新しい魅力をどんどん加えるやりかたをしているというお話ですね。お二人共、非常に難しいことを簡単におっしゃいますよね。難しいことをそう簡単に人にまかせられものではないと思います。そのためにいい会員がどんどんいること、適材適所で見極める推進者も必要と思います。２つめ論点については、他の方から余り際立ったご意見が出なかったので、お二人のお話を参考にさせて頂きたいと思います。

４．まとめ

テーマ「シニアが喜んで参加する魅力あるシニアネットとはどのようなものか」について下記の討議結果を得た。

論点－１：喜んで参加したくなるシニアネットにするには

１）対象に応じた施策

・団塊の世代を呼び込むために

・男女差、年齢差を配慮する

２）発信方法の諸工夫

・家族、知人を参加させて、体験してもらう

・地域のお役立ちをして、評価を得る

・行政との緊密な関係を築く（広報紙の活用　他）

・他のシニアネットへのアプローチ

・メルマガの活用

３）魅力ある活動内容

・ネットでの助け合い、相談が出来る仕組み

・地域社会にお役立ちする活動

・いろいろな趣味をともにする

・会員が自分を発信する場

・素晴らしい人との出会いの場

・時間と費用の制約について

論点－２シニアネットを推進するリーダーにもとめられること

１）リーダーの熱意とパワー

２）企画から運営までセットでまかせる

３）会員の自主性を歓迎する

■ワークショップ

テーマ－２：「シニアの豊かな経験を地域に活かす、事業型シニアネットのすすめ」

課題提供者（五十音順）
細内　信孝氏（コミュニティ・ビジネス・ネットワーク理事長／
コミュニティビジネス総合研究所　代表取締役所長）
堀池　喜一郎氏（ＮＰＯ法人　シニアＳＯＨＯ普及サロン・三鷹　顧問）
コーディネーター
森藤　和彦氏（ＮＰＯ法人自立化支援ネットワーク　理事）

１．趣旨説明（コーディネーター）

生涯現役でいたいという思いから、永年培ってきた知識・経験・ノウハウや知恵を生かして社会に役に立ちたいという意欲を持ったシニアは大勢おります。そうしたシニアの強い意向を反映してか、コミュニティ・ビジネスを主な活動とする「事業型」のシニアネットが増えつつあります。まさに人材の宝庫であるシニアネットだからこそできる活動であると言えます。厳しい世の中を迎えて、こうした「事業型」シニアネットの関心はますます高まっていくものと思っております。

そこで「事業型」シニアネットの草分け的存在で我が国を代表する「ＮＰＯ法人シニアＳＯＨＯ普及サロン・三鷹」の方と、コミュニティ・ビジネスを提唱し、その活動をサポートしている「コミュニティ・ビジネス・ネットワーク／コミュニティビジネス総合研究所」の方より、専門的な立場から具体的な実践に向けた提言や課題をお話しして頂き、参加者全員で「事業型」シニアネットやコミュニティ・ビジネスへの取り組み方について考えて行きます。

２．課題提供

①堀池 喜一郎氏

ＮＰＯ法人シニアＳＯＨＯ普及サロン・三鷹は、当初はパソコン教室への講師派遣、テキストの開発、講師育成(シニアド養成)を主として実施していましたが、2003 年になると三鷹市役所の事業の協働を担う事業が多数スタートし学校の教員に対するサポート、学校イントラネット支援を始め、増え続けています。

これが出来たのは、パソコン教室とシニアド制度をベースとして、パソコン教室の生徒から講師に変身し、さらに講師陣が非ＩＴプロジェクトで仕事ができる人を供給しその人達が地域のまとめ役となり、また事業管理・危機管理できる人もいることへの行政の理解です。会員が自らを変身させるということと、会では、事業をやっていること、有償の仕事しかしないことを明記していることが大事です。

●事業型シニアネットの役割
・シニアドは「入門者に IT の活用を伝える」
　→「IT を使って地域に役立てる」方向に
・地域と連携して、地域のプレーヤーに
・有償の事業であることを明記する
・行政が信頼できる継続する体制を作る

●地域のプレーヤーとは
・地域で自分の一番の得意技を発揮する人
・自分のお客は誰かを良く分かり、
　お客からお金が取れる人
・お客を「見える化」、「乗せる化」
　できる人

↓

●無理なく地域を支援する活動の提案
- ＩＴ派遣村：シニアドの力を利用して、就労に役立つＩＴカフェを空き店舗に設置する。机一つで実績を作ってから協働提案へ。
- コミュニティ・ビジネス起業のお手伝い：地域ビジネスを始めている団体や女性に必要な出前支援、連携を格安で行う。起業者はその道のプレーヤーでも雑務が出来ないで困っていることが多いので、一緒の気持ちでお手伝いする。
- 埋もれている団塊世代を「見える化」「乗せる化」でアクティブ化。地域の趣味団体、町内会、同窓会，ＰＴＡに呼びかけ埋もれているシニアを集める。

②細内　信孝氏

リーマンショック以来団塊の世代の地域ビュー・自立化についての相談が増えています。特に地方では退職後地域に活躍する場がないことが多く地域に参加しながら経済的な自立を図るためにはどうしてもコミュニティ・ビジネス的な働き方が必要です。

起業講座では、地域に対する思いを形にするワークシートを使い、地域にどのような問題があり誰が責任を持って解決して行くのか、5 人位のグループで骨太の事業企画書をつくります。コミュニティ・ビジネスは、自らの地域を元気にする住民主体の地域事業です。身の丈に合った自分の出来るところから始めていく。顔が見える関係であれば、地域で支えてくれる人たちが出てきます。ボランティアから一歩進めて、地域で継続した活動や事業をしていくには適度なビジネスの視点を入れていくことが、継続性につながり、そこに雇用の場が生まれてきます。

停滞している地域コミュニティは、眠っている地域資源がたくさんあります。コミュニティ・ビジネスは、漠然とした問題・課題を抽出して、磨き上げて事業として、地域力を上げていく有効な手段と考えています。

●コミュニティ・ビジネスの特徴とは
・住民主体の地域密着のビジネス
・必ずしも利益追求を第一としない。
　適正規模、適正利益のビジネス
・営利を第一とするビジネスと
　ボランティア活動の中間領域的なビジネス

●コミュニティ・ビジネスを支える人々
・後援者⇒ 寄付をする人
・仲間⇒ 投資をする人／やや消極的
　　　　経営に参加する人／より積極的
・支持者⇒ ボランティア活動をする人
・銀行家⇒ 融資をする・
　補助金を斡旋する人

⇩

●コミュニティ・ビジネスの分野~新しい地域経済を創出する CB~

・　福祉	さいとう工房　café 大好き
・　環境	雨水リサイクル研究所　ユーズ
・　情報ネット	すみだリバーサイドネット　シニアＳＯＨＯ三鷹
・　観光・交流	ア・ラ・小布施　黒壁　花農場あわの
・　食品加工	小川の庄　スピカ　企業組合凡
・　まちづくり	ＣＳ神戸　野沢組
・　商店街の活性化	アモール東和　たちばな銀座商店街
・　伝統工芸	松本彫刻店
・　地域金融	女性市民バンク
・　安全	安全センター
・　子育て	
・　スポーツ	

３．討議・質疑

コーディネーターが、論点を次の３点に絞り込み、全員で討議した。

論点１．事業型シニアネットを起業化するときのポイントは？

論点２．事業型シニアネットが成功するか失敗するかを左右するものは？

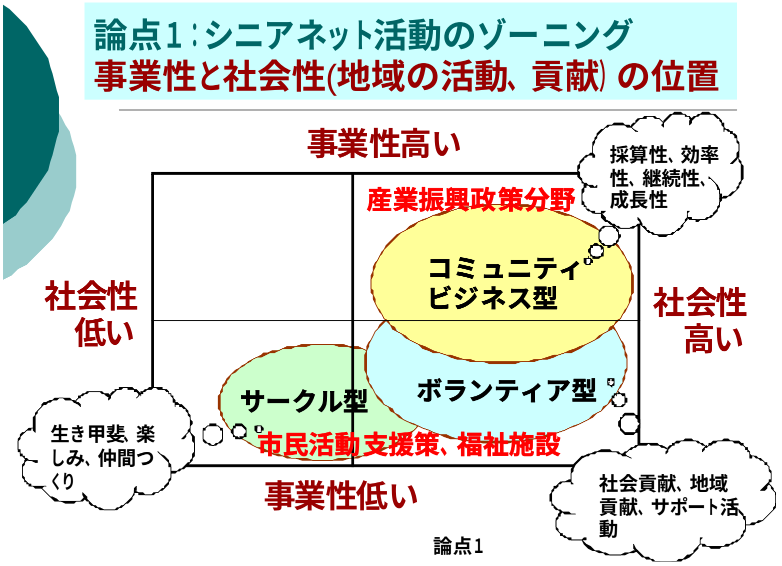
論点３．人材をどのように集め、活用するか？

初めに、各論点について堀池喜一郎氏、細内信孝氏に補足意見を頂いた後、討議した。

（１）論点１．事業型シニアネットを起業化するときのポイントは？

堀池喜一郎氏の補足意見：

誰に対してやっているのか明確にし、その人に届くようにする。初めは、たどたどしくてもお金の管理、分担、仕事の仕組み、責任者を書いて示す。思いだけではダメ。体制は、法人化したNPOが良い。多数決の原則を守る。リスクを取る仕事はやりにくい。コミュニティ・ビジネスは産業振興政策分野に入っており、収入があって採算が合わなければ、行政・企業に相手にされない。



細内信孝氏の補足意見：

コミュニティ・ビジネス起業のポイントは、

・ＣＢに携わる人々の「自分起こし」になっているか？

⇒自分がやっていて楽しくなければやめた方が良い。

・地域が抱える様々な問題解決の一助になっているか？

⇒利益だけ追求するのでなく、地域の問題に関与していくという心構えが必要。

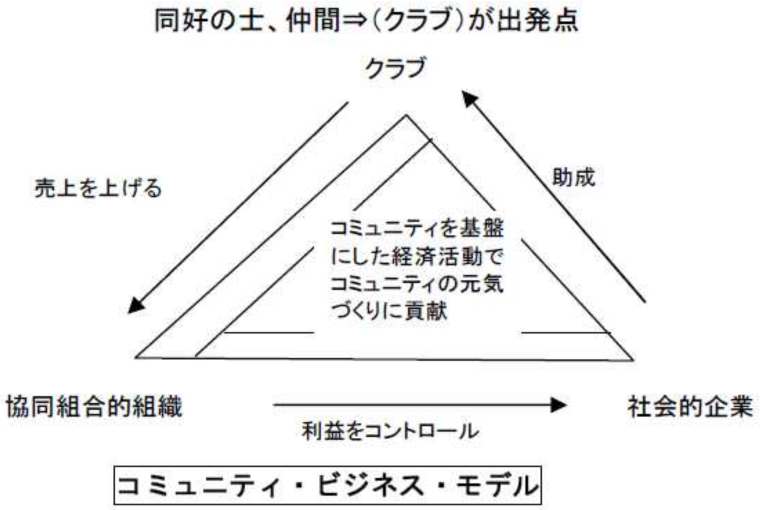
・新しい社会関係や協働関係を創造しているか？

⇒３年位経って見直した方が良い。

・コミュニティの元気つくりへの貢献と事業性とのバランスが取れているか？

⇒事業は黒字でないと長続きしない。引っ張って行く人に要求される視点です。

ＣＢはいきなり法人格を取る必要はありません。地域



問題に取り組んでいる仲間たち、クラブが出発点、やがて売上を上げるような活動になり協

同組合的な組織になる。ここでＮＰＯ法人を作ればよい、利益をコントロールする人が出てくる。そうすると社会的企業に変わって行く。地域は、クラブも沢山あるし、協同組合的な組織もある、社会的企業もあって、これらが大企業、行政と補完しながら地域力を高めていくことに取り組んでいくことが重要です。

会場からＡさん

ＩＴで入ってくる人の動機づけをどうしたらよいでしょうか？

会場からＢさん

ＩＴ活用ビジネスの法人化をして５年目。パソコン相談、講習会をやっているが客が来ない。これをコアにしているとメンバーの意識が下がる。世田谷区ではＩＴの活動支援している団体が多く、競争も激しい。事業をどの方向に持っていったらよいのか？

会場からＣさん

６年目。障害者にリハビリにパソコン水彩画を教えている。敷居が高いのか仲間が増えない。皆さんに興味を持ってもらうことが必要。

会場からＤさん：９年目。個人がボランティアで生徒を集め、同好会的に活動。ＮＰＯ法人化検討したが出来なかった。

堀池喜一郎氏のコメント

以前に比べてパソコン教室の集客力は落ちているがシニアＳＯＨＯでは年間 3,000 人は有償で教えている。「竹トンボ」講師の方が地域に入りやすい。パソコン水彩画は良い切り口と思う。三鷹では介護から地域にはいる人も増えているなど、工夫をしてゆきたい。

細内信孝氏のコメント：自分の得意のところからスタートし、アプローチするのが良いのではないか。

（2）論点２．事業型シニアネットが成功するか失敗するかを左右するものは？

堀池喜一郎氏の補足意見

コミュニティ・ビジネス成功のポイントはバランスと思考です。

- ・自分のやりたいこと、できることは何か。
- ・地域に必要なことは何か、地域ニーズは何か
- ・事業として採算が合うかどうか
- ・足りない部分をどのように補うか（スキル、金）

⇒「儲けたいからやるで」ではダメ、「必要なことをやったら儲かった」が良い。

細内信孝氏の補足意見

事業企画書を自分で紙に書いてみる。書いたものを発表する。さらに創意工夫を加え、5 回位繰り返すと賛同者が出くるような企画書になる。第三者に伝えられるかどうか。

コミュニティ・ビジネス成功への道は、

- ・生活領域の起業化（１０分野など生活の質の向上）
- ・自治体は、積極的に業務委託を行う
- ・地元にある企業も、積極的に業務委託を行う
- ・事業の柱を何本か作り、全体で収支バランスを計る
- ・マネジャーとワーカーを分けて育成
- ・時にはマネジャークラスの公募

会場からＥさん

３年を目途にビジネス化したい。企業・生協・ＮＰＯとの協働を心がけている。自分たちでは出来ないものを他との協働で事業を膨らませていきたい。

会場からＦさん

サークル、趣味の会だけでは物足りない。何ができるか勉強中。

会場からＧさん

これまでは恵まれていたが、仲良しクラブではいけない。お金を稼がないとうまくいかない。思いを強くすれば知恵は出てくる。

会場からＨさん

自分が現役のときに培ってきた経験を生かしていきたい。自分の出来ることを見極めるのがポイントと考えている。

会場からＩさん

シニアネットに事業型と名付けるのが分からない。すべて事業型でないか。

会場からＪさん：コンピュータ技術者をリタイヤしたが、パソコン教室のレベルを超えて、ソフト開発が出来るシニアがいるのでないかと思い出席した。

堀池喜一郎氏のコメント

思いを持っていれば知恵が出る、実現する為にはお金がいる。組織があれば当然事業型という意見に私は同感です。年金がもらえない年齢層をシニアネットの中心と考えたいので最初から稼ぐ会です（６５歳以上とそれ以下では考え方が違う）。

細内信孝氏のコメント

大企業型の雇用創出は望めなくなっている。特に地方では５０歳過ぎたら仕事はない。コミュニティ・ビジネスを使う。仲間と一緒に、自分の立つ位置を紙に書いてみることが必要。

（3）論点３．人材はどのように集め、活用するか？

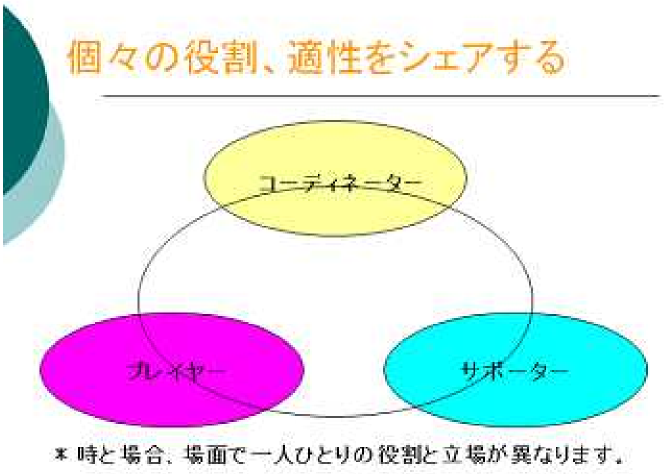
堀池喜一郎氏の補足意見

三種類の人が必要、その人その人に向いたことができるのです。

細内信孝氏の補足意見：地方の大学を積極的に活用する。距離と時間を縮めるのはイーランンニング。

会場からＫさん

組織に入ってくる人が限られていて、



広がりが少ない。
会場からＬさん
ＩＴ講習会の生徒さん減ってきている。市民活動団体は２０ほどあるが横のつながりがないので、ＩＴを活用して連携を強め人材を発掘していきたい。
会場からMさん
孤独死で一番多いのは６０代男性、地域活動に出てほしい。
堀池喜一郎氏のコメント
ＣＢの強みは、地域でサービスする人とサービスを受ける人が一緒にいること。事業の受け手の目線で考えるので、経営のアイデアが生まれる強みがあります。
細内信孝氏のコメント
やっていて楽しいかどうか。顔の見える関係で安心が生まれます。

４．まとめ
事業型シニアネットとは、
（1）自発性：自らの思いを推進する力
⇒ボランティア精神から起業マインドへ
（2）社会性：地域課題の解決、コミュニティの創造
⇒人と人とのつながり（顔の見える関係）からコミュニティの形成へ
（3）事業性：ボランティア精神とビジネスの融合
⇒やりたいことをお金の流れにして継続して社会貢献する
を基本要素とし、やりがい、生きがいをベースに人間らしい働き方を作り出し、人間らしく生きる方法を提示する。

■ワークショップ

テーマ－３：「シニアへの IT 普及活動のさらなる飛躍に向けて」

課題提供者（五十音順）
秋山　幸彦氏（ＮＰＯ法人　シニアＳネットいぶり　理事長）
山崎　憲一氏（シニアネット米子　理事長）
コーディネーター
香村　敏夫氏（ＮＰＯ法人自立化支援ネットワーク　理事）

１．趣旨説明（コーディネーター）

シニアネットは「ＩＴ講習」をベースに地域社会のシニアにＩＴ活用を促進し、社会に活力をもたらしている。しかし、シニアのＩＴ普及率は増加してはいるものの、まだシニア全体の十数パーセントにすぎない。できるだけ多くのシニアがＩＴを利用できるようにするための更なる普及活動が必要であろう。

そこで、鳥取県米子市や北海道室蘭市で活躍されている「シニアネット米子」や「ＮＰＯ法人シニアネットいぶり」の活動状況をお聞かせいただいた上で、これからＩＴ普及活動を一段と飛躍させるためにはどのように展開すればよいか、本日ご参加の皆様のご意見をお聞かせいただきたい。

２．課題提供

①秋山 幸彦氏

・2001 年「室蘭シニアネット」を２８人のメンバーでスタート、2002 年市の補助を得てパソコン講習会を継続。2004 年に室蘭・登別・苫小牧など広域をカバーする「ＮＰＯ法人シニアネットいぶり」へと発展。PC も会場もない中でやっと地域情報センターの小さな一室を無料で借りることができ設立総会が開けた。現在会員約１３０名。

・会員、一般向けのパソコン講習会を実施している。最近ある企業がＸＰパソコン２４台ある部屋を無料で使わせてくれるようになったので、パソコン講習会を月２回そこで開催している。受講者は１５～２４名。

・無料のパソコンなんでも相談会を４年前から月３回実施。あらかじめ質問の内容を提出してもらっている。Ｑ＆Ａのデータがかなり集積されたので整理して製本し販売も考えている。

・年２回シニア情報生活アドバイザー養成講座を開催しているが昨年は受講者ゼロだった。今年は積極的に宣伝活動を展開して受講者を集めたいと計画している。

・２１世紀を迎えて、シニアがパソコンに習熟するだけでなく人生を楽しむ道具として活用し、シニア同士がパソコンやインターネット等の情報通信技術を学び合い、共に支え合いつながり合って、豊かで充実したシニアライフの実現を目指している。老人クラブなどとも交流を深め活気ある地域づくりにつなげ飛躍して行きたい。

②山崎　憲一氏

・2005 年鳥取県で最初のシニアネットを結成、アドバイザー４名と補助者７名、合計１１名。今年はＮＰＯを目指している。

・目標は、「生涯現役と世代間交流」と「デジタルデバイドの克服」

・パソコン教室は趣味のグループが中心となって始まり、毎月１回２日午前・午後のクラスを開設。楽しみながら、ゆっくり、繰り返し練習をモットーに。１日１０～１５名受講。８１歳の女性で、パソコン教室で自分史や漬物のレシピを作り近所に配っている人がいる。

・午後のクラスはティータイムを設け受講者同士の交流を図っている。また、教室の成果を印刷して持ち帰ってもらうことにしている。

・講座の中心は Word。オートシェープで写真を挿入したり、１０月・１１月には年賀状講座を開いている。教室にはスキャナーを用意し古い写真などを取り込んでいる。

・地元のＣＡＴＶや雑誌で活動が紹介され、現在鳥取県とのコラボレーション事業が進行中。県側は「シニアが楽しく、生き生きと活動してもらいたいと願いコラボレーションを進めてゆこうと思っている」。

・市の生涯学習課の依頼で年賀状作成講座を受講者１３名８日間の出前講座で行い、エクセルの出前講座も引き受けた。今後出前講座を積極的に展開したい。また、なんでも相談講座を

午前中に開催している。
・目下講座継続のため４つの課題を抱えている。

①インターネット接続時のセキュリティーソフト とメールアドレスの取得。
現在市の会議室を利用している関係で ME から XP に換えてからインターネットが使えないので困っている。無料のセキュリティーソフト とメールアドレスが入手したい。

②XP から Vista への取り換え費用と時期。１６台のパソコンを Vista に換装するには費用がかかりすぎる。

③Vista に取り換えた場合、講師のスキルが問題。
まだ Vista を使える講師がいない。受講者からパソコン購入について相談されると中古のＸＰパソコンを推薦しているのが現状。

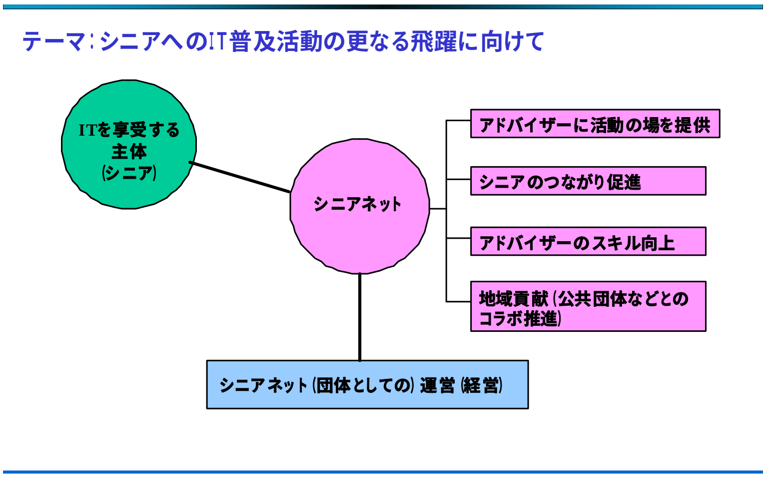
④常設の会場を持っていない。
市の会議室を利用しているが、月１回２日しか利用できないのが悩み

・ＩＴを学び、身につけて、いつまでも元気で、家族や友人の絆を大切にし自立して地域活動に参加し、趣味や交わりを広げ笑顔を忘れないシニアライフを目指している。

２．課題整理と論点の抽出

論点１－「パソコン無料相談会の状況について」：

秋山先生の「活動事例」中にあった「一般および会員向けパソコン無料相談会」を取り上げた。多くのシニアネットで似たような相談会を提供されていると思われるので、具体的な事例や問題点を参加者にお話しいただく。



論点２「パソコン以外の IT 機器の活用」：

山崎先生の「デジタルデバイドの克服」中にあった「インターネット・メール講座【携帯電話を含む】」をヒントにして、パソコン以外のＩＴ機器にどのように取り組まれているか、特に携帯電話は若い世代では情報機器として活用されている。シニアが利用するときの問題点などを議論いただく。

論点３「パソコンを通じて人の輪の創設」：

秋山先生は課題の中で、単にパソコンに習熟することを目指すだけでなく人のつながりを強調されていたので論点として取り上げた。シニアライフの中で新たな人との繋がりを作ることは必要だが、難しくもある。参加者が経験されている具体的な事例やアイデアなどをお話しいただく。

論点４「XP⇒Vista⇒Windows 7、システムのグレードアップ」：

山崎先生は課題の最後「四つの課題」の中で「Vista への取り換え費用」や「講師のスキル」

を指摘。これらは、シニアネットすべてに共通する悩みであるので論点として取り上げた。

３．参加者全員による意見交換

論点１「パソコン無料相談会の状況について」

・初心者は何を質問してよいのかわからないのか意外に参加者が少ないのでフォローアップ講座などで理解を深めた上で実施することにした
・相談会には個人のパソコン持ち込みを許可している
・週末に受講者の予習、復習の教室を提供しているが時間当たり５００円徴収している。ただし最初の４回までは無料。
・町の要請で毎週水、金に公民館５か所で無料開催。あらゆる相談に対処している。初心者には相談会より個別指導ができる出前講座がいい
・シニアネット「いぶり」では月３回無料相談会を開催。OS・Word・Excel・デジカメなど広範囲の相談を受けるのでサポーターは幅広い知識とスキルが必要。そのための教育が重要だ
・「シニアネット米子」２時間３０分で５００円徴収している。午前中に来てもらい講師とマンツーマン。さらに、必要に応じ個人向け出前講座も行っている。

論点２「パソコン以外のＩＴ機器の活用」

・シニアも携帯電話でメールをする人が多くなっている。このため携帯とパソコン間のメールのやり取りを指導している
・シニアネット米子では携帯の講習会を企画したが受講者がいなかったので中止した。携帯電話の会社によって方式が違うので取り扱いが難しい。携帯メールは個人間で教えあっている
・シニアネットいぶりではドコモに講師を派遣してもらって講習会を開催。
・携帯の活用は、通信費の負担が多くなる可能性が高いのでシニアには不安だ。パケット契約してもパソコンに比べ料金が高いのでシニアネットの会員には勧めていない
・デジカメ・ビデオなどの周辺機器の応用講座を開催すると応募者が大勢集まるし、コンクールを開いて作品を競い合っている
・女性は携帯メールが簡単なので友人同士では携帯メールが圧倒的に多く使われている。いつでもどこでも使えるのでこれからのシニアの楽しみは携帯が中心になるのではと痛感している
・旅先で電車の時刻表を調べたりできて、上手に使うと便利なツールだと思う。

論点３「パソコンを通じて人の輪の創設」

・人の輪を創設するツールとして地域ＳＮＳが面白い

・ＳＮＳミクシィは地域コミュニケーションの道具となると痛感している。Open SNP というソフトを使っておりＳＮＳが会員７００名の交流の場となっている。さらに、他のグループとの交流も作りつつある。

・週１回×１０週のパソコン講座を受け持っているが受講者同士が友達となり、交流が続いている

・メーリングリストが基本で、正会員用と一般用と２つのメーリングリストを立ち上げている。２か所の支部と１２か所のサークルがメーリングリストを通して和気あいあい交流している

・シニアネットの中に趣味を生かしたサークルや同好会が誕生し、交流の輪ができている

・地域のシニアの交流がきっかけで、シニアネットがパソコン講座を始める例もある

論点４「XP⇒Vista⇒Windows 7、システムのグレードアップ」

・初心者は Windows XP で始め、慣れてきたら Vista にすればよい

・ＯＳの違いよりも MS Office2003 と 2007 の違いに戸惑うのではないか

・シニアの Vista 所有者は増えているので１つの教室で両方のテキストを用意している

・Vista の普及率が 50%や 70%の地域もある

・Office 2003 を Vista に使っているが、Windows 7 でも使えるだろうか?

・今年１月に Windows 7 のベータ版をインストールしてみたが、Office 2003 や Open Office は問題なく使える。評判の悪い Vista の改良版という感じ。ベータ版は有効期限が今年 8 月までなので、RC 版が６月ごろリリーズされるかも。

・四谷ひろばパソコン教室では XP8 台のメモリを 512MB に増設し、Office Personal アップグレード版が２０周年記念限定版としてアマゾンでは約 8,600 円で売っているのでこれをインストールした。Office XP と Office 2007 の両方が使える状態になっている

・最近受講者が Vista を持参するケースが増えたので、昨年 Vista と Office 2007 のサポーター30 人に講習会を実施して対応している。

・マイクロソフトの社員の間では、Windows 7 が XP パソコンにインストールできるような軽いＯＳになることを期待しているそうである。

・我々としては Windows 7 の今後の情報に注意する必要がある

その他

シニアのパソコン習熟目標をどのレベルに設定しているか」という質問が参加者から出された。次のような意見が述べられた。

・パソコンを楽しめればよいと考えている

・チラシ、年賀はがきができればよいとしている

・本人の希望に合わせて教え方を変えている

・きっかけ作りができればよいと考えている

以上でワークショップ【テーマ３】は終了。参加者全員が発言し活発な論議が交わされた。

■ワークショップ

テーマー４：「社会貢献はシニアネットの使命、
行政との協働を促進」

課題提供者（五十音順）
小笠原　章氏（徳島県県民環境部地域振興局地域情報政策課課長）
中司　和雄氏（ＮＰＯ法人　あいてぃ塾ぐんま　理事長）
コーディネーター
久米　祐介氏（ＮＰＯ法人自立化支援ネットワーク　会員）

１．趣旨説明（コーディネーター）

多くのシニアネットはシニアのために、また地域のために役立ちたいと高い意欲をもって活動をしております。そのような目的のためには、関係する自治体や企業等との協働（コラボレーション）が極めて重要な要素になってきております。また自治体や企業にとっても、諸施策を進める上で地域に密着したシニアネットの豊富な経験やノウハウを活用することは重要な要素となっております。しかし、実際の活動を推進していく中では、資金・場所・人など解決していかなければならない課題もまた多く存在しております。

本日は、実際に行政として地域の情報化に積極的な「徳島県」の方と地域で活躍されている「ＮＰＯ法人あいてぃ塾ぐんま」の方に課題を提供していただき、皆様と官・民の協働の在り方、問題点、解決方法など将来の一層の協働の進展に向けて討論をしたいと考えております。

２．課題提供

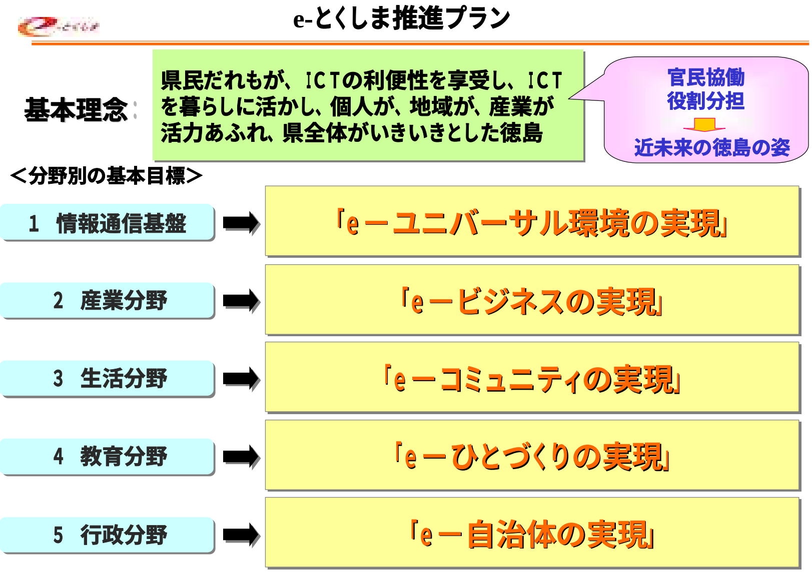
①小笠原　章氏

小笠原　章氏

ＩＣＴの持つ特性・重要性を十分認識し、社会の様々な分野で積極的にこれを利活用する徳島の姿を「e-とくしま」と呼び種々の施策を実施している。

具体的には

・e-とくしま推進財団による官民一体となっての活動
・全県ＣＡＴＶ網構想の推進による地上デジタル放送対応とインターネットの普及
・ブロードバンドを活用した高齢者世帯等への総合支援サービス
・地域コミュニティの実現
・地域社会活動の高齢者リーダーを育成するため、シルバー大学校、シルバー大学校大学院においてＩＣＴ関連講座の実施
・徳島色のある講座をはじめとするｅ－ラーニング環境の充実
さらに、徳島大学地域創生センターが設立されＩＣＴを活用した地域コミュニティ形成への取組を支援している。徳島県も学外協力員として参画している。



②中司　和雄氏

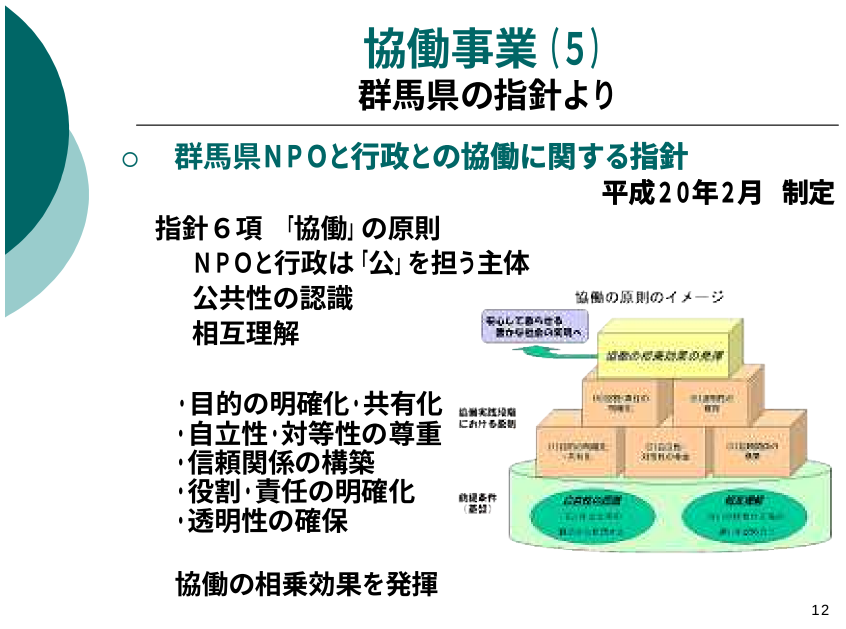
あいてぃ塾ぐんまは 2001 年パソコン操作の普及を図るためにボランティアグループとして発足した。当初は９名のメンバーでスタート、教えやすいテキストを作り、パソコンを１０台揃えた。高崎市開催のＩＴ推進・パソコン講習会へ講師として参加、指導方法を習得・ノウハウを蓄積した。現在は１８名で活躍中。

その後、受講生確保のため、高崎市地区公民館巡りの営業活動を展開し、高崎市内の公民館より初めてパソコン講習会を受託した。

講義が丁寧・親切な説明であると好評、講習依頼が徐々に増加してきた。

2002 年市内公民館主催のパソコン講習会の後、更にパソコンを習いたい方々が集いパソコンサークル（現在高崎市に３４サークル、前橋市に２サークル）が誕生し、NHK 文化センター前橋教室への講師派遣など活動を広げた。

・2002年１０月特定非営利活動法人　認証取得
・2004年シニア情報生活アドバイザー養成講座実施団体　登録認定
・2006年群馬県NPO・ボランティア推進課よりパソコン講習受託（その後前橋市では２つのサークルが立ち上がり、継続学習中）
・2007年度群馬県NPO協働提案パイロット事業を受託
・2008年～2009年にかけて以下の様に活動中
・群馬県より県内全市町村が加盟する地域情報化推進協議会特別会員に推挙
・高崎市より市内ＮＰＯ法人対象インターネット講習会受託
・前橋市より市民向けパソコン講習会の講師養成講座を受託



独立行政法人雇用・能力開発機構群馬センターからの委託訓練等の協働事業に参加している。

総じて言えることは、高崎市の行政組織が優れていることと、小学校区ごとにある地区公民館が民意を把握し、講習活動の中心になって活動していること、更にパソコン取り揃えやインターネット接続などに融通性があることなどが、官民の協働事業を進める上で機能している大きな要素と言える。

３．討議・質疑

フロアーよりの発言

杉並区では、当初は区が講習会をやってくれて区の手伝いをしていた。その後、区が企画をやらなくなりＰＲ程度になりあとはＮＰＯでやってくれということになった。あと相談コーナーをやっている。曜日、時間帯、日時があえば自発的なサークルに発展している。そのためのお手伝いをしている。サークルの運営をしているわけではなくお手伝いである。サークルは１５ほどある。

フロアーよりの質問

徳島では森首相の時に公民館にＰＣを配った。当初１－２年は無料で講師をしていた。その後の県からのお金の補助がない。どうしているかというと、公民館が機能を発揮しておらずほったらかしになっている。

ＰＣが余っていたらもったいない。行政が配ったものもそのままにしている。行政へ要請をしてよいか。

中司氏の回答
地区公民館において講習会をしてきた。市はＰＣを５０台購入したが、最初のＯＳは９８だったがＸＰにした。講習の希望の地区公民館があれば２５台ずつ貸し出している。
フロアーよりの質問
予算がないということで、ほったらかしでもったいない。民から働きかけなければいけないのか、行政側からいってくれるのか。
中司氏の回答
公民館が企画すればＰＣを使えるが、民の計画では市のＰＣは貸してくれない。
民では講習会ではなくサークル活動が主体で､サークル員が自分のノートPCを持って来るか、ノートＰＣがない人にはＮＰＯが有料で貸出している。
ＮＰが貸出すＰＣは個人（一部ＮＰＯ法人）で購入し、ＮＰＯで維持管理しているものである。これまで５０台購入。現在３０数台稼働。毎週金曜に貸出先サークルを計画し、活動日当日持って行く。
当初買ったものは老朽化したので購入者に返した。
当初のＩＴ推進・パソコン講習会の頃、市ではＰＣを持っていなかった、小学校のパソコン教室を使かわせてもらったり、業者に講習を委託したりしていた。
フロアーよりの発言
はじめは働きかけが大切。　ＮＰＯは利益を出さない。でも損失はダメ。
固定費が大切。群馬でもはじめはＮＰＯのメンバーが投資して買った。実費はもらう。２１０円/時間。　ＰＣはＯＳの問題もあり古いものは使えなくなるが、必要なことがあるかもしれないのでとってある。
フロアーよりの発言
Ｃは高いので仕事が継続しないと購入はむり。レンタルも高い。ＮＰＯは労力の提供が良いのではないか。
コーディネーター
お金は官で労力は民か？これが協業か。固定資産の部分が問題。どうされているか？
フロアーよりの発言
杉並では、基本的に寄付を仰いだ。　財団等、大きな金額ではないが、２－３台程度の寄付を頂いた。
きっかけは仲間の情報等。財団はインターネットでしらべた。公募しているところも多い。
いろいろな補助金があるのでよく探せば何かある。
コーディネーター
日本はドネーションに弱いのでは。特に個人は弱い。
小笠原氏の発言
森首相時の政策で平成１２年度に徳島県に５億円頂き、それを積み立てて取り崩しながらＩＴ普及をやってきたが、当初の１回かぎりであった。平成 17年以降は県の一般財源でつないできたが限界が来た。地方財政が厳しい。県の基金も激減した。理由は地方交付税がカットされたためである。現状では殆ど使いはたした。昨年１月からは職員の給与もカットして何とか予算を組んでいるのが現状である。
最近は、個人でＰＣをもつのが増えた。個人のＰＣを持ち寄って勉強会をしているところもあ

る。
県や市でもっている既存の施設の利用でかなり対応できるのではと思う。
嗅覚を研ぎ澄まして今お金がどこにあるかを探しだす事が大切と思う。今は国の経済対策の中にある。例えば国の２次補正の中でＩＣＴ利活用のためのお金があるが１年限りでは有る。お金を集める方法はあるが、それ以前に既存の施設を十分使っているかも問題である。
フロアーよりの質問
江戸川では家庭でインターネットをやっている人は対象としていない。それ以外の人なのでＰＣは持っていない人が殆どである。
ＰＣ教室を卒業した人に対して何かやっているのか？
小笠原氏の回答
シルバー大学、大学院でＩＣＴ講座をやっており、それの卒業生が同窓会・同好会をつくっている。この数は増えている。
ＰＣを触ったことのない人に対しては課題。２１年度にやってみたい。
コーディネーター
すでに投資しているものや場所をうまく使えてない。ただＰＣの場合はソフトの問題など古くなり更新が必要になるが、何れにせよ、適材適所にない、使いたい人が、物があるのに使えないということが問題だと思われる。どうやったらこれら有る物を使えるようになるのだろうか。
フロアーよりの発言
学校などに既存のＰＣはたくさんある。教育委員会や校長と議論をしていく必要がある。その方向のエネルギーも必要であろう。
マイクロソフトにもたくさん寄付の申込がある。その中からどうやって選ぶかというと、頑張っているところを選んでいる。どうしたらうまく引き出せるかを勉強してほしい。費用対効果の説明が大切である。
ブロードバンドにはもうお金はこない。今は雇用問題だろう。雇用に結びつくところの企画ならお金がつくかもしれない。
フロアーよりの質問
高崎市では中央公民館でＰＣを持っている。上のＯＫがでないと協働は無理だが、公民館レベルでは比較的簡単。あいてぃ塾はしょっちゅう来て情報をくれる。そのような行為が必要と思う。
学校の活用は、高崎ではキリスト教系の学校はボランティアや地域活動に理解が有るように見える。貸してくれるところもあるようだ。そのあたりの調査も必要ではないか。
中司氏の回答
高崎市の小学校でパソコン教室を貸してくれるところもある。校長の判断による。ある学校では夏休みに貸してくれた。
フロアーよりの発言
伊勢崎市では事業計画を出してもらって市の部署がＯＫなら市の備品を貸出ている。年度ではなくその都度決済をとり判断している。
フロアーよりの発言
目黒の高齢者センターでＰＣのオファーが入ったがＰＣをそろえてくれといわれた。１５台必要であった。知り合いの会社のお下がりを安く８台自己購入したが、２人に１台ではだめで、

買い増しした。
老人いこいの家で始めたケースでは、インターネットをやりたいという希望があり、小学校と交渉して貸して貰った。但しこの種のことは行政とのかかわりがないとだめ。信頼を得たうえで希望をださないとだめだが、何とか働きかけて出来た。条件はかなり厳しかったが、可能性はある。

フロアーよりの発言

学校のＰＣを借りると制約が多い。あちこちロックされている。基本操作があまりできない。それでも学校側の苦労も大変。学校のＰＣより生徒のＰＣのほうが性能上のケースが多い。
維持のための予算が学校にない。行政との協業でうまくＰＣをそろえてくれたという例はないか。多分無いだろう。

フロアーよりの発言

マイクロソフトの寄付行為としては、ＰＣやソフト等いろいろ手広くやってはいる。が申込が多いためすべてのＮＰＯに届くには時間がかかる。学校が喜ぶ、自治体が喜ぶ、仲良く出来るという見方でやると方法があるかもしれない。欲しいというだけでは水掛け論になってしまう。
すぐＰＣを貸してくるところはないだろうが、徐々に信頼が上がればいろいろ出来るのでは。

コーディネーター

自立化支援ネットワークが、新宿区の小学校の統合で廃校になった校舎を四谷の住民が引き受けて作った「四谷ひろば」で、小学校が残していったＰＣの運営を教育委員会や四谷ひろば協議会等と話し合って引き受けてやっている事例がある。

フロアーよりの発言

マイクロソフトからＸＰを頂いた経験がある。このような制度があるので利用したらどうか。「イーエルダ」という会社は古いＰＣのリサイクルをしていて安く購入できるような制度がある。このような色々な方法がある。資金を提供してくれる企業もあるようだ。

コーディネーターの質問

ハードの初期投資が大変なようだ。ソフトの維持管理も必要であるがなかなかその分野のお金の手当ては大変ということが分かった。
ところで人の関係はどうか？　アドバイザーが必要なのは当たり前だが、その他に何か必要な資格があるのか。　行政から頼みたいときに頼りないという場面はないのか。

小笠原氏

県に協働の予算がある。そこに応募してもらえれば可能性はある。県ではＮＰＯ法人の数が増えている。徳島では２５０ぐらいになっている。まず提案をしてもらってそれが採択されるかがポイントである。

中司氏の発言
群馬県から協働事業を受けたが、そのためにはＮＰＯ自体も知って貰う必要がある。以前から県や近隣市町村のいろいろな部署に接触し、我々の活動を紹介してきた。県と市町村は同レベルであり、県からは市町村に指示出来ないので市町村との接触も大切である。
我々が受けたのは群馬県協働提案パイロット事業であったが、その成果を市町村で活用してもらうまでに至らなかった。県のパワーで実施することは必要だが、アドバイザーの養成などは当初から市町村等を巻き込んでやる必要があると感じた。
ＮＰＯにとって地域と一番向き合っている市町村との協働が大切であるが、徳島県のように県の職員の方がＮＰＯに入って活動されていると市町村との連携も容易と思われ、うらやましい。
フロアーよりの発言
杉並は区とやっている。森首相のときに始めた。
コーディネーター
住民に近いところの団体がより地域の事情を知っていると思われるので良いと思うが、そこにはあまりお金がないのでは。
小笠原氏の回答
徳島には２４の市町村があり、財政力には大きな差がある。
アドバイザー講座は年間３回やっている、予算はないが、会場の確保やＰＲは県でも協力している。方法としては県のホームページのトップに載せてＰＲをするが、市町村にも働きかけ、市町村のホームページや広報誌にも載せてもらえるようにお願いしている。
それでも受講者が足りないときは県の職員向けの掲示板に載せたりして募集している。
既存の広報システムの中で出来る限りのことをしているつもりである。たとえば、職員も希望があればアドバイザーの資格をとりアシスタント等をやっている。
協議会など県と市町村の顔合わせの場があるのでその時にもＰＲしている。
吉田先生の発言

協働とはルールを見直し、変えていくことではないか。そうして暮らしを良くして行く事が協働ではないか。
今のルールではダメということでもルールを変えれば可能となろう。
ＮＰＯはプロポーザルで無く、事業の成果、課題を見出して、そして次の企画の提案のレポートをかく能力が必要。これが無いと次の事業は来ない。
それで育っていくと思う。これは一つの理想で、どうやってそこまで行くかが大切。
ＮＰＯには、個人の資質によるところも多いが、色々な層の人を入れて、NPO 力を戦略的に整えていくのが良い。
コーディネーターの質問
ルールを変えないとだめだと思うが、どうやって変えていくか？　地方がその気になれば出来るのか？
吉田先生の回答
協働ということに違和感がある。県や市町村は何のためにあるか。県や市町村のためというより地域の運営のためにある。

県の仕事をするからＮＰＯに協力してもらうという発想には違和感を覚える。市民活動で県等を応援するということでなく、それ自体が活動との考えが大切と思っている。それがコミュニティである。
２０台のＰＣを寄付しようとしたら断られた。これは協働という本質の意味の共通認識がない為と思う。
ＮＰＯはレポートを書く能力が必要。それで育っていくと思う。
これは一つの理想で、どうやってそこまで行くかが大切。
学校のパソコンといえば、教育委員会は大きな権限を持っている。基本的には子どもたちの安全が守られれば良い。ただし、学校にも大きな負担になることで、ＮＰＯは「教職員に負担を掛けない」というような意識を持ってアプローチしなければならない。
特区扱いなどいろいろやる仕組みはあり、採用されていくと言う流れが出来ている。それをどんどんやっていけるのが、ＮＰＯであり、シニアネットにそういう時代が訪れてきている。
コーディネーターの質問
行政側からみて、だれがＯＫを出せばできるのか、知事などがその気になれば出来るか？
小笠原氏の回答
住民の福祉の増進、最少の経費で最大の効果が地方自治体の使命である。何処まで出来るかは、組織なのである程度の制約があるが、地位が上がれば出来る範囲は当然広がる。
活動に対する理解ややる気。中に入ることも大切である。
コーディネーター
人の育成はどうか？　受講生は増えているの、またアドバイザーを増やすのか一般のＰＣを扱える人を増やすか？
フロアーよりの発言
杉並ではアドバイザーが定期的に集まって情報交換などをやっている。アドバイザーも高齢化している。増え方が減ってきた。杉並には地域大学があり、ボランティア活動をする人を増やすのがその主目的であるが、そこでパソコンボランティア講座をやっている。この講座は提案型で採用になったもので、当初２５名募集したが応募人数がオーバーしたので、定員を増やして全員受講可能とし、教室はＮＰＯ支援センターの会議室をかりた。ただし、そこのＰＣは古い。今ＰＣを購入するとＯＳはＶＩＳＴＡであり、ＶＩＳＴＡも必要。その講座で３０人が修了したので、その方達を対象にアドバイザー講座を紹介し進めている。アドバイザーの年齢構成を変えていこうという試みをしている。パソコンを預かってもらうという点では杉並区はやってくれている。
ＰＲについては経費の問題があり、以前チラシを配ったこともあるが効果は無かった。今は区の広報紙に出してもらっている。新しい講座への応募が減ってきたことは事実。新しくＰＣ人口を広げるという意味はかなり無くなってきたと思うが、既に使っている人への支援が必要と思うので相談コースをやっている。それを支えるのにはアドバイザーを増やしていくことが必要である。
フロアーよりの発言
江戸川では受講者は多く盛況である。江戸川区には江戸川総合人生大学がありボランティアの育成をしている。ボランティアに人が多ければ多いほど、ボランティアも増える。総合大学には、介護、町作り、国際、子供学科の４つある。応募のなかにＰＣを一緒に勉強したいという

人が多い。市販のテキストをつかって講座をやっている。

４．まとめ

当初は現存ルールの中でやることになるが、やる気のある方がいると幅が広がる。協働は住民のためという目的をお互いに考えていくことで生まれるように思う。これから何かやっていくという時に積極的にかつ前向きに攻めて行くと、どこかで必ず何かにぶつかるが、現行のルールの中でも工夫検討によりかなりのところまでは出来る可能性がありそうである。ただ、ぶつかった壁については、乗り越えようという強い意志で、ルールの見直しを含め立ち向かう気力と努力が必要となろう。これには、民と官両方で関わる人が極めて大切で、日頃からのＰＲ、連帯感、やる気等が必須である。

特に、ＮＰＯを運営しようとすると、初期投資と維持費に問題があり当初の苦労は大きいが、信頼が増すとともにいろいろの解決手段も出てくると思われる。これらは、ただ待っているだけではだめで、提案型でやっていく必要がある。ＮＰＯそれぞれ横の連携も必要である。

シニアネットの可能性は大きいしますます重要になってくることを認識して、喜ばれ、頼りがいのある施策（協働）を行っていくことを期待する。

■ワークショップ

テーマ－５：「シニアネットの運営を究める」

課題提供者（五十音順）
大林　依子氏（いちえ会　主宰）
中島　敬也氏（熊本シニアネット　代表）
コーディネーター
羽澄　勝氏（ＮＰＯ法人自立化支援ネットワーク　理事）

１．趣旨説明（コーディネーター）

シニアネットの活動がシニアを元気にし、地域に活力をもたらすものとして各地で大きく評価されてきていいます。シニアネットが常に進化し続け、いつまでも元気な活動を続けて行くこと。そのための、組織･活動形態･資金･会員規模等々シニアネットの運営のあるべき方向についてお二人の課題提供者のお話しを聞いたうえで皆さんとで討論して行きたい。

コーディネーターとして “ きわめる ” と言うことは、いたずらに面の拡大を目指す “ 極める ” ではなく、面がＸ軸･Ｙ軸の広がりであるとすれば、いわゆるＺ軸とでもいえる深く掘り下げて考える“ 究める ”という側面にも注目し進行役を務めたい。

２．課題提供

①大林　依子氏：

いちえ会は、1994 年、東京・飯田橋で活動を開始して以来、現在も任意団体として活動しています。
運営に関しては、組織や規則を持たないフラットな関係を大切にしながら、ゆるい結びつきでの活動を続けています。組織や規則で秩序を安定させる方法も良い方法ですが、シニアともなると、ひとりひとりの常識と良識があれば、これだけ長い年月の活動が可能になることを実感しています。

また一方で、いちえ会は任意団体にもかかわらず、さまざまな企業からの協力依頼をいただくことも少なくありません。いつも新しいＩＴ技術に関してアンテナを高くし、シニア世代にとって必要な技術を取捨選択し、それをわかりやすく会員に提供していくことも、シニアネットには必要不可欠なことではないかと感じています。そのためには、どのような場づくりと交流のシステムが必要か、少しでもお伝えできればと考えています。

いちえ会の活動の柱

・セミナー、オフ会など実地の活動
・インターネットによるコミュニケーション
・シニア情報生活アドバイザー制度の活用
・対外的な活動

⇒

いちえ会の活動のポイント

・仲間作り・交流
・新しい動向のキャッチアップ
・知的好奇心を満足

⇩

・活性化につながります

いちえ会が目指すもの

・いちえ会にとって　メンバーの活性化とは

⇩

・所属することでメンバーの自己実現が出来る状態

⇒

そのために重要なこと

・先ずメンバーが何かに頼らずに自ら進んで取り組むこと

・個人では出来ないことを団体がサポートして出来ること

②中島　敬也氏：

「シニアの孤独をなくし、楽しく学び、遊ぶ、社会活動の３拍子で高齢者の生きがい作りの創造を図る」という理念に基づいて、熊本学園大学の大学院生とＯＢ，教授や職員２１名が 1999 年７月に集まって発足しました。

特徴は、歩いていけるところに１２の支部(私たちはサロンと呼んでいます)があるということです。支部の運営は自主運営です。お助け塾がそそもの始まりで「みんなが先生、みんなが生徒」の方針で運営しています。

１０年前はＩＴ(情報技術)を活用するシニアは少数派でした。果たしてシニアネットが成立するだろうかと周囲は問題視していました。しかし現在、「シニアＩＴリーダー」の養成講習に人が集まりますし、入会者登録番号が 1170 番を超えたということは、「ＩＴを利用して交流を活発にする」という目的の一部が会員の理解と支えによって達成されつつあるように見えます。

シニアネット熊本の目的と活動

（1）シニアの孤立を無くし、生きがいの創造を図る為、新たな文化的、人的交流の場を提供します。
（2）会員相互の研修により情報技術に関する知識向上を図ります
（3）世代間の交流による相互理解に務める活動
（4）ホームページとメーリングリストを開設し、会員相互の情報交換を行います
（5）パソコン教室を実地し、また会員相互にパソコンに対する質問に対応します
（6）会員がそれぞれの興味に応じて、コミュニケーションを図る（交流会の実施）
（7）福祉観点から、高齢者のネットワークに関する研究を行います
（8）その他　会の目的を達成する為の活動を行います
（9）医療・保健・福祉・法律・年金・植物栽培など広範囲の専門家にも参加して頂きネットで相談室（主に電子メールによる）が開けることを目指します

会員と組織

特徴

歩いて、自転車で行ける所に支部（私たちは通称サロンと呼んでいます）があること

会員

「正会員」は、年会費を納めて会の運営に参加することが出来ます

「メール会員」は、会費を納入しなくて良いが、会の運営には参加できません

（メーリングリストは利用できますし、その他の活動は有料で参加できます）

組織

（１）　役員と事務局：■　代表、副代表、顧問　■　事務局長、事務局次長、事務局員、

（２）各部

教育普及部、交流企画部、ホームページ部、保健福祉部、機器管理部、サーバー管理部

（３）１２の支部（サロンと呼んでいる）

（４）各クラブ

デジカメクラブ、つりクラブ、ハイキングクラブ、 パークゴルフクラブ、ゴルフクラブ、 囲碁クラブ、 ハムクラブ、 立田山散策クラブ

特質すべき活動

熊本県シニアＩＴリーダーの養成

熊本県・熊本さわやか長寿財団とのコラボレーションで、平成１７年６月から開始

この講座を終了で知事の「終了証」と「シニア情報生活アドバイザー」の認定証が取得でる

アドバイザーのスキルアップ

■　月１回のアドバイザー会議　■　講師講習　■　サロン支援のための講師派遣

３．討議、意見交換

コーディネーター

この「ワークショップ５」には７つの団体から参加されています。お二人から課題提供を頂きましたので次は、参加者と課題提供者との質疑応答ということではなく、７つの団体それぞれが持つ現状と課題を話し合い、重ね合わせた結果、融合した【シニアネットワークを究める】ヒントを、それぞれが持ち帰ることが出来るような討議･意見交換になるよう、議事進行させていただければと思います。

討議、意見交換の前提として、提供いただいた二つの課題を整理しますと次の通りとなります。

いちえ会

- 1994 年 5 月活動開始
- 東大駒場隣接の常設サロン
- 個々の自主性と知恵
- サポーターズクラブ（会員からは会費をもらわない）
- NMDA アドバイザー養成

- 活動の場の提供
  企業との連携
  会員交流の場
  ホームページ、掲示板
- 現在の活動を持続すること

提供課題の整理

熊本シニアネット

- 1999 年 7 月活動開始
- 本部と 12 のサロン(支部)
- 正会員、メール会員
- 会費

- NMDA アドバイザー養成
  (合格者は県知事名の終了証受領)
- 活動の場の提供
  県、大学、老人福祉施設
  会員交流の場
  ホームページ、メーリング
- 財政と人材育成が課題

これらのポイントを、参考にしながら、皆様の現状課題をお聞かせ下さい。

Ｉ氏（とかちシニアネット）の発言

これからの１０年をどう取り組みどう組織して行けばよいのかが大きな課題である
行政との協働、人材の育成、会員女性５３%にどのように活躍してもらうか、団塊世代の取込をするための方策、教室の広さ・現有パソコン台数、会費は妥当なのか

Ｆ氏（北海道大学）の発言

シニアネットの親密圏、公共圏、コミュニティでの言論空間がシニアの孤独を開放する有効な資源となるのではないかという構想で研究を進めている
メーリングリストでの交流で、激しい意見の対立となることはないのか、その場合、どのように解消しているのか
これからの１０年２０年をシニアに頑張ってもらわないと、私は何を研究していたのかということになる

Ｔ氏（埼玉県　鶴ヶ島）の発言

現在４２名の会員で活動している
次のような理由でメール会員を廃止した
　会員の半分が主婦で、意見が出てこない
　会員同士で活動がバッティングする場合が多く、情報収集の場のみと考える会員が目立った
　会員同士の信頼関係がないと維持が難しい
　（場所を持たない、OFF 会がない　ことにも起因しているのだろうか）

Ｉ氏Ｉs氏（熊本シニアネット）の発言

熊本の有り方がごく当たり前と思って疑わなかったし、組織のない集団は考えられない
熊本はお金を払う会員と払わない会員で構成されている

女性の比率が高く自分たちでメンバーを作っている。例えば　お茶の会、マージャンの会など
会員育成を如何するか、存続を如何するかが悩み

大林氏の発言

みんなの気持ちが必要性を感じている団体であり続けること
サポータークラブは現在120名くらい（寄付だと思っていますし、大事に使わずにおいている）
家賃の負担は決して楽ではないが、人気講座や企業との連携で運営できている
場の提供を大切にしている
バーチャルの場とリアルの場　発足の時、会社人間（組織縦割り社会）と主婦的発想の違いは有ったが、現在のやり方に自信はあった

Ｉ、Ｋ、Ｎ、Ｋ氏（いちえ会）の発言

いちえ会に加入する前は別の活動をしていたが、組織を維持すること・活性化することに苦痛を感じていたが、現在は伸び伸びと活動できている。（奥様も一緒に活動している）
熊本のシニアの情報生活アドバーザー取得者への研修システムは、今後の参考になる。
ネットでいちえ会へ入会し　講師もやっているが、自分が貢献できることで貢献出来れば良い
アドバイザーの資格を持ちパソコンの講師をしているが、生徒と共に出来た作品を楽しめれば最高

Ｓ氏（小平シニアネットクラブ）の発言

2001年スタートし現在の会員は２４０人、年会費3,000円で、市の公民館やセンターを活用している
地域密着型に徹して運営を究めるべくがんばっている
半分は社会人を終わった男性、半分は専業主婦で、誰かがどこかで集まっているが、会員同士が結びつき過ぎている傾向もある
いちえ会の運営は自分達と違いすぎ、正直のところ何もないと分解してしまう不安を感じる
講師はアドバーザー資格者だけではなく、技量を見ながら選んでいる･･･ワードエクセルさようなら

Ａ氏（栃木県シニアセンター）の発言

無償の講座を通じて、多くの会員を集めている
どんどん入って、やめる人は辞めてもらって良いのでは、組織の拡大に神経質になる必要はない

Ｈ氏（自立化支援ネットワーク）の発言

アドバイザー養成講座の講師もやっているが、“組織に入ってやりたくない、縛られたくない、自分勝手にやりたい”

船橋の自活村にも所属している・・・オフ会的存在が有り、会から会へ発展している
止まり木があること　だからわいわいなんでもやれる
熊本はその辺が実に上手く機能していると感じた

中島氏の発言

このように話し合っていると、皆どこか類似点が有るなということが分かった
メーリングの炎上は良く有るが、誰かが仲裁できる、そこが大切だろう
組織のことは、形は作るが、縛りは出来るだけ緩やかに運営している、あと十年はこの侭で良い
ＮＰＯ組織にしても良いのかなとも考えている
場の提供、知識を表現できる場の提供に努めながら、核となる人材を育てて行きたい
我々が元気になれば良い、そうすれば地域にも貢献できる

大林氏の発言

アドバイザーのスキルアップの機会をきちんと作れてないので、仕組みは必要かなと感じている
熊本や皆様の話を聞きながら、やり方が違っても　目指すところは同じであることを痛感
活動の場の提供が、仲間が居るからやれるのだという安心に繋がり、そこから活力が生まれてくる

Ｓ氏（小平シニアネットクラブ）の発言

団体の立ち上げの形態はそれぞれ違うが、共通なのは、『場の提供、会費の問題』
小平では、団塊の世代を引き込んで、地域密着型を推し進めたいが、中々会員が増えない

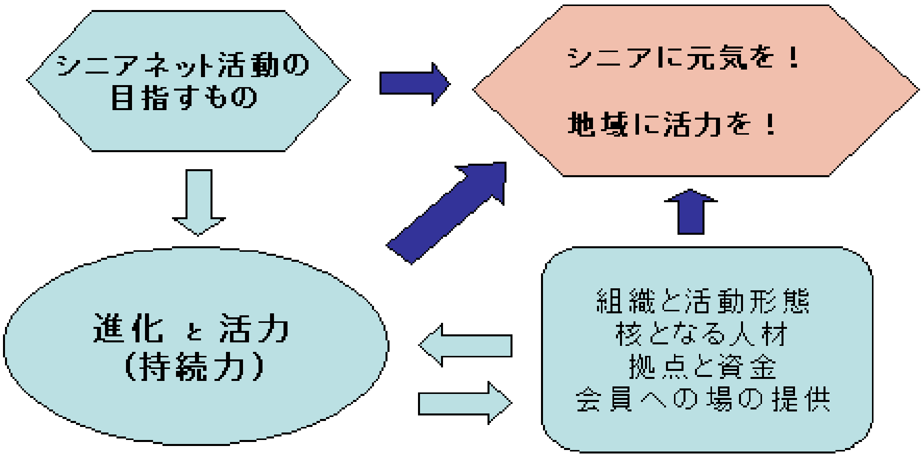
コーディネーター

以上参加者の活動の現状と課題を討議してきましたが、その中から別の観点から新たに浮き彫りになり、忘れてならない点として：

・シニアの社会的評価を引き上げることが必要であること・・安いからシニアへ頼むでは困る
・団塊の世代の取り込みと言いながら、年金支給時期のことも有り、彼らも未だ稼ぐ必要が有ること
・女性、男性共にお互い思い込みが多いのでは、でも男性が変わっていかないと
・パソコンハードの問題・・・XP　VISTA　受講生持込 VISTA　ME も使われている現状

などが挙げられます

コーディネーター：論点を整理する
いちえ会と熊本シニアネットのお二人の提供課題を切り口に、皆さんとの討議の論点を融合して、チャート化すると図の様になるのではないでしょうか。



４．まとめ
組織が有るか無いか　多くのシニアが組織や規則で縛られることに飽き飽きしていながら、長い人生の中で組織人間に育て上げられてしまい、組織や規則が無いと不安でしょうがない。組織人間の経験が薄い女性陣と組織や規則が無いと不安でしょうがない元会社人間、実は皆拘束から逃れ自由で在りたいと思っている。

今回のワークショップで鮮明となったのは、縛られるのは嫌だが、孤独も嫌だと言う我が侭なシニアのニーズに対し、いちえ会、熊本シニアネットという二つの団体は、全く両極から取り組みながら、実はその目指すところは同じであるということであろう。

非常に印象的だったのは
・熊本シニアネット中島代表の『本当に必要な人を支援していく』
・いちえ会大林主宰の『いちえ会の将来に向かっての維持が目標では有りませんが、この会がなくなったら困ると思う仲間が居る限り継続し続ける』
と言う、苦労を重ねて現在の団体にまで育て上げた自信と、
・今がしっかりしていれば、人材は育つ、お金は付いて来る、
と言う確信溢れる締めくくりに、参加者は、自分達の課題解決策のヒントを得たに違いない。

■シニアネット交流広場

全国各地で活躍している16のシニアネット、3つの企業および財団法人JKAより、活動状況などの展示がなされた。2月27日の13時より14時30分まで交流広場が開催され、多数のフォーラム参加者が訪れた。日ごろ顔を合わせることの無い者同士がフェース・ツー・フェースで意見交換し、相互交流を深め、それぞれの活動のための知見を得る場となった。

1．会場風景

2．各団体の展示内容－１

ＮＰＯ法人 湖南ネットしが

ＮＰＯ法人 シニアネットいぶり

ＮＰＯ法人 あいてぃ塾ぐんま

ＮＰＯ法人 栃木県シニアセンター

社団法人 長寿社会文化協会・
関東ネットワークセンター

ＮＰＯ法人 シニアＳＯＨＯ横浜・神奈川

各団体の展示内容－２

熊本シニアネット

ＮＰＯ法人 シニアネット光

ＮＰＯ法人 いきいきネットとくしま

財団法人　ＪＫＡ

ＮＰＯ法人 沖縄ハイサイネット

マイクロソフト株式会社

各団体の展示内容－３

ＮＰＯ法人 おおさかシニアネット

株式会社デジブック

ＮＰＯ法人 東上まちづくりフォーラム

ＮＰＯ法人 すぎとＳＯＨＯクラブ

メロウ倶楽部

トレンドマイクロ株式会社

各団体の展示内容－４

ＮＰＯ法人 あびこ・シニア・ライフ・ネット　　　　いちえ会

３．シニアネット交流広場　出展団体

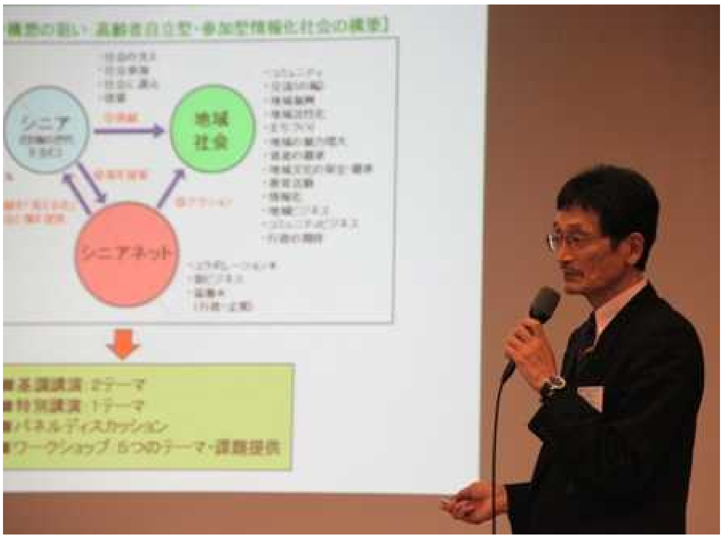
ＮＰＯ法人 湖南ネットしが office@konan-net.org	財団法人 ＪＫＡ http://www.keirin-autorace.or.jp/
ＮＰＯ法人 シニアネットいぶり urara05@orange.plala.or.jp	マイクロソフト株式会社 http://help.jp.msn.com/contact.aspx
ＮＰＯ法人 あいてぃ塾ぐんま aitei-juku@po.wind.ne.jp	ＮＰＯ法人 おおさかシニアネット http://osaka-senior.net/osn_blog/go_blog.html
ＮＰＯ法人 栃木県シニアセンター tochi-senior@cc9.ne.jp	株式会社デジブック info@digibook.com
社団法人 長寿社会文化協会・ 関東ネットワークセンター kantou@wacnc.net	ＮＰＯ法人 東上まちづくりフォーラム info@tojocity.org
ＮＰＯ法人 シニアＳＯＨＯ横浜・神奈川 toiawase@svyk.jp	ＮＰＯ法人 すぎとＳＯＨＯクラブ npo@sugito.com
ＮＰＯ法人 沖縄ハイサイネット haisai@khaki.plala.or.jp	メロウ倶楽部 webmaster2@mellow-club.org
ＮＰＯ法人 シニアネット光 sn_hikari@ybb.ne.jp	トレンドマイクロ株式会社 http://jp.trendmicro.com/jp/home/
ＮＰＯ法人 いきいきネットとくしま info@ikiikinet.org	ＮＰＯ法人 あびこ・シニア・ライフ・ネット tsasaki1@jade.plala.or.jp
熊本シニアネット jh6uhi@m18.alpha-net.ne.jp	いちえ会 http://www.ichiekai.net/home/

■クロージングセッション

総括

生部 圭助氏（ＮＰＯ自立化支援ネットワーク　理事長 ）

１．お疲れ様でした



自立化支援ネットワークの生部圭助でございます。２日間にわたりお疲れ様でした。基調講演や特別講演の先生方、パネリストの皆様、ワークショップで課題提供をしてくださった皆様、熱心に討議に参加し質問をいただきました方々に厚くお礼申します。

平成２０年度のシニアネットフォーラム２１の第１回目としては、昨年の１１月に大阪で開催いたしました。本年度の２回目であります東京での開催も無事に終わりを迎えることができ安堵いたしております。

今回のシニアネットフォーラム２１では、私ども自立化支援ネットワーク（ＩDN）が、企画段階から、フォーラムの主催者であるニューメディア開発協会の村岡部長のお手伝いをしてまいりました。また、当日の運営にもＩDNのスタッフが携わってまいりました。

フォーラム全体の構成、当日の運営にご満足いただけたか若干の心配もあります。もし、不都合などありましたらご容赦いただきたいと思います。

２．今回のフォーラムのコンセプト

こちらのスライドは、今回のフォーラムのコンセプトを示しております。３つのブロックに分かれております。左上は、生きがい・自己実現・新しいライフスタイルの追及など、シニア個人の願望を示しております。右のブロックは、地域・社会を示し、下のブロックは、活動主体としてのシニアネットを示しています。

それぞれのシニアは、個々の生きがい・自己実現を願うのと同時に、地域や社会に貢献したいという願望も持っております。シニアネットは、シニアの活動機会と活動の場を提供するのと同時に、シニアの知財と活力を結集して地域の活性化に貢献できるようにアクションを起こすことになります。

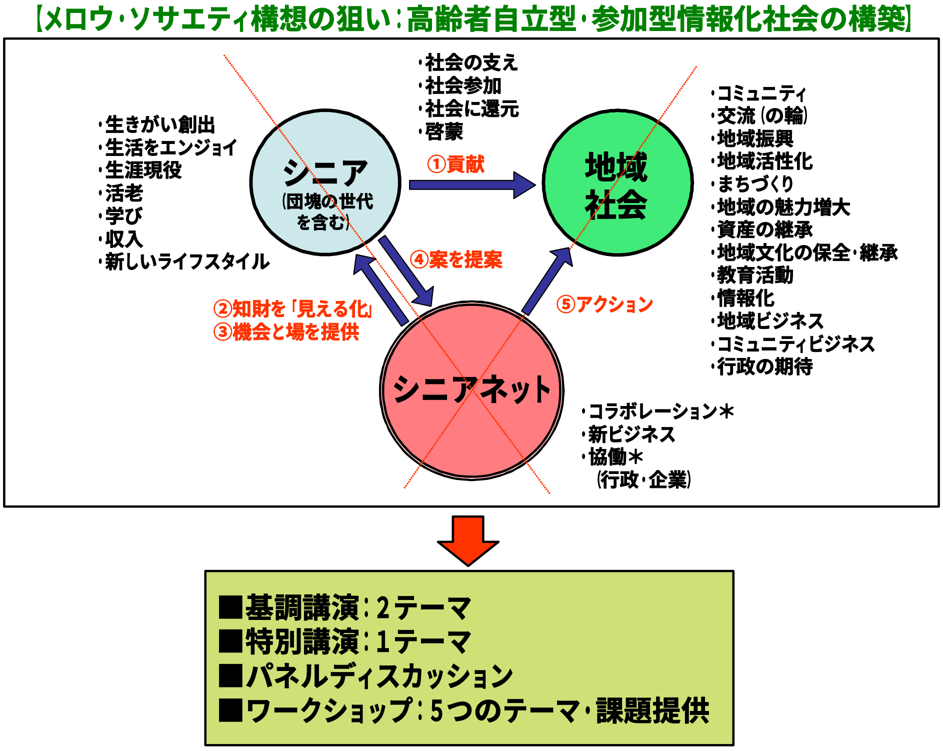
今回のシニアネットフォーラム２１では、この図に示しますようなコンセプトの元に、基調講演、特別講演につづいて、パネルディスカッションと５つのワークショップを企画いたしました。

基調講演の島田先生には、７月の初め頃にご講演をお願いしました。当時は今日のこのような経済状況を予測することはできませんでしたが，わが国のトップに位置しておられますエコ

ノミストの立場より直接貴重なお話を伺うことができました。また、先生が実践されていることを通して、私どもシニアを元気付けるエールをいただきました。

トレンドマイクロの黒木様には、ＩＴやＰＣ利用における昨今のセキュリティ問題についてより具体的な内容に踏み込んでいただきました。セキュリティ問題については、ひところとは異なった点に注意を要することを知ることができました。

また、自分が被害を受けないようにするだけでなく、他人様へ迷惑をかけないことにも注意すべきことを理解することができました。



私は今回のフォーラムを通して、一人のシニアとして、また、シニアネットの責任者として、感銘をうけ、ご教授を受けることがたくさんありました。以下、二つのポイントについて簡単に述べてみたいと思います。

個人の『生きがい』を重要視しよう

2009年のはじめにフォーラムの案内をしてから、皆様の参加申し込みの状況を注意深く見てまいりました。ワークショップは、テーマ１（生きがい）、テーマ２（コミュニティ・ビジネス）、テーマ３（ＩＴ普及）、テーマ４（行政とのコラボレーション）、テーマ５（シニアネットの運営）の５個で構成されております。ワークショップへの参加希望の申し込みとしましては、テーマ１（生きがい）への申し込みが多い状態で推移してまいりました。

私自身も常に、各個人の期待にこたえることが重要であると思いながら、いろんな局面での判断するように心がけておりますが、今回参加された皆様も、自分の生きがいや自己実現に大きな興味をお持ちになっているのを強く感じました。私たちが日ごろ実施しようとする事業や活動を考えるときの評価軸として、「個人の生きがい」を重要視することを忘れてはならないと思います。

１０年を経たシニアネットの新たな飛躍を

今回のフォーラムのもうひとつのポイントは、１０年を経たシニアネットが新たな飛躍を遂

げるための節目に位置づけようというものであります。
　徳島大学の吉田先生にご無理を申しまして、特別講演とパネルディスカッションのコーディネーターをお願いしました。吉田先生は、３年前の「シニアネットフォーラム２１　in 四国」でもご講演いただいており、シニアネットの現状を分析し、今後のあり方についても提案されています。また、平成１９年度には、こちらにいらっしゃる堀池様も参加されて『平成１９年度構築研究会　シニアネットの構築と活性化のためのガイド』の報告書をまとめておられます。その中で、１０年を経たシニアネットを総括し、新たな展開についても言及されています。シニアネットをもっと機能させる仕組みづくりとして『全国的なシニアネットセンター』を立ち上げることを提言されています。今回の特別講演でもその一端を披露していただきました。
　各シニアネットでは、それぞれに努力を続けることにより、参加される皆様の満足とシニアネットとしての成果を挙げておられます。それぞれは、一層の努力を重ねることにより、更なる発展を目指してもらいたいと思います。一方、吉田先生たちが提言されている、新たな展開ができれば、シニアネットの新しい道が見えてくるかも知れません。

３．次年度にむけて

　今年度のシニアネットフォーラム２１はこれでお開きとなります。次年度は熊本で開催しようというお話もあるやに伺っておりますが、ぜひ実現してほしいと思います。
　本日はこれでお別れすることになりますが、ぜひ、今回知己を得た方々がネットワークを介して今後も交流をしながら、来年に再び皆様と一同に会する機会を持つことができることを切に希望いたします。
　本日も最後までご出席していただきありがとうございました。改めてお礼を申します。

シニアネットフォーラム21 in 東京 2009

付属資料

□ シニアネットフォーラム21 in 東京 2009　案内状
□ シニアネットフォーラム21 in 東京 2009　来場者用アンケート表
□ シニアネットフォーラム21 in 東京 2009　来場者用アンケート調査結果
□ シニアネットフォーラム21 in 東京 2009　参加者データ

シニアネットフォーラム21in 東京　2009

◇シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍◇

〜シニアパワーで新しい文化を〜

平成21年2月26日(木)〜27日(金)

日本青年館(東京都新宿区)

主催：財団法人　ニューメディア開発協会 (http://www.nmda.or.jp)

現在、我が国は65歳以上の高齢者が約2819万人、人口比率で22.1%となっております。また一段と高齢化が進み、実に4.5人に1人が65歳以上と言うことになります。日本の総人口は既に減少に転じている中、団塊の世代が高齢者の仲間入りをするなど高齢化はますます進み、少子化と相俟って2055年には65歳以上の高齢者が41%を占めるであろうと予測されております。ほぼ二人に一人が高齢者という時代がやってくるということになります。

高齢者が数の上でメジャーとなる時代、かつて団塊の世代がそうであったように、高齢者のパワーが社会を変えていく、と言っても過言ではありません。今後、高齢者が社会の主役として、新しい文化形成の担い手としてさまざまな形で活躍されることがますます重要となって参ります。
そこでは、高齢者の方々自身の意識や生活様式等自らの生き方を変えていくことが大切になっていくのではないかと思われます。

そうした中、好きなITを生かして充実したシニアライフを送りたい、そして少しでも社会のためにお役に立ちたいとする高齢者同士が集う「シニアネット」が各地にあって、高齢者へのIT講習を行ったり、長年培ってこられた知見・ノウハウ等をITを駆使して地域に還元したりと、仲間と共に楽しく、生き生きと、地域に根差したさまざまな活動を展開しております。

シニアネットは、まさに高齢者に"地域デビュー"の機会をもたらし、シニアライフを豊かで楽しいものにするなど高齢者の生きがいの創出に大きな役割を果たしております。そして、かかる少子高齢社会にあって、高齢者の持つ豊かな知識・技術・経験等は、自治体等と協働(コラボレーション)することで、地域の情報化促進はもとより、街づくり、地域振興等に大きく貢献するものであります。
このようにシニアネットは、高齢者にとっては勿論、自治体・企業の方にとっても大変重要な組織であると言えます。

当協会は、旧通商産業省(現経済産業省)が提唱された「メロウ・ソサエティ構想」の実現を目指すにあたり、こうしたシニアネットの活動こそ極めて重要で、欠くべからざるものと認識し、シニアネットを強力なパートナーと位置づけ、連携を強化して参りました。こうした経緯から、当協会はシニアネットが全国津々浦々、至る所にあって、高齢者が生き生きと活躍している、そうした姿を創出していくことが急務と考えております。
その為、シニアネット普及・拡充を図るべく、これまで経済産業省や財団法人日本自転車振興会(現財団法人JKA)のご指導、ご支援を得る中、シニアネット諸団体等と協力しあって「シニアネットフォーラム21」を全国で開催して参りました。

この度は「シニアネットフォーラム21in東京　2009」を東京で開催することとし、「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍！－シニアパワーで新しい文化を－」と題し、シニアネットのより一層の普及と活性化を図ることに致しました。

既にシニアネットに加わって活動されている方々は勿論、「地域デビューをしてみたい…」「シニアネットに参加したい…」「何か地域のために活動してみたい…」等々お考えの高齢者や団塊世代の方、そして「高齢者と協働して施策や事業に取り組みたいが…」とお考えの自治体や企業の関係者の方など、幅広い分野の方々にご参加頂き、熱い議論と深い交流を通して、シニアネットのあり方を考え、活力ある高齢社会の創出につながる有意義なものにしていきたいと切望しております。そして、参加された皆様の今後のご発展につなげて頂ければと思います。

このフォーラムがきっかけとなって、シニアネットの普及・拡充が一層加速され、高齢者の充実したシニアライフや豊かな高齢社会の構築に貢献できれば、これに勝る喜びはありません。

それでは、多くの方々のご参加を心よりお待ちいたしております。

KEIRIN 競輪補助事業

開催概要

日時　平成21年2月26日(木)　10:30〜17:45
　　　　　　　　27日(金)　10:00〜15:45
　　　　(懇親会　26日(木)　18:15〜20:00)

会場　日本青年館
　〒160-0013
　東京都新宿区霞ヶ丘町7番1号

主催　財団法人ニューメディア開発協会

後援　経済産業省(予定)

協力　株式会社ジャストシステム
　トレンドマイクロ株式会社
　ニフティ株式会社
　マイクロソフト株式会社　　(五十音順)

定員　約200名

参加費　無料

参加対象
- ・シニアネットへの参加や新規設立等シニアネットに関心のある方
- ・シニアネットのメンバーの方
- ・団塊の世代の方
- ・シニア情報生活アドバイザーの方
- ・自治体で高齢者問題やコミュニティ・ビジネス、NPO活動推進をご担当の方
- ・企業で社会貢献 シニアマーケティング、バリアフリーなどシニア向け商品・サービスの企画開発等に携わっておられる方
- ・コミュニティ・ビジネスやNPO活動に取り組んおられる方　等々

【お問い合わせ先】
「シニアネットフォーラム21　事務局」
〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル18階
日本コンベンションサービス株式会社内(堀内、西村)
TEL03-3508-1213　FAX　03-3508-0820
e-mail　snf21@convention.co.jp

申込方法　下記いずれかの方法でお申込み下さい。

①FAXまたは郵送でのお申し込みの場合

同封の参加申込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にて下記「お問い合わせ先」までお送り下さい。

②ウェブサイトよりお申し込みの場合

下記ウェブサイトへアクセスして頂き、専用フォームよりお申込み下さい。

- ・シニアネットフォーラム21　事務局
  URL:http://www.npo-idn.com/snf21-2009tokyo/annai/
- ・主催者 URL:http://www.nmda.or.jp/mellow/

申込締切:平成21年2月8日(金)(郵送の場合、当日消印有効)

申込締切後「参加証」をお送り致します。なお定員に達した時点で締め切らせていただきますのでご了承下さい。

懇親会　　どなたでもお気軽に、ご参加下さい。

新しい出会いをつくり、お互いの親交を深めて頂ける場です。ご参加頂いた皆様同士、親しく、そして楽しくご歓談頂きながら、有意義なひとときをお過ごし下さい。また、余興など楽しい催しもご用意致しております。どうぞ、どなたでもお気軽にご参加下さい。

■ 会場　:日本青年館4F 宴会場『アルデ』

■ 会費　: 5,000円

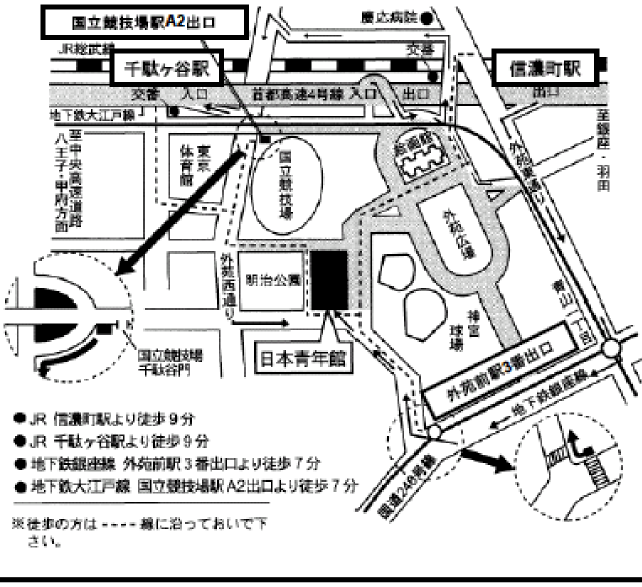
ご昼食　お昼には、お弁当をご用意致します。
　どうぞご利用下さい。

■ 料金 : 1,000円

懇親会・ご昼食をご希望の方は、事前に下記口座に所定の金額をお振込頂けますようお願い申し上げます。尚、振込手数料はご負担下さいますようお願い申し上げます。

お振込み先　三井住友銀行 日比谷支店 普通口座
　口座番号:　8322576

お振込み期限　:平成21年2月8日(金)



日本青年館へのご案内

- ●JR　信濃町駅より徒歩9分
- ●JR　千駄ヶ谷駅より徒歩9分
- ●地下鉄銀座線　外苑前駅3番出口より徒歩7分
- ●地下鉄大江戸線　国立競技場駅A2出口より徒歩7分

※徒歩の方は地図の点線に沿ってご来場下さい。

※会場及びその周辺は駐車場が少ないため、
当日は公共の交通機関をご利用下さい。

※車でのご来場はご遠慮いただきますよう、
お願い致します。

プログラム

2月26日（木） 日本青年館

10：00～10：30	受付	
10：30～10：45	開会 オープニングセッション	・主催者挨拶 岡部 武尚（財団法人ニューメディア開発協会 理事長） ・来賓挨拶 経済産業省商務情報政策局（予定）
10：45～12：00	基調講演1	「高齢社会に於けるアクティブシニアの新しい生き方 －社会の主役に－」 島田 晴雄氏 （千葉商科大学 学長）
12：00～13：00	休憩（昼食）	
13：00～14：00	基調講演2	「ITと暮らすシニアの安心と安全－IT はシニアの強い味方－」 黒木 直樹氏 （トレンドマイクロ株式会社 上級セキュリティエキスパート）
14：00～15：00	特別講演	「新しい時代のシニアネットとは －2010年代に向けて更なる飛躍を－」 吉田 敦也氏 （徳島大学・総合科学部 教授、地域創生センター長）
15：10～17：45	パネルディスカッション	「シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍」 ・コーディネーター 吉田 敦也氏（徳島大学・総合科学部 教授、地域創生センター長） ・パネリスト（五十音順） 斎藤 富士夫氏（NPO法人 湖南ネットしが 理事長） 塩見 信雄氏（NPO法人 シニアネットひろしま 理事長） 砂川 正男氏（NPO法人 沖縄ハイサイネット 会長） 中西 建策氏（NPO法人 おおさかシニアネット 副理事長） 柳原 正年氏（富山社会人大楽塾 代表）

2月26日（木） 日本青年館 4F 宴会場『アルデ』

18：15～20：00	懇親会	

プログラム

2月27日（金）　日本青年館

9：30～10：00	受付	
10：00～13：00	ワークショップ	【テーマ1】 「シニアの生き甲斐を創出、魅力あるシニアネットとは」 課題提供者： 福森　宏昌氏（NPO法人　シニアネット光　代表理事） 小池　達子氏（メロウ倶楽部） 【テーマ2】 「シニアの豊かな経験を地域に活かす、事業型シニアネットのすすめ」 課題提供者： 堀池　喜一郎氏 （NPO法人　シニアSOHO普及サロン・三鷹　顧問） 細内　信孝氏 （コミュニティ・ビジネス・ネットワーク　理事長/ コミュニティビジネス総合研究所　代表取締役所長） 【テーマ3】 「シニアへのIT普及活動の更なる飛躍に向けて」 課題提供者： 山崎　憲一氏（シニアネット米子　理事長） 秋山　幸彦氏（NPO法人　シニアネットいぶり　理事長） 【テーマ4】 「社会貢献はシニアネットの使命、行政との協働を促進」 課題提供者： 小笠原　章氏 （徳島県　県民環境部　地域振興局　地域情報政策課　課長） 中司　和雄氏（NPO法人　あいてぃ塾ぐんま　理事長） 【テーマ5】 「シニアネットの運営を究める」 課題提供者： 大林　依子氏（いちえ会　主宰） 中島　敬也氏（熊本シニアネット　代表）
13：00～14：30	シニアネット交流広場 休憩（昼食）	シニアネットの成果展示による相互交流の場
14：30～15：30	ワークショップ発表	各テーマの討議内容発表（発表者：各コーディネーター）
15：30～15：45	クロージングセッション 閉会	「総括」 生部　圭助氏（NPO法人　自立化支援ネットワーク　理事長）

実施予定プログラム

2月26日(木)

基調講演1(10:45～12:00)

『高齢社会に於けるアクティブシニアの新しい生き方－社会の主役に－』

島田　晴雄氏(千葉商科大学 学長)

我が国の高齢化は急速に進み、2055年には実に総人口の41%が65歳以上になると見込まれています。シニアが数の上でもメジャーとなる時代、まさにシニアがこれからの社会を変えていく、と言っても過言ではありません。「活老なくして繁栄なし」と言われております通り、高齢者が主役になって社会で活躍することがますます重要となって参ります。

そうした中、多くのシニアが「シニアネット」に集い、得意のITを駆使しながら元気に、楽しみながら、IT講習などをはじめボランティア活動に邁進し、豊かで充実したシニアライフを目指しております。まさに、自ら自立し、社会を支える側に立とうと意欲的な活動を展開しております。シニアネットはシニアの生きがいづくり、地域の振興にと重要な役割を果たしている大変有意義な組織であり、シニアが主役で活躍するに、その普及拡大が急務であります。

かつてメロウ・ソサエティ構想推進に関わったこともある我が国を代表するエコノミストで、小泉内閣の内閣府の特命顧問を務めた学識経験者より、吹き荒れる世界同時不況にシニアも否応なく呑み込まれようとしている、厳しい局面にあることも考慮したとき、シニアは今後、どう生きるべきか、シニアの社会参加・市民活動の意義等について言及していただく中、その生き様について語って頂きます。

基調講演2(13:00～14:00)

『ITと暮らすシニアの安心と安全－IT はシニアの強い味方－』

黒木　直樹氏(トレンドマイクロ株式会社 上級セキュリティエキスパート))

高度情報化社会が進展する中、ITはますますシニアの生活に深く関わってきております。ITと暮らすシニアにとって、電子メールやインターネットの利活用は今やシニアライフを実り豊かにするものとして日常生活に欠かせない存在になってきております。現在、そこには様々な“危険”が待ちかまえておりますが、今後、日進月歩を続けるITがシニアの生活にいかなる影響をもたらすのか、そしてシニアライフにいかなる夢や安らぎをもたらすのか、シニアならずとも大きな関心事であります。近未来のITはシニアに優しいものとなり、社会参加を支援すると言います。

そこで、日々、パソコンやインターネットの安心と安全に取り組んでいる専門家から、今後の技術動向を踏まえながら、ユビキタス時代を生きるシニアのITライフがどうなるか、展望していただきます。

2月26日（木）

特別講演（14:00〜15:00）

『新しい時代のシニアネットとは－2010年代に向けて更なる飛躍を－』

吉田　敦也氏（徳島大学・総合科学部　教授、地域創生センター長）

我が国にシニアネットが誕生してから10年余りが経過し、昨年08年は古くからある老舗のシニアネットが続々と創立10周年を迎えました。この間、シニアへのIT普及等地域の情報化や活性化に大きな成果を挙げて参りました。少子高齢社会にあって、シニアパワーが社会を牽引し、変えていくことが期待されている中、かかる「シニアネット」こそ、その牽引役を担っていただけるのではないかと思っております。

団塊の世代が続々定年を迎え、65歳以上の人口が急増する2010年代を間近に控え、これからの社会に相対するにシニアネットもまた進化することが求められているのではないかと思います。

そこで、シニアネット等市民活動に大変造詣が深く、自らもシニアネットの責任者としてその設立や運営に関わるなど実証的な研究活動も行ってきておられ、この分野の第一人者であります学識経験者より、新しい時代に相応しいシニアネットのあり方について展望して頂きます。

パネルディスカッション（15：10〜17：45）

『シニアが変わる、地域が変わる、シニアネットの更なる飛躍』

（コーディネーター）

吉田　敦也氏（徳島大学・総合科学部　教授、地域創生センター長）

（パネリスト・五十音順）

斎藤　富士夫氏（NPO法人　湖南ネットしが　理事長）

塩見　信雄氏（NPO法人　シニアネットひろしま　理事長）

砂川　正男氏（NPO法人　沖縄ハイサイネット　会長）

中西　建策氏（NPO法人　おおさかシニアネット　副理事長）

柳原　正年氏（富山社会人大楽塾　代表）

我が国にシニアネットが誕生して以来、10年余が過ぎ、この間多くのシニアネットが全国に誕生し、各地でシニアの情報リテラシー向上を通してその活性化や地域の情報化促進等有意義な活動を展開し、大きな成果を収めてきております。少子高齢社会だからこそ、シニアが主役となって地域を盛り立てて行くことが求められている中、多くのシニアが集う「シニアネット」が、その牽引役を担うことが期待されております。

団塊の世代がシニアの仲間に加わろうとしている等、新しい局面を迎えようとしております今日、2010年代の新しい時代におけるシニアネットのあり方について議論することは極めて意義のある重要なことと思います。

そこで、各地で活躍中のシニアネットの代表者にお集まりいただき、これまでの経緯を振り返る中、次の10年に向けて、シニアは、そしてシニアネットはどう変わり、どう進化すべきか大いに論じて頂きます。全員参加で大いに考えましょう。

2月27日(金)

ワークショップ(10:00～13:00)

【テーマ1】「シニアの生き甲斐を創出、魅力あるシニアネットとは」

課題提供者:福森　宏昌氏(NPO法人　シニアネット光　代表理事)
小池　達子氏(メロウ倶楽部)

高齢社会において、シニアが地域でこそ最大の社会的資源である言われておりますが、とりわけシニアネットは、その活動実績等を通してシニアの良き拠り所、資源の源泉として大きく期待されております。多くのシニアの方々は、自ら"地域デビュー"を果たし、シニアライフを豊かで実りあるものにしたいと切望されておりますが、それを実現する場としてシニアネットは大きく期待され、実際、その役割を果たして参りました。高齢化がますます進む中で、かかるシニアネットが全国津々浦々にあって、シニアが地域で生き生きと暮らしている、そうした姿を創出していくためにより一層の普及と拡充を図る必要があります。ここで、これまでの活動を踏まえ、ますます多くのシニアがシニアネットに参加し、生き生きと活動できる魅力あるシニアネット像を皆で考え、実現させていくことは大変意義深いことと思います。

そこで、我が国のシニアネットの老舗中の老舗であり全国ネットで活動を続けております「メロウ倶楽部」と山口県全域のシニアのためにと目して活動している「NPO法人シニアネット光」よりお話しいただく中、シニアが喜んで参加する魅力あるシニアネットとはどのようなものか、団塊の世代の参加を視野に入れながら、今後の姿を探って参ります。

【テーマ2】「シニアの豊かな経験を地域に活かす、事業型シニアネットのすすめ」

課題提供者:堀池　喜一郎氏(NPO法人　シニアSOHO普及サロン・三鷹　顧問)
細内　信孝氏(コミュニティ・ビジネス・ネットワーク　理事長/
コミュニティビジネス総合研究所　代表取締役所長)

永年培ってきた知識・経験・ノウハウや知恵を生かして社会のお役に立ちたい、出来る限り生涯現役でいたいという意欲を持ったシニアは大勢おります。そうしたシニアの強い意向を反映してか、コミュニティ・ビジネスを主な活動とする「事業型」のシニアネットが増えつつあります。まさに「人材の宝庫」であるシニアネットだからこそできる活動であると言えます。厳しい世の中を迎えて、こうした「事業型」シニアネットへの関心はますます高まっていくものと思っております。

そこで、「事業型」シニアネットの草分け的存在で我が国を代表する「NPO法人シニアSOHO普及サロン・三鷹」とコミュニティ・ビジネスを提唱し、その活動のサポートをしている専門家より具体的な実践に向けた提言や課題をお話しして頂き、参加者全員で「事業型」シニアネットやコミュニティ・ビジネスへの取り組み方について考えて参ります。

2月27日(金)

【テーマ3】「シニアへのIT普及活動の更なる飛躍に向けて」

課題提供者:山崎　憲一氏(シニアネット米子　理事長)
　　　　　　秋山　幸彦氏(NPO法人　シニアネットいぶり　理事長)

　シニアネットは、その本業とも言える「IT講習」をベースに地域社会の情報化、とりわけシニアの情報リテラシー向上を促進し、社会に活力をもたらしております。シニアネットならではのきめ細かな教え方や仲間同士で楽しく、気楽に学び合える雰囲気がシニアに喜ばれ、IT普及に今や必要不可欠な存在と言っても過言ではありません。自治体との協働も進み、地域ITリーダーとして地域への貢献も大きなものがあります。

　これまでの様々な活動によりシニアのIT人口は年々増加しているとは言うものの未だシニア全体の十数パーセントに留まっているとのことで、残念ながらまだまだ少ないと言わざるを得ません。今後は、まだパソコンに触ったこともないといったシニアへの普及が課題となるなど、新しい状況に対応していく必要があろうかと思います。

　そこで、鳥取県米子市や北海道室蘭市を核に活躍している「シニアネット米子」や「NPO法人シニアネットいぶり」の活動を通して、こうした状況を踏まえながら、シニアへのIT普及はこれからどうすればいいか、より良いIT講習の方法等も含め、全員で考えていきたいと思います。

【テーマ4】「社会貢献はシニアネットの使命、行政との協働を促進」

課題提供者:小笠原　章氏(徳島県県民環境部地域振興局地域情報政策課　課長)
　　　　　　中司　和雄氏(NPO法人　あいてぃ塾ぐんま　理事長)

　多くのシニアネットは自ら持てる力をシニアのために、地域のために何かお役に立ちたいと熱い想いを抱き、活動を展開されております。シニアネットがその活動を通して社会に貢献しようとするとき、関係自治体や企業等と協働(コラボレーション)して事業を展開することは極めて重要であります。一方、少子高齢化と高度情報化が同時進行する社会にあって、自治体にとっても、電子自治体や地域の情報化促進等の諸政策を進める上で、シニアネットやシニアの豊富な経験や優れたノウハウを活用することは重要な要素となってきております。シニアネットの提案を政策として実現するなど今や、両者の協働(コラボレーション)は必須と言っても過言ではありません。

　そこで提案型で県との協働事業を展開するなど行政との連携を通して地域社会に貢献している「NPO法人あいてぃ塾ぐんま」や県の情報化を促進するための人材育成として地域ITリーダー養成をシニアネットと協働で進めている「徳島県」から課題を提供していただき、かかるコラボレーションを一層促進するための方策等を考えて参ります。

2月27日(金)

【テーマ5】「シニアネットの運営を究める」

課題提供者:大林　依子氏(いちえ会　主宰)
中島　敬也氏(熊本シニアネット　代表)

シニアネットの活動がシニアを元気にし、地域に活力をもたらすものとして各地で大きく評価されてきており、今後もますますその活動が注目されていくものと思います。その為、シニアネットが常に進化し続け、いつまでも元気に活動を続けていくことが肝要となって参ります。ここで、組織・活動形態・資金・会員規模等々シニアネットの運営のあり方について、これまでの活動の実態を踏まえ、抱えている課題について皆で考え、そして今後の運営のあるべき方向について皆で議論することは極めて重要なことと思います。

そこで、全国でも草分けのシニアネットで、自由な雰囲気の中で楽しく活動している東京の「いちえ会」や県内各地にサロンと称する支部を設け、本部の統制の元、地域に根差した活動を展開している「熊本シニアネット」から課題を提供していただき、参加者全員でシニアネットのより良い運営のあり方を究めて参ります。

シニアネット交流広場(13:00〜15:45)

全国各地で活躍しているシニアネットの活動状況を展示しあい、参加者同士フェース・ツー・フェースで意見交換し相互交流を深めていただく場と致します。また、協力企業のお役立ちコーナーも設けております。これまで多くの参加者から大変ご好評を頂いており、皆様の今後の活動に必ずお役に立つものと確信いたしております。自治体や企業の方も是非、お立ち寄り下さい。
なお、全国のシニアネット等におかれましては、出展のご応募をお待ちいたしております。

「シニアネットフォーラム21in 関西」における風景。
約20のシニアネットや協力企業等が出展され、参加者同士、熱い意見交換や相互交流が行われました。

シニアネットフォーラム２１in 東京　２００９
アンケート

財団法人 ニューメディア開発協会

より良いフォーラムにするためアンケートにご協力をお願い致します

１．どのプログラムが参考になったでしょうか。参考になったものに○をつけて下さい。
イ．基調講演１
ロ．基調講演２
ハ．特別講演
ニ．パネルディスカッション
ホ．ワークショップ（参加されたテーマ：１　２　３　４　５）
ヘ．シニアネット交流広場

２．「シニアネットフォーラム２１in 東京　２００９」に参加された動機についてお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。
イ．ご自分のシニアネットでの活動に役立てるため
ロ．シニアネットの設立に役立てるため
ハ．シニアネットに参加するにあたって役立てるため
ニ．シニアネットについて詳しく知るため（以下にその目的等をお聞かせ下さい）

ホ．その他（出来るだけ具体的にお願い致します）

３．「シニアネットフォーラム２１in 東京　２００９」に参加されて、シニアネットという組織とその活動について、理解は深まりましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。
イ．シニアネットについての理解が非常に深まった
ロ．シニアネットについての理解が深まった
ハ．あまり理解が深まらなかった（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

ニ．全く理解できなかった（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

4.「シニアネットフォーラム２１in 東京　２００９」に参加されて、ご自身シニアネットにどのように関わっていきたいと思われましたか。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。

イ．既にシニアネットで活動しているが、さらに活発に活動したい
ロ．シニアネットを自ら設立し、始めてみたい
ハ．身近なシニアネットに参加してみたい
ニ．別段関わっていこうとは思わない（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

ホ．参加すべきかどうか、よくわからない（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

5.「シニアネットフォーラム２１in 東京　２００９」全体について、ご感想をお聞かせください。あてはまるものにひとつだけ○をつけてください。また、ご意見等がありましたら、是非お聞かせ下さい。

イ．今後の活動や設立・参加のために大変役に立った
ロ．今後の活動や設立・参加のために役に立った
ハ．あまり参考にならなかった（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

ニ．全く参考にならなかった（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

■ご意見・ご意見欄

6．行政や企業関係者の方にお願い致します。

今後、諸施策、諸事業を展開するにあたり、シニアネットとの協働（コラボレーション）を、どのようにお考えでしょうか。

イ．是非、協働していきたい（分野等：　　　　　　　　　　　　　　　　　　）
ロ．協働出来るところがあれば、していきたい（分野等：　　　　　　　　　　）
ハ．今のところ、考えていない（下の欄に具体的に理由をお聞かせ下さい）

■シニアネットとの協働についてのご意見（出来るだけお願い致します）

７．「シニアネット交流広場」（展示コーナー）はいかがでしたでしょうか。ご意見やご感想をお聞かせ下さい。

８．今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るため「シニアネットフォーラム２１」は、どうあるべきか、具体的なご意見をお聞かせください。

９．今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るため「シニアネットフォーラム２１」を含め、どのような活動を行う必要があるか、ご意見を具体的にお聞かせください。

１０．あなたご自身にとってシニアネットはどのような存在でしょうか。一言で結構ですので、お願い致します。

１１．あなたご自身のことについてお聞きします。

①性別：　男　　女　　　②年齢：　　　歳

③ご住所（市区町村まで）：　　　　　都・道・府・県　　　　　　市・区・町・村

④所属（該当するところを○で囲んで下さい。職種は差し支えない範囲でお願いします）

イ．シニアネット（含むＮＰＯ法人）

ロ．ＮＰＯ法人等各種団体、グループ（シニアネット系以外）

ハ．行政機関（ご担当分野：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

ニ．民間企業（ご担当分野：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

ホ．自営業（職種：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

ヘ．どこにも係わっていない（個人）

ト．その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

⑤パソコン経験年数：約　　　年

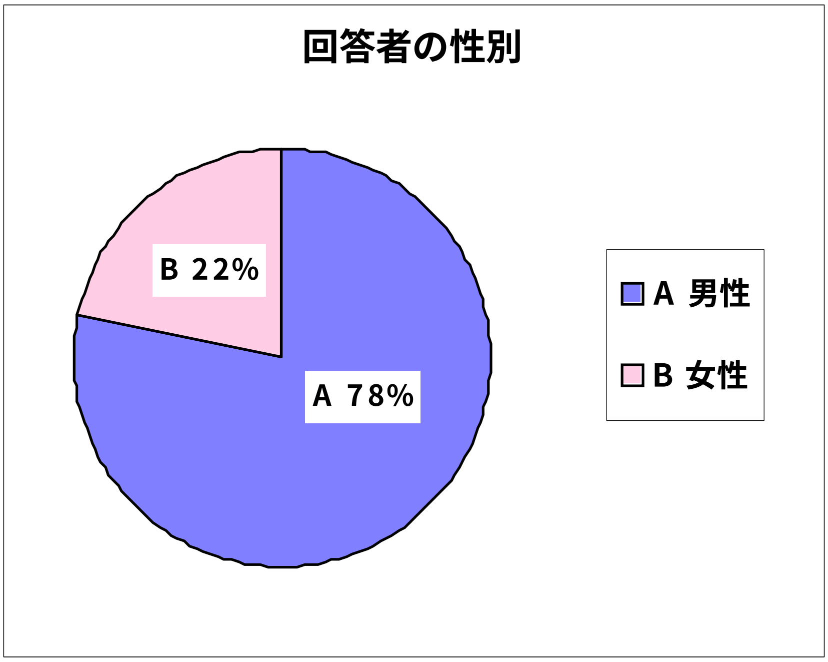
⑥生活の中でパソコンをどのように利活用していますか。また利活用したいですか。ご自由にお書き下さい。

アンケートはこれでおしまいです。どうもご協力有難うございました。

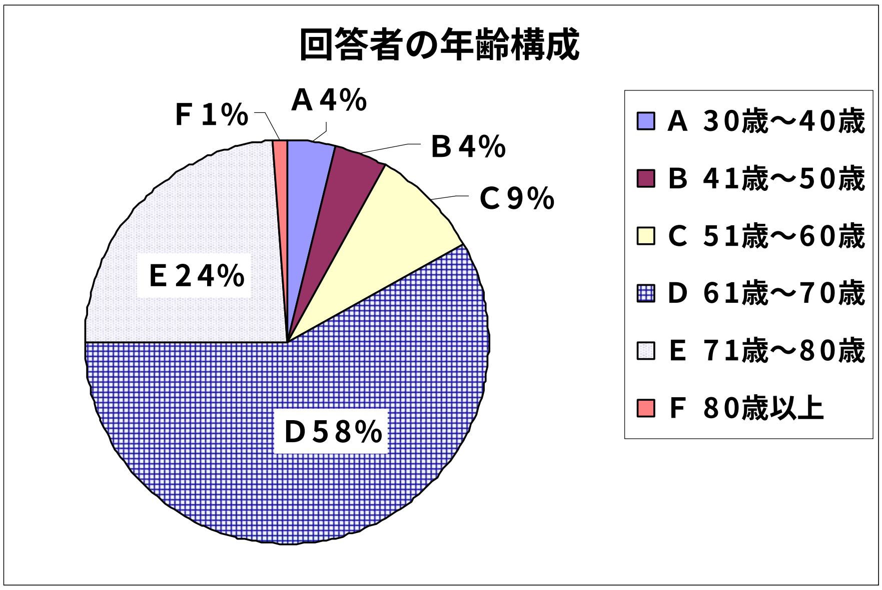
シニアネットフォーラム 21 in 東京 2009
アンケート調査結果

Ⅰ　回答者の属性

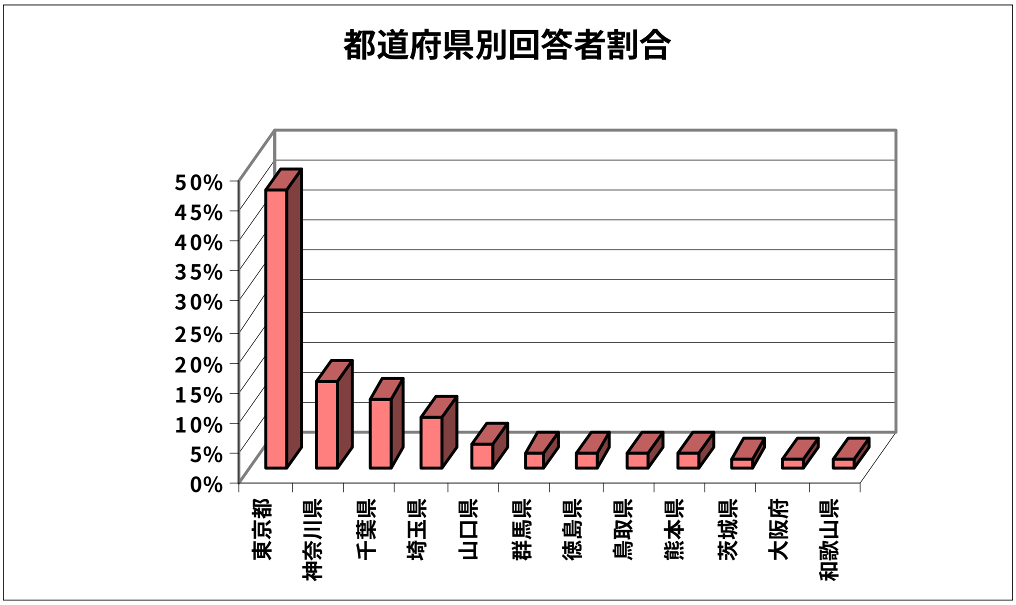
(1) 回答者の性別　(アンケート No11 の①)



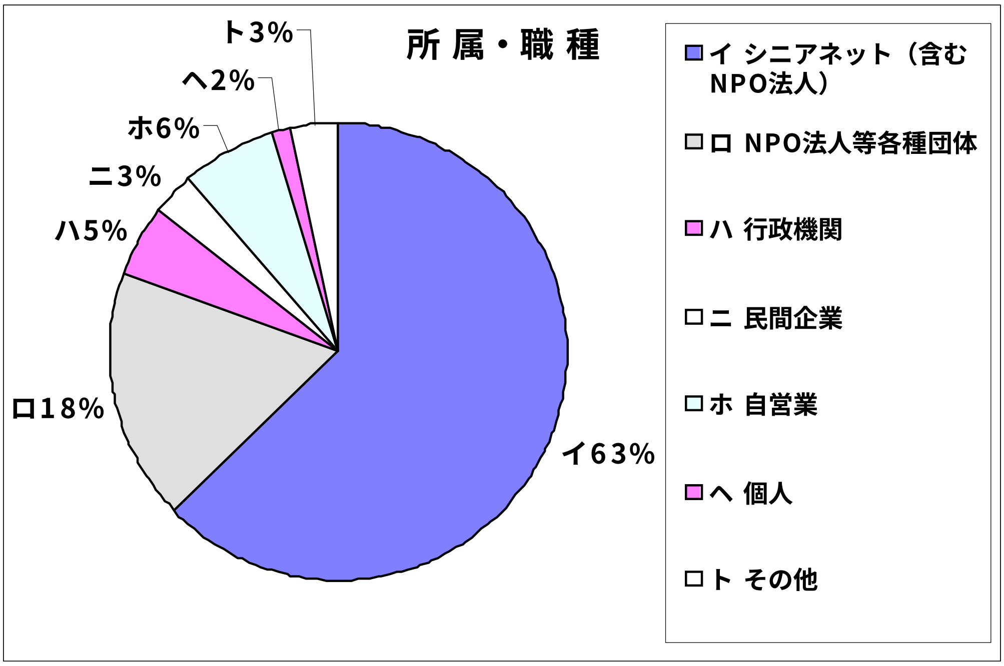
(2) 回答者の年齢構成 (アンケート No11 の②)



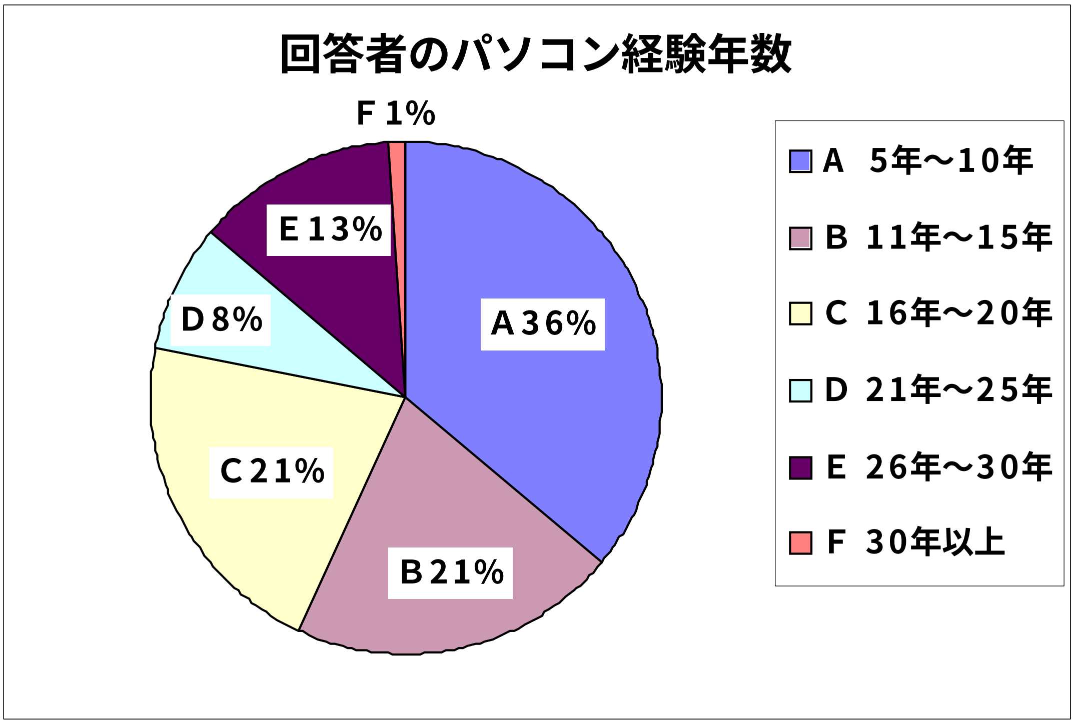
（3）都道府県別回答者（アンケート No11 の③）



（4）回答者の所属及び職種（アンケート No11 の④）



⑸ 回答者のパソコン経験年数（アンケート No11 の⑤）

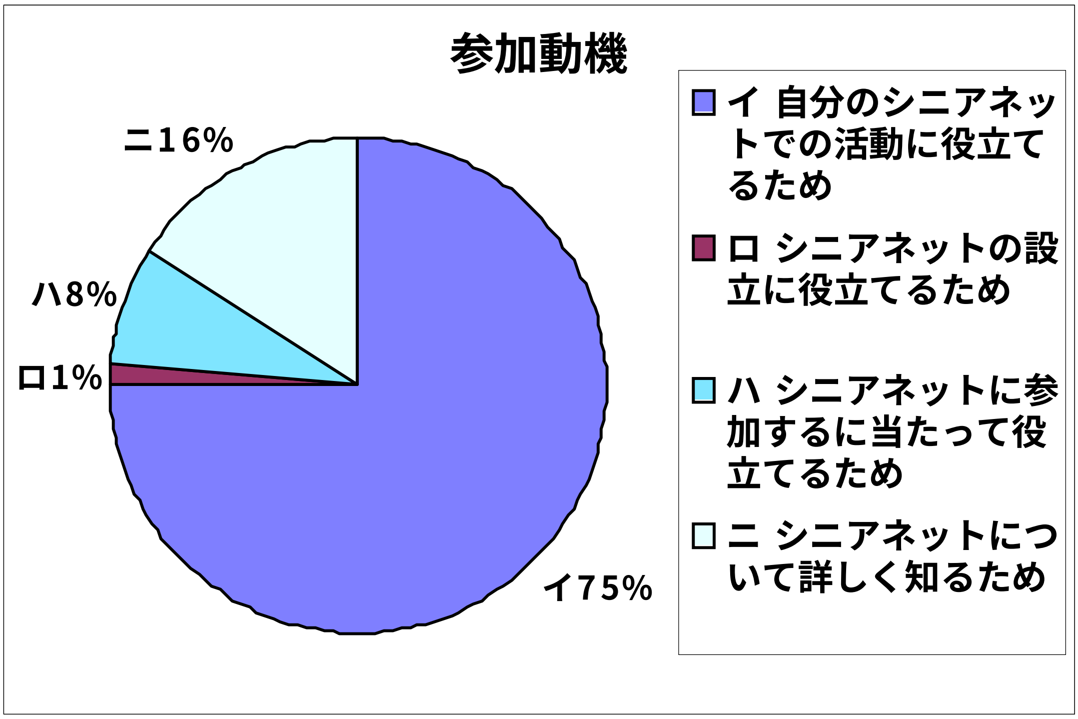


Q　生活の中でパソコンをどのように活用していますか。また、どのように活用したいですか。（アンケート No11 の⑥）

- 社会活動に不可欠と思っている。日常的活動の道具として利用。
- インターネット・メールの活用、講習会等で指導教育に活用。
- マルチメディアの編集加工、会計処理など仕事で活用。
- ドキュメントや譜面の作成など趣味に活用。
- ネットオプション・チケット・音楽購入・情報検索。
- ホームページの作成、ネット銀行、株取引等
- シニアパソコン教室での活用。
- パソコンは生活の一部である。
- パソコンに溺れない IT 生活をしたい。
- 新技術を学習したい。

Ⅱ　調査結果【設問への回答結果の主なもの】

2.「シニアネットフォーラム 21in 東京 2009」に参加された動機は。（アンケート 2）



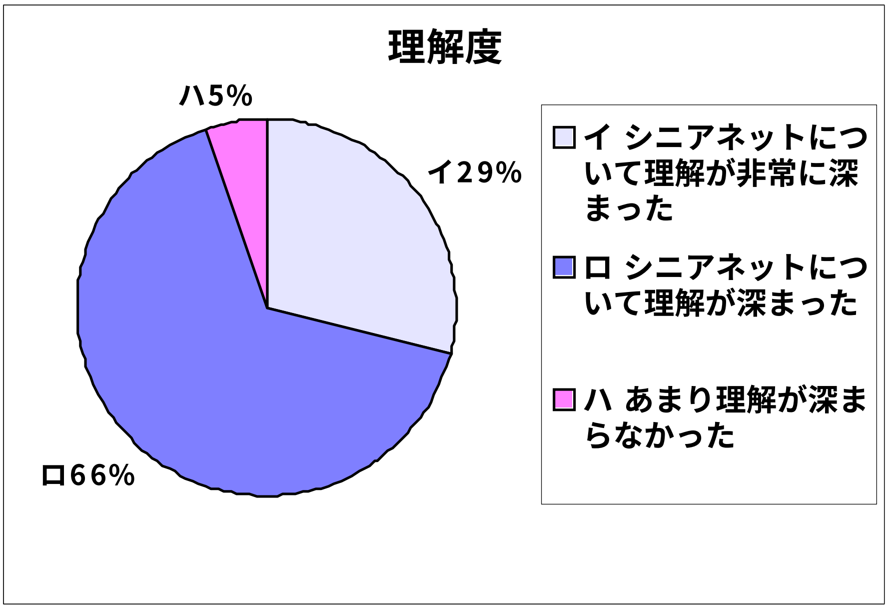
Q 二のシニアネットについて詳しく知るための欄に記入された事項。

（アンケート No2 の二）

- SNF がどんなものか知るために参加した。
- マンネリ化（シニア情報生活アドバイザー）の前向きな方向に進むため。
- 構成メンバーの永続性と活性化のため。
- IT 講習会は軌道に乗っているが、それ以外のシニア向けの行事・催しをいかに立ち上げ、継続していくか知るため。
- シニア向け講座を地元シニアネットにお願いするに当り、シニアネットの全国の状況を知るため。（行政職）
- シニアを結集する方法を知るため。
- 市民活動を支援する視点から、情報交換システム（SNS など）構築の参考にするため。（行政機関）

- シニア向けビジネスを検討中で、シニアとIT についてシニアネットの活動を知るため。
- 現在活動中のシニアネットの現実的な問題、課題、悩みなどを知るため。
- 和歌山県において、来年度実施を予定している、過疎地域居住の高齢者向けIT 利用促進策に役立つ情報を得るため。（行政機関）
- 大学院での研究に役立てるため。
- 他のシニアネットワークの方々から話を聞くため。
- 地域の防犯パトロールの会の運営、広報活動の参考にするため。

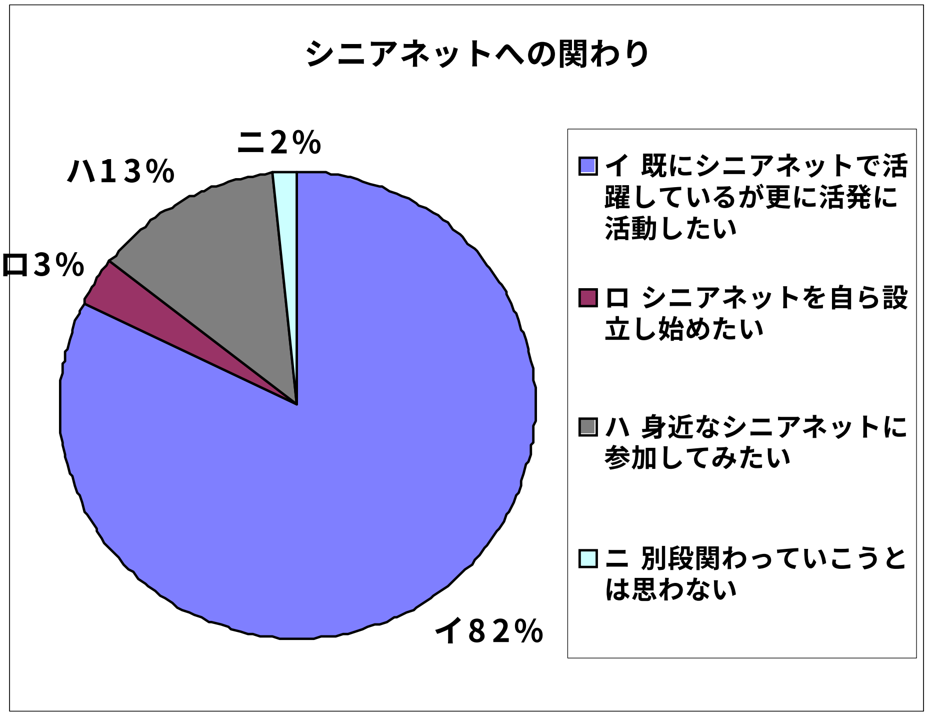
3．シニアネットフォーラム 21in 東京 2009 に参加されて、シニアという組織とその活動について、理解は深まりましたか。（アンケート 3）



この項目に記載された意見

- その地域によって異なるが、事例を知っていれば類似の状況になった時に参考にさせて頂く。
- シニアネットよりも SNF がどんなものか理解できた。
- 会の運営は毎年良く反省し、向上しなくてはいけないと反省させられた。

4.「シニアネットフォーラム 21in 東京 2009」に参加されて、ご自身のシニアネットにどのように関わっていきたいと思いましたか。



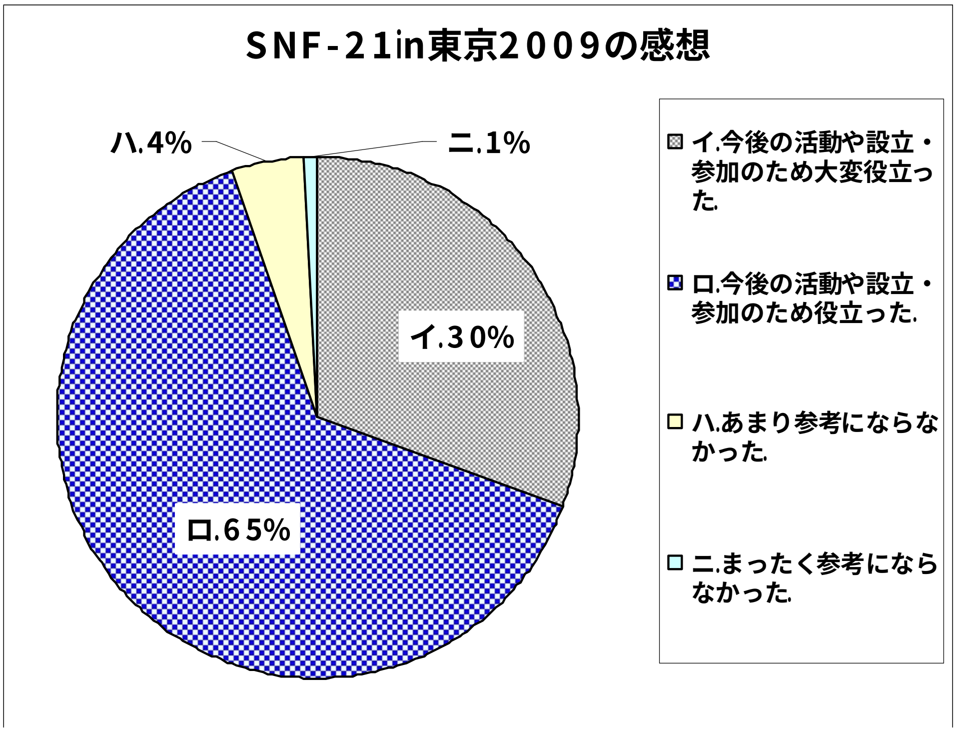
イの意見：

- プレーヤーとして活動できる分野があるが、
- 活動といっても現在はスキルアップのため勉強をしている。
- 地域ボランティア活動に IT 技術を利用する。

ホの意見：

・シニアネットとひとくくりに出来ない多様性を持っている。
それぞれがネットを使い、交流を深めることでよいのではないか。（行政職）

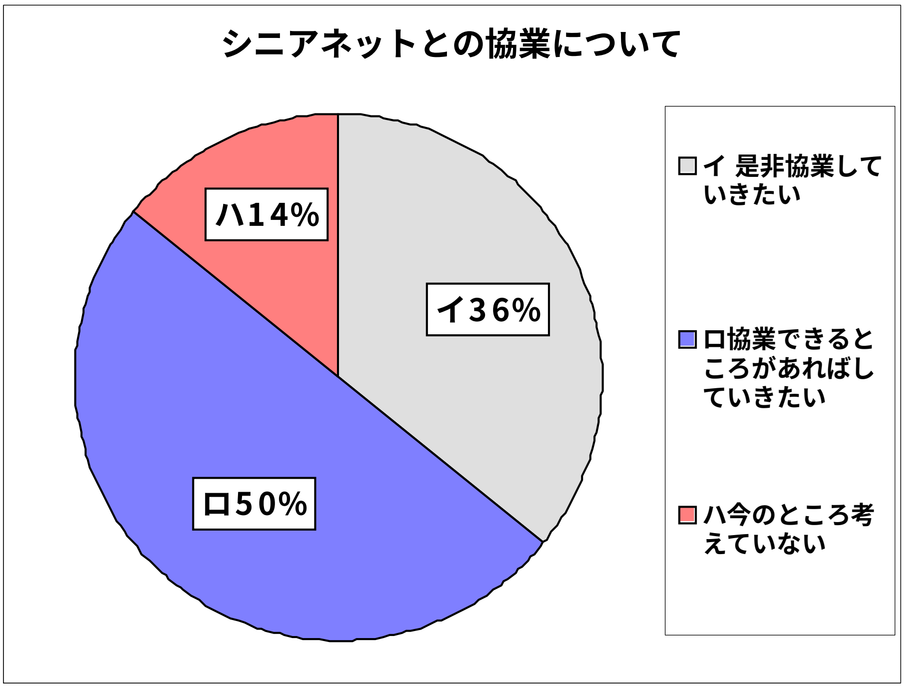
5.「シニアネットフォーラム 21in 東京 2009」全体について、ご感想をお聞かせ下さい。



意　見：

- 講師先生その他、前回と同じような方が多くて少し不満です。もっと違った分野からの講師をお願い致します。
- 県の施策の参考になった。具体的にシニアの方々がどういう活動をしているか良くわかった。（行政職）

6．行政や企業関係者の方へ。　今後、諸施策、諸事業を発展させるにあたり、
シニアネットとの協業（コラボレーション）を、どのようにお考えでしょうか



ハの意見：

- 役所は、ネット活用の多様性を認めていないように見られる。
- 民間それぞれの可能な活動をすればよいのでは。（行政職）

シニアネットとの協業についての意見：

- 地域自治体の広報誌に催し物の記事（予定）が掲載されるか否かで集客力が大きく左右される。少々の営業力では及ばない。
- 先ずは自分の NPO を充実させる。
- 現にやっているが予算的にも効果が出ている。（行政職）
- ヒヤリング相手となって頂けるとありがたい。（行政職）

7．「シニアネット交流ひろば」（展示コーナー）は如何でしたでしょうか。

- 活気あるブースが良かった。
- 狭いスペースに展示されていたが、各々の思いが伝わってきた。
- 各ブースに特徴が出ていて楽しかった。
- パネル展示以外に映像展示もあり良かった。

・ 自分がシニアになったとき、こんなに元気でいられるだろうかと思った。
仲間がいるということは、大きな財産であると思った。
・ それぞれ工夫された展示品で十分参考になった。
・ ワークショップ参加者のコーナーがあり理解が深まった。
・ 他の団体の動きが解って参考になった。
・ 各シニアネットの活動が見ることができてよかった。
・ 皆さんそれぞれ工夫を凝らして、バライティーに富んだ展示で、大変楽しく
拝見させていただきました。
・ 良い企画と考えている。
・ 素晴らしかった。携帯電話講習会を我々もやってみたい。マイクロソフト
から有益な情報を頂きました。
・ 具体例が大変役にたった。
・ 今年は特に場所も広く内容も良かった。
・ 1 日目も展示コーナーやってくれた方が良い。

8．今後のシニアネットの活性化や普及拡大を図るため
「シニアネットフォーラム 21」は、どうあるべきか。

・ IT に必ずしも限定しないシニアネットの流れも話題にして欲しい。
（今日の柳原正年氏の福祉文化はポイントだと思っている）
・ ローカルに於いて、スモールスケールの開催が出来ると良いですね。
（例えば藤沢にて）
・ 企業や行政担当者の参加を増やした方が良いと思う
・ 産学官の統合した仕掛けが必要。
・ 年一回は？
・ 全国展開、横の繋がりを強化すべき。
・ 活動内容が見えるよう日頃から PR する。
・ シニアネットのリーダーに計画運営への参加を促進すること。
・ 行政とのタイアップに関し中央から地域レベルに提言して欲しい。
・ 各ネットの連携を強化する。
・ ネットだけでなく顔を合わせて意見交換することが非常に有益である。
これを続けて欲しい。
・ アドバイザーの地位向上を。
・ シニアネットは単に IT とか ITC の分野に特化するのでなく、環境・介護
福祉などのコミュニティービジネスに力を注いでいく方が良い。
・ 団塊の世代以降の世代は、組織に入りたがらないので、工夫し取り込む。
・ さらに発展していくでしょうが、団塊の世代との融合が不可欠。
・ 継続し実施してもらいたい。
・ 具体的な活動を推進して欲しい。（今は少し観念的な活動に終わっているようだ）
・ 底辺の拡大、ピラミット型の組織となると大きな力（影響力）が出るのでは。

- IT 教育が中心になると思いますが、講習会の人集めに問題があるようです。
  ニーズが本当にないのか、調査が必要である気がします。
- 活動の事例を詳しくする。

9．今後、シニアネットの活性化や普及拡大を図るため「シニアネットフォーラム 21」を含め、どのような活動を行う必要があるか。

- IT 講習会を行政がきちんと成功させないで終わらせたので、シニアのパソコンは「解らない」「もう出来ない」と思わせてしまった。これからは、そういう人の救済を考えながら活動していく必要があると思う。
- 広報に力を入れる。
- カリキュラム作りに苦労している部分があります。カリキュラム作りのノウハウなどを知りたいので情報交換を希望します。
- IT のデモストレーション（一般を対象とした）の開催。
- 進歩・改革の為には、PDCA をまわす事が必要。問題点を抽出し反省の改善点などを提示されてはと思う。
- あるかどうか解らないが、県ごとのネットワークの構築。
- 公共機関との連携を強化し、PR 活動を能動的に。
- シニアネット活動も下り坂を向かえたように感じますので、私自身必死に打開策を考えている最中で、なかなか良い思案も浮かびません。
- シニアネットの全国組織。
- 行政との協働。
- 今で十分と思います。
- ICT 活動と平行して生活密着をどう結びつけるか、活動を展開していく必要を感じた。
- ウエブ サイトの充実と活性化。
- PR。
- 吉田先生の提案のように、拠点作り、運営母体作りをまず手がけるべき。
- ナショナルレベルの活動、グローバルレベルの活動。
- パソコンを趣味的にどのように活用するかの考案。
- 行政機関からの PR と支援、
- IT ばかりでなく福祉・健康アドバイザーの育成も。
- マスコミの活用（新聞 TV など）
- 産学官の全体会議的な性格を持たせる。
- 団塊世代の取り込み。NPO 法の制度の見直しを図る。（働きかける）
- 介護の世界とシニアネットとの関連付けが重要であると感じる。

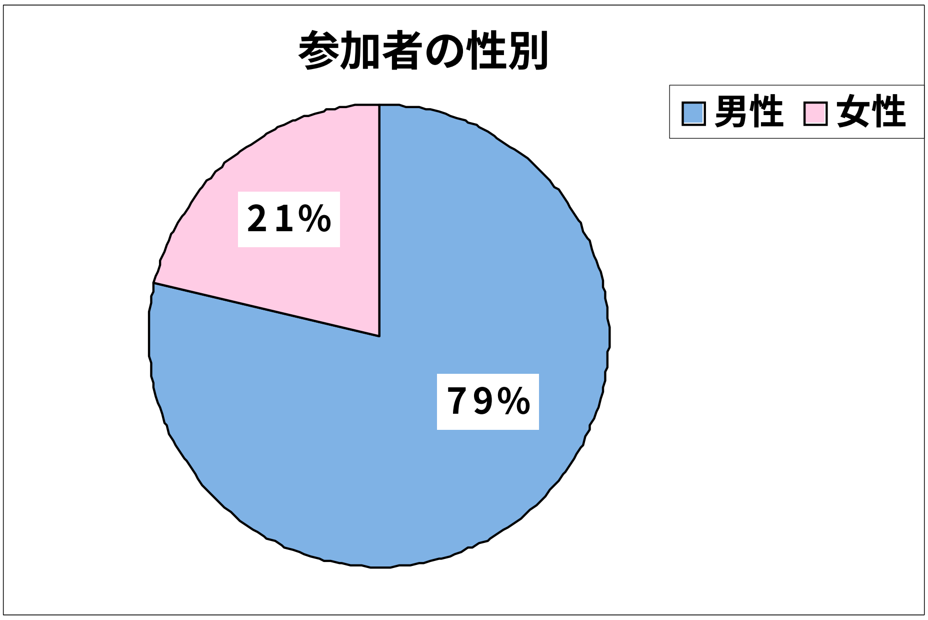
１０．あなた自身にとってシニアネットとはどのような存在ですか。

・セカンドライフを楽しみ、地域貢献、地域の活性化、Community Network Platform の構築を目指す。（地域資源の有効活用）
- 便利なコミュニケーションツール。
- 楽しい仲間です。
- 会社でない社会的居場所。ボランティア感性養成。
- 自分を発信するためのスキルアップを勉強できる場所。
- 無職の身での社会との繋がり。
- 生甲斐。
- PC 塾以上。
- 情報交換の場。
- 今のところシニア情報生活アドバイザーとしての接点だけの存在。
- 自分の時間を楽しく使う。
- もっとも頼りになる存在。
- 社会参加、社会貢献の具体的な方策である。
- 自己実現。
- 情報交換の半分以上はネットを通じて得たものです。
- 生活に必須なシステム。
- これからに人生「生甲斐」に繋がって行くと思う。
- 自分の居場所。
- シニアライフにとって重要なもの。
- 自分の分身のようなものです。永く続いて欲しいです。
- 世のため、人のため、自分のための場。
- 第二の人生の柱。
- 活動の二分の一を占めている。
- 素晴らしい仲間作りの場。生甲斐作りの場。
- 年一回のデビュー機会である。
- 中高年の参加の場。
- 情報の宝の山。
- 仕事に近くなってます。
- 時間つぶしの道具。
- 楽しい仲間の集い。
- 生甲斐の一つ。

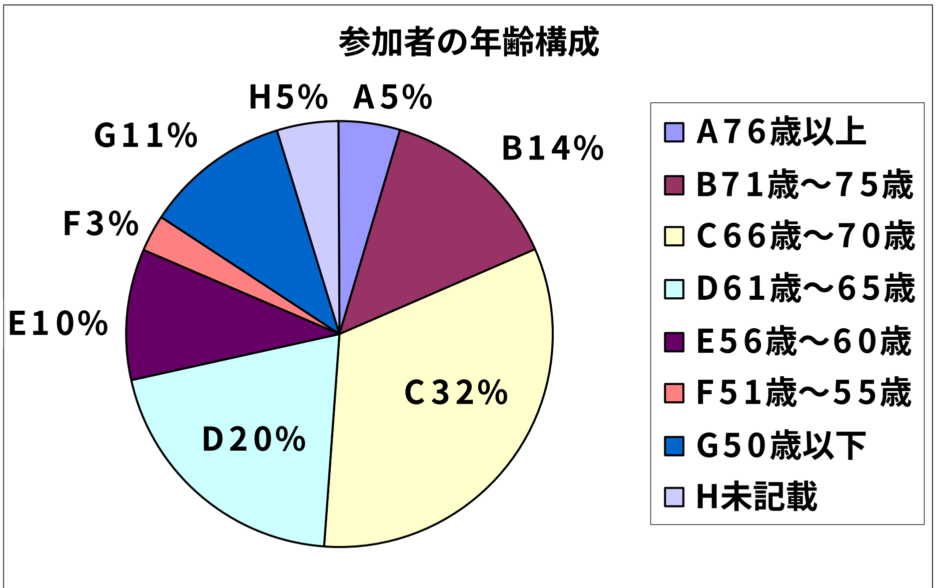
参加者のデータ

【フォーラム参加者の属性の集計結果】

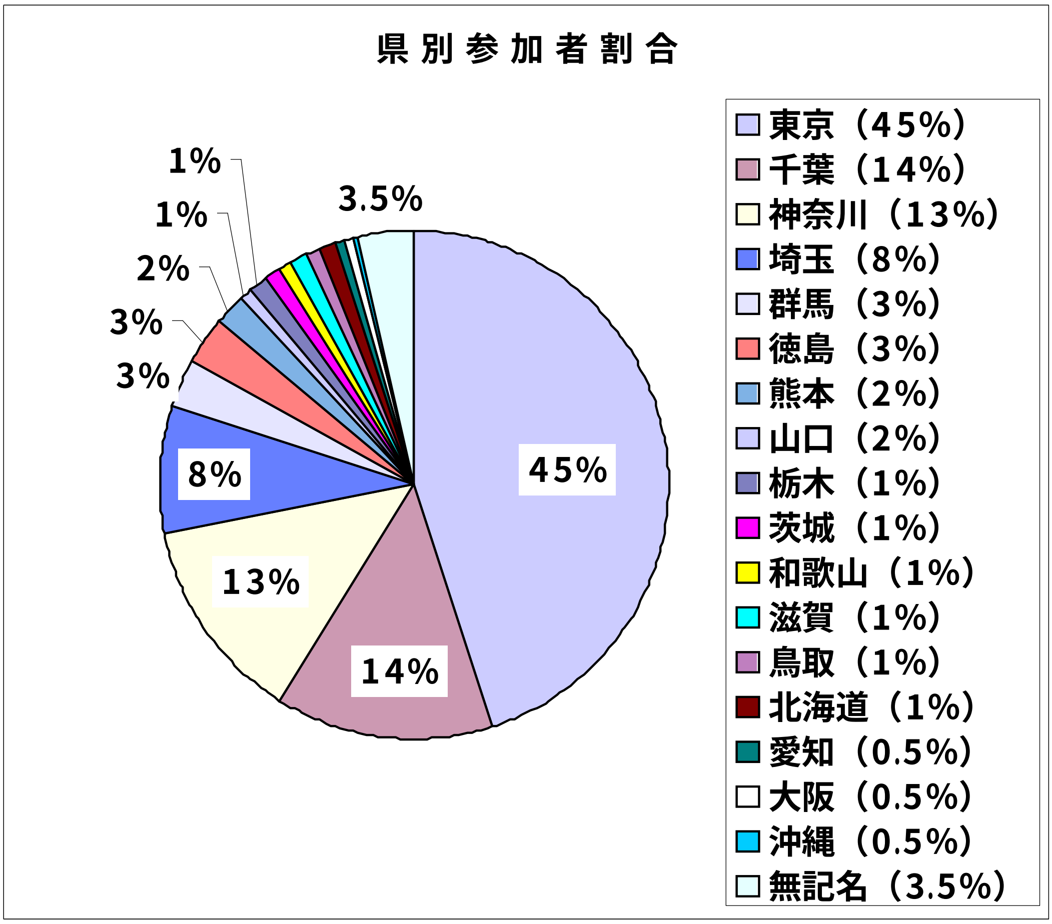
①参加者の性別割合



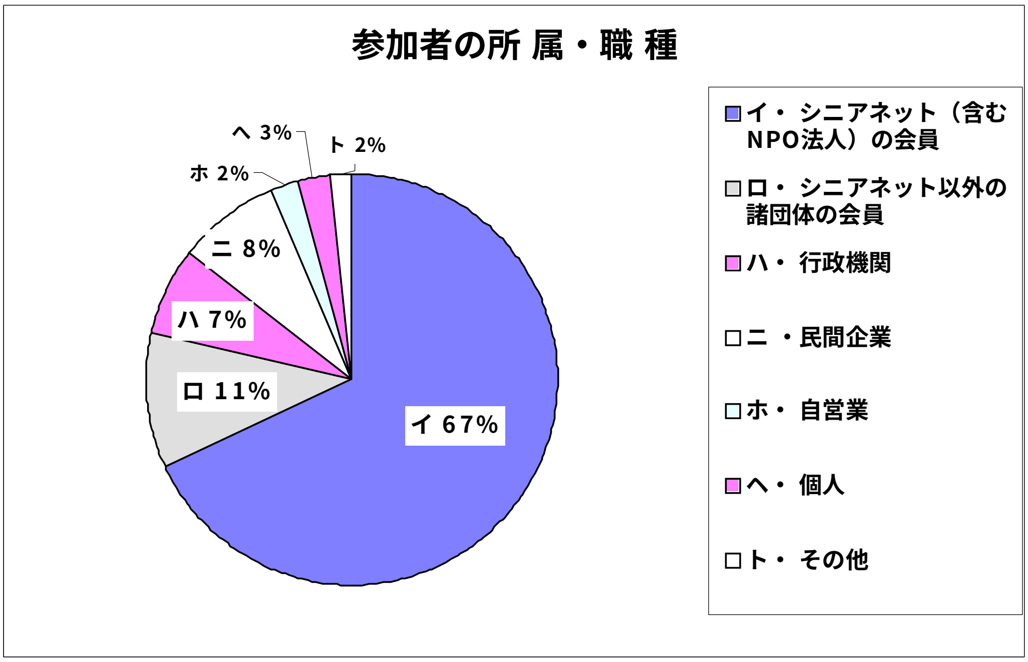
②参加者の年齢構成



③県別参加者



④参加者の所属



平成２０年度　シニアネット構築研究会
　　『シニアネット・フォーラム２１ in 東京　２００９』

報告書

編集・発行
財団法人　ニューメディア開発協会
　〒112-0014　東京都文京区関口一丁目４３番５号　新目白ビル６階

発行日　平成２１年年３月

KEIRIN 競輪補助事業